

天津より永昌 一八四五

兩線永昌に合して西し

永昌よりカシユガル 二六三〇

カシユガルよりカブル 一五〇〇

カブルよりバグダッドを経てトルコに入ることとなるのである。

本線中バミール高原は、ソ職と支那と印度との摩擦をさける爲め、アフガニスタンの領土として細長く新疆へつながれる廊下であるが、勾配一千分の十二・五を最高とする稀に見る難工事なるべきも、他は地形としては比較的難事でないとの事である。恐らく先づバミール高原を経由する飛行路は遠からずして開通するであらう。さきに東京オリムピック大會開催の準備の頃は、グリーキのオリムピアファイアは此の徑路によりて東京まで運ばんとする計畫もあつたのである。アジアの中央高原の開発も結局は時の問題であるが、今日より大いに研究をつづけらるべきものであつて、アジア高原の大きななぞはここにその緒口が開かれるべきである。

きである。

間宮海峽の埋立とキジ湖の運河

北樺太とシベリアのニコライエフスク間を貫く長細い間宮海峽、その昔三寸のわらぢで間宮林蔵が親しく踏破して発見した間宮海峽、此の海峽の埋立は寒流の南下をとどめ、日本海の温度を高めるから樺太北海道から東北北陸沿岸、沿海州一帯から北鮮方面へかけて氣候を緩和するであらう。浦麗で砕氷船など使ふ要は無くなるであらう。

殊に此の海峽の埋立と同時に考へられる事は黒龍江の下流キジ湖よりカバ灣又はデカストリ灣へ運河をつくつて——北樺太アルコワ灣への近路となる——黒龍江の水を間宮海峽の南部へおとす事である。それは、黒龍江及び支流の舟楫しゅうしやくの便を著しく増大する

黒龍江及び支流の水害を緩和する。

黒龍江及び支流に多くの新生地をつくる。

北滿の地はカナダのウインベッグ平野と、北米のミシシッピー流域とならびて世界の三大稿倉といはれてる。濕地の改善より七千萬人の住民を賄ひ、猶四千萬人の食糧を生産し得べしといはれてる。滿洲の現状は平坦すぎて洪水のあとでも容易に水が引かない。

ハルビン佳木斯間 四五一籽 標高約五〇米

佳木斯ハバロフスク間 五一五籽

ハバロフスク、ニコライエフスク間 九四五籽

乃ちハルビンから黒龍江河口まで延長千百キロメートル、その間標高百五十メートルといふのだから十二キロ強に一メートルとなる。これでは全く平面といつてよい。それだけにキジ湖からの運河の必然性が考へられる。

現にハルビンからさらに松花江をさかのぼり、吉林の郊外にダムをつくりて上流の水をせきとめ、そこに琵琶湖大の貯水池ができる。ダムの水は七十萬キロの

水力發電となる。下流では十六萬町歩の地は水害を免れ、七萬町歩の水田が開拓されるのである。

(拙著『滿洲移民』参照)

中華民國の度量衡制革新

中華民國に在りても蔣介石は生活改善を叫び、漢字の制限と整理、注音字母の制定等、家庭及び學校における革新により四億の民衆を先づ心の底から建て直しにかかつた。物的には道路鐵道自動車航空と交通政策につとめて、あの大きな支那を引きしめまとめにかかつた。何よりも通貨の統一に成功した。それは英國の支援によつたからではあるが、とにかく支那民衆の銀はあらひざらひ回収してしまつた。回収した銀はアメリカ等へ運ばれて在外正貨となり、今次の支那事變には大いなるものをいつた。その正貨の爲めに巨額の物資が求められ、さらに正貨の代りに握らせられた紙片に

すぎぬ、いはゆる法幣は、四億の民衆にとりては何よりのきづなである。これが只の紙切れになつてはたまらないといふ。此の紙幣に對する執着は、又自から蔣政權への大きな紐となり帯となつてるのである。

既に通貨の統制に手をつけるからは次で度量衡の統制にかかる事は當然の順路である。亂雜を極めた通貨が整理される。次で又亂雜を極めた度量衡の整理統制にかかつた。しかも通貨の統制には英國の力をまつたに拘らず、度量衡の整理統制にかかつた。しかも通貨の統制には英國の力をまつたに拘らず、度量衡にはヤードポンド制を拒否し之をメートル制にリンクした。

乃ち支那の標準制はメートルにより公尺公升公斤とそれぞれ公の字を冠じ、在來の尺升斤は市を冠し、一公尺は三市尺、一公升は一市升、一公斤は二市斤といふやうに市の尺升には多少の手加減を加へて、ある釣合のリンクを取つたのである。

もちろん蔣政權の精制改正の途上にある爲め今次の事變によ現地の軍の會計に關與せる人々は幾多の煩累

になやみ、さらに又メートル制によれる支那の現行制に對し、中には再び之を日本式の尺貫法に逆戻りし、軍隊慣用の疋による能はず、糧秣その他用度の調辨に過誤百出違算相次ぎ、少時にして正確に思ひちがひなく取引しうるものが、夜を徹して處理を了する能はず、經理官の生命たる迅速適確なる給養を實施して軍隊の行動を推進助長し、以て戰勝を誘引せんとすることが畫餅となりしことあり、それらを親しく經驗して、民國のメートル制にリンクせる事情につき、その経過及び批判を試みたる中井主計官の報告は、以て他山の石と爲すべきものであると確信する。

日本の度量衡についてはさきに委員會が設けられ、筆者は岡部會我兩子爵、長岡博士と特別に、次で圓卓の委員會を経て起草委員とまでなつたが、一面には軍部當局も言明せる如く、軍器その他はメートル制であり、又工業方面貿易關係等はメートル制であるべく、一面には神社その他は在來の尺貫制によるべきものがある。尺貫制そのものも支那方面より移されしもので

あるが、斤にしても土地により百目百二十目などくさぐさになつてゐる。これらは簡明に精一してその依るところを一にすべきであり、又六尺が一間、六十間が一町、三十六町が一里、その一尺にもカネ尺クジラ尺の外に長短の別があり、一里にも三十六町があり五十町がある。これらは整理されねばならない。同時にメートル制の何キログラム何センチメートルなどいふ此の稱呼の長々しい事は簡明でない。だから長岡博士の意見にもあつたが、もともと明治維新以前の尺貫は區々になり亂雜であつた。従つて相當思ひ切り手加減してメートル制にも同じ貫の名稱を踏襲し、中華民國の如く彼我リンクせしむるといふ事も一説であつた。此點に就ては大正八年の交、岡實君が商工局長時代に、メートル制の規格精一をはじめたが、その時加茂正雄博士の意見は矢張り日本の尺寸匁里等をつかふ、それ

四キロメートル 一里
二リットル 一升

一ヘクタール 一町
四キログラム 一貫
一メートル 四尺
二メートル 一間
といふやうに四捨五入して比率を簡單にしようといつた。それには複單位だといふ反對あり、只名稱のちがひにすぎぬといつたが行はれず、名稱もインターナショナルに彼の名稱をそのままつかふべしといふので加茂説は成立しなかつたといふ事である。太陽曆になつて一々月名を英語にする、週日制の月曜火曜といふ語を一々英語としてはとても普及しなかつたであらう。今日の民國のやり口は、この加茂博士と同じなのである。以て味ふべきであり、同じやうな事が日本の漢字の字音を發音通りにするとか、假名遣ひを簡易化實際化するといふ時にも、參考として大いに考へさせられる。之を要するに正確簡明となれば利便であり普及されやすい、他の國々も自からその利便に習ふことにならる。世界が狭くなればなるほど各國の關係が親しくな

ればなるほど、不便利なるもの複雑多岐にたるものはすたれてゆく、正確、簡明、利便なるものに流れてゆく。それだけに大東亞新秩序の建設にあたるものは高處に立ち百年千年の大計を樹立して、指導者たるの責をあげることにつとめねばならない。

(支那の度量衡制に就ては廣島縣佐伯郡御前村の中井主計中尉の報告書の一讀をおすすめする。)

地球と人類

自然科学の研究は地球及び人類の將來につき、どうした推論を見るであらうか。限りある地球上に限りなく人口が増してゆく、そこに物理の上から人類の將來に大きな行きづまりがある。たとへ人工の食料が無限にできても、食料のみによりて人類の生活が保證されるものでない。しかしそれは相當さきの話で、我等の生活しうる土地にしてからが、まだまだ廣大なる餘地

が残されてある。

陸地では南北兩極といふ大きなエッキスがあるが、それは除外しても、南米にしても、アフリカにしても中央アジアにしても、まだ手つかずである。これらの開發は科學の力に待たねばならぬ。又火星との交通などはユートピアとして問題の外におくとしても、大海原の底は無盡藏で、これ又科學の力を待つものである。さらに考へさせられる事は兵器彈藥類の發明である。我等が宇宙は六十四の元素よりなると教へられた時代から、元素の数は著しく増加したばかりでない。さらに元素の元をたづねて原子論がとへられ、その原子は陽電子を中心とし中性子がならんで、多くの陰電子が廻つてゐると説かれるのである。ここに電子論や熱力や電磁氣學が發達し、ドイツでは凡ての工業がその面目を一新してゐる。この電子の分解といふか電子のエネルギーの解放といふか、さうした事が又そこに驚くべき熱や力を生むといふので、さうした研究は日からはもとより世界各國で進められてゐるとの事であ

る。

いづれにしても新しき、より強い動力が生れてくるであらう、又くさぐさの働きをする光線も發見されるであらう。さうした事によつて軍事上の研究がその面目を一新さるべきであつて、我等は二トンの毒ガスを飛行機に積載し之を敵國の都市の上空より落下する、全市の生物は忽ちにして其の生命を失ふ事になるといふやうな話をかなり前から聞かされてゐた。もうさうした發明が出來てゐるのか、まだなのか、出來てゐてもあまりに非人道的だからといふので實現されないのか、いや生命を失はしめるのはひどいから一時知覺神經を麻痺せしめる事になつてるとか、くさぐさの流説は大分前から聞かされてゐる。恐らく遅かれ早かれ科學の發明はさうしたところまで來るのではなからうか。何百何千萬といふ人間を、一々穴へ埋める、海へ投げ込む、首を斬る、銃殺する、こんな事はどうしても實現性は無い。しかし毒ガスは一擧にして文句なしに片づけてしまふ。そんな事は將來絶対に無しとは斷言で

きないのである。少くとも世界の戦争はさうした科學の發明によりて終りを告げるのではなからうか、さうなると我等が筆に口にしてゐた人口問題も根こそぎ御破算になる時が有りうるのである。

筆者はいつも將來に通ずる科學の進歩の速度なり、又その動きにつき疑問を持つてゐる。それは過去の一世紀をかへりみると、科學の止むなき急激なる進歩は世界の文化を眼まぐるしく變轉せしめた。此の調子で今後とも發明に次々に發明を以てしたなら、今後の五十年百年の將來は多少とも夢にゑがく事もできるが、五百年、千年、二千年となると、どうなるのか？

地球は今から四十億年前に生れ、三十億年を経て單細胞の生物が發生し、三千万年前に猿類が生まれ、二千万年を経て類人猿が出来る。前の兩足が兩手となつて直立する猿人は百萬年前に發生し、我等人間の祖先は一萬年前に生まれたといはれてゐる。しかも人間の有史時代は今から五千年前であるが、歴史らしい歴史の傳へられるのは、わづか二千年前この方のことである。

そこで過去をさかのぼつて見ると、西洋の諺に、ハンニバルがアルプスを越えた時も、シーザーが越えた時も、ナポレオンが越えた時も、ヨーロッパの文化にかかりがない。

といはれてる。いかにも日本の歴史をさかのぼつても奈良朝も平安朝も鎌倉室町江戸時代も、其間の文化にかかりは無い。エジプト、アッシリア、バビロン、ギリキの古代に却つて輝かしい文化が残されてるやうに、我國の古代の建築美術などを見ても近く正倉院の御物を拜観してもうなづかれる。乃ち蒸氣電氣の發明されるまでは長い長い間を通じ文化にかかりはなかつた。いや時により多少の退化すらあつたのである。従つて將來も又ある期間は文化が退轉したり停滞する事があるのかも知れない。いづれにしても文化の眼まぐるしい進歩をつづける時代に生を享けてる。しかもそれが日本であるといふ事は、筆者などの只々冥加にあまつた事と感激あるのみである。

地球も太陽熱の減退、地心の冷却、輻射熱の放散、

軌道の變化、空氣の稀薄化、溫度の低下、空氣の組成の變化等により、人間の生存は次第に不可能となるであらう。又現在一億五千メートル隔つてゐる太陽によりても潮に干満の差がある位だから、數しれぬ彗星の一つが八百キロ位近くへ來ても、地球は破壊してしまふ、敢へてぢかに衝突するを待たないのである。さうした事態の發生を待たずとも、地球上に新大陸の發生とか、又現在の大陸の沈没といふ事も想像され、地上海上の異變により人類が滅亡する、又人間そのものの老衰といふ事が必然的に考へられ、さらに現代より勝れたる生物の發生によりて現在の人類が亡ぼされてしまふといふ事もありうる。

しかしさうした事はいづれにしても何十世紀、何百世紀、何千世紀さきの事か分らないから、今からやきもきするに當らない。それよりも手近いところでベルトローヤギップスやミッドグレー諸氏の未來の理想の樂士の豫言の方が愉快でもあり又實現性もあるが、しかし、何事も建設より破壊の方が手つ取り早い。病院

や貧民窟や刑務所も無くなり、人種の別も分らなくなる以前に人間同士の争ひがお互に一擧にして亡ぼし合ふ、さうした時代の方がより早く來るべき可能性が多い。人文と共に又自然科学の將來、特に兵器等に關する發明につき、關心は深からざるを得ないのである。

日本民族の使命

地球の人口約二十一億、その約三分の一の七億二千萬人の白色人種が、残りの十三億八千萬人の有色人種の大部分を支配してゐる。地域からいへば極地を除いた陸地の一億三千五百萬方呎の九割が三分の一の白色人種に支配され、三分の二の黄色人種はわづかにその残りの一割を支配してゐる。それも支那は半植民地として取扱はれ、民國政府の威令は新疆西藏方面には及んでゐないのである。

さらに現實にいへば、三十二萬人のイギリス人は三

億五千萬人の英領印度を支配し、二十萬人のオランダ人は六千萬人の蘭領印度を支配し、三萬人のフランス人は二千三百萬人の印度支那を支配してゐる。それは實力の差で如何んともしがたいといへばそれまでであるが、さうした状態は果して恒久的不變のものなのであらうか。

ここに日本民族の重大なる使命を感じざるを得ないのである。黄色人種は果して絶対に白色人種よりも劣つてゐるものであらうか。かつてはサラセン民族はスペイン、ポルトガルの地へ、土耳其帝國はバルカンへ進出した。蒙古は遠く軍を驅つて歐洲の天地を震撼した。

日本の地理的環境、その萬邦無比の國體は、我等國民に確乎不拔の信念を植ゑつけてゐる。極東の島嶼に隔在してゐるから、晏如として桃源の夢深くあるべきであるが、此の國民は實に敏感である。マルクス主義が主張される、共產主義が唱へられる、さらにファッショ又ナチスの運動が展開される、世界のいづれの土地に

現はれた動きも、すべて極東の一角に反映され衝動を興へる。しかも我が日本國體の特異性は失はれず、之を日本式に攝取し消化してゆくののである。

現状にありては大政翼賛會が創立され新體制にすすんでゆく。それは要するに現状の打破であつてその原因は支那事變にのみ歸する事はできない。支那事變は明かに物資の不足を來した。だから經濟から見た統制がある。しかし支那事變は片附いても、滿支に於ける治安の維持、産業の開發、文化工作から、我が國防經濟の樹立を思へば、新體制は絶對である、現状打破は必須である。

今や人と物とをいかにより多く供給し、いかに必要なる方面にその機能を發揮しうべきか、さうした目標に向つて社會のすべての部面が建て直されつつある。のであるいろいろと批判もある、我等は現時の状態を以て満足しない。しかし各國の革新に際せる事態に比し、又我が明治の維新にかへりみ、さらに江戸幕府以前の日本、又現時の歐洲の天地に想到すれば、昭和の

維新がこの程度に處理されつつあるといふ事はむしろうますぎるといつてもよい、我が國體のおかけといつてもよい。

白禍か黃禍か、明治維新の遷都

日本民族はくりかへしくりかへし難關を越えて大東亞新秩序の指導的地位を完成し、之をつづけてゆくであらう。此間、全世界を通じて北米合衆民族、ドイツ民族、スラヴ民族、日本民族の外に人口に於て猶不足をつぐるイタリーとイギリスがあり、人口四億を唱へて眼覚めつつある中華民國がある。阿片戰爭以後いく度か歐米各國による分割から免れた支那は、民國となりて覺醒の一途を進み、今次の支那事變によりてあまりにも廣く深く眼覚め、同じく向上の一途をすすめるであらう。

世界は次第に狭くなるばかりである。ブロックはだんだんに大きくなる。今までの長い長い間を通じ白人に惱まされた黄色人種は白禍を口にする力さへ無かつたが、日本がロシアと戦つて之を破つたところから、英國が支那に出兵したが空しく引上げてから、支配者を以て任する白人の間に黃禍論が起りはじめた。自分達の壓迫の下に屈伏しないから禍であるといふのも蟲の好い話だが、とにかく日本の興隆と共に今後、黃禍論はますます白人間の問題となるであらう。

いかなる民族いかなる國が中心となり各國各民族をしてその所を得せしむる事になるか、それはいふまでもなく數の多く、しかも質の最も勝れるものの任である。オリムピックの大會には五十二箇國の選手が集まつた、ドイツは選手の數も多く従つて質もよい。十六日間の競技を通じ、そこに最後の優勝國となつた。それもこれも同じである。世界の各國はそれぞれに向上の努力をつづけるばかりである。強は弱に勝ち、正は邪に勝ち、富めるは貧しきに勝ち、優れたるは劣れる

ものに勝つ、それは自然の數である。ここに人の數と質の重大さと、さらに相似たるもの相近きものを結成するブロックの意義が理解されるのである。日本の使命は大きく重い。國民はあげて大きな決意を要する。明治維新の際には廢藩置縣、國民皆兵など思ひ切つた革新が執行されたが、之に先だち鳥羽伏見の戦を過ぎていくばくもなく、討幕の軍東下せんとするの時、大久保利通は既に遷都の議を唱へてゐる。その建議書の末文には次の如くしるされてある。

更始一新王政復古之今日に當り、本朝の聖時に則らせ、外國の美政を歴するの大英斷を以て、擧げさせ玉ふべきは、遷都にあるべし。是を一新の機會にして、簡易輕便の本にし、數種の大弊を抜き、民之父母たる天賦の君道を履行せられ、命令一度下りて天下慄動する所の大基礎を立、推及し王ふにあらざれば、皇威を海外に輝し、萬國に御對立あらせられ候事、叶ふ可からず。

次で討幕の師江戸に入らんとして、西郷と勝、山岡

の間の折衝となり江戸明渡しとなつたが、木梨精一郎の維新戦役實歴談には次の一節がある。

江戸城攻撃に就ては、大村益次郎は、市外で戦はねばならぬと申しましたが、西郷も亦た私に向つて、何卒市内を焼拂はぬやうにしてくれ、第一人民の迷惑もさることながら、此の江戸は將來我が帝都とせねばならぬ。此れは大久保一藏(利通)も色々私に相談したことがあつて、至極尤と思ふて同意したから、是非民家を焼かぬ様にして呉れろと申しました。今日に至つて、西郷なり、大久保なり、先見があつたと思つて居るのです。

國都の地位は不易でない。いづれの國の史乘に見ても國都は時と共に動いてゐる。只事實として次第に遷し難くなつてゐる。我國にありても奈良朝時代までは都は屢々遷されたが、平安朝からは東京への遷都に止まり、幕府は鎌倉、京都、江戸と動いてゐる。海外での近き事例は、中華民國の北京より南京へ、又トルコのイスタンブルよりアンカラへの遷都があつた。

は當時の江戸幕府を打倒するといふ點にあつた。封建政治は國體に反する、國運の伸張に資する道でない、現状は打破すべきである。王政復古の氣運が黒船に門をたたかれて、ここに鎖國攘夷の旗印により燃え上つたのである。

明治維新以來既に一世紀に近い。猶いまだ短かしくもいへるが、此間の世相のはげしき動きを見ればあまりにも長い。明治天皇の欽定憲法は日清日露戦役以前に發布せられしものである。憲法自らも時勢の動きにより大典の條項改正の道を認めてある。今日若し新に憲法が制定せらるるならば、單に日本の領土が擴大せられてある一點のみより見るも、現行の大典の條項中には必ずしもその趣きを同じくしないものもあるであらう。しかし一度制定せられたるからは輕々しく變更を加ふべきでない。動かざる國體の下に欽定憲法の下に昭和の維新が遂行されるのである。支那事變さらに歐洲の大戦はまさしくその昭和維新を展開すべく點火されたのである。

交通の發達は地況を左右する。さらに一國が衰ふるとき又一國が興隆するときは自から國都を遷す事となる。大日本帝國は無窮に興隆をつづけてゆく。只何んとなく、われらの子孫に此の一節を筆にしておくものである。

明治維新を追憶す

今や日本はまさしく昭和維新の渡頭に立つてゐる。明治維新さらにその以前の幕末をかへりみると萬感交々いたるものがある。幕末に開國鎖國といふ二つの正反對の正策が火花を散らして論議された。

明治維新の覇業を完成せる勤王派は後日になつて攘夷の看板をとりはづしたが、幕末には大體開國を主張する幕府に對し、勤王派は鎖國をとなへたのである。當時の勤王は鎖國を、佐幕は開國を旗印として戦つたが、しかし問題は開國鎖國のいづれかに非ずして、實

此際、近衛公を中心にして政黨政派が解消され、只現在の機構の下に大きな政黨が盛り上つたといふだけでは意味をなさないのである。

幕府は倒れて明治維新となつた、しかし勤王をとなへし者が朝に立ちて開國に轉回した。五箇條の御誓文が發せられたのもこのころであり、つづいて神風連の亂などがあつた。さらに生死を共にし志を同じくした同志の間にも征韓論の意見の相違は萩の亂、佐賀の亂より、西南戦争とまでなつた。しかし今日は幕末當時と全く異なり、國體は嚴としてゆるぎがない。さらに欽定憲法の下に、政治の新體制が建て直されようといふ、それだけに決して生やさしい事ではない。非常な勇猛心とネバリとが肝要である。新體制といひ大政黨賛といひ、既に時勢の要求に應じたものである。一部には違憲である、ないと論議してゐる。しかし事實の方はどしどし進行してゆくのである。世間はその進行の遅々たるをもどかしとしてゐるのである。しかし幕末より維新にわたる史實に徴すれば、さうさう簡單に

は片附くはずがない。しかし現實に新體制運動の進行の遅々たるは事實である、よろしく重點主義によりどしどし斷行すべきである。すべては天が解決してくるのである。大楠公は非理法權天の旗印を立てたといふ、非は理に勝たず、理は法に勝たず、法は權に勝たず、權に天に勝たず、といふのである。今や天の時が至れるものと思ふ。

我が日本帝國が日進月歩進んで止まざるものとすれば、不休不息緊張をつづける民族であるならば、今日の政治の段階はどうしても現状を打破し、あらゆる方面に革新の生氣を吹き入れねばならぬ。たまたま支那事變勃發し歐洲大戰爆發した。まだまだいかに時局が擴大されるか分らない。現状を打破すべく革新の一路を邁進すべく天は我等に機會を與へたのである。要は現状打破の手段方法である。苟くもその道を誤らんか萬事は御破算である。先づ新體制が仕上げられる、次でいかに之が調節強化せられ、大東亞新秩序建設の指導者として、昭和維新の大業の成果を結ぶかにある。

見方によれば今日ほど多事多艱むづかしい時はない、しかし又今日ほど存外しやすい時はない。いつもなれば酔のこんにやくのと中々煮え切らない事も、今日は文句なしに決行しうべき時である。萬民はあげてぐづぐづして決まらぬ世の中の不連続線にあきあきし、いらいらしてゐる。誠心誠意ある熱と周密冷靜なる思索と之を斷行する力とを要求してゐる。

一億一心滅私奉公の辯

今日は近衛公の側近といはず局にあたる要人といはず、議會人その他各方面の有識者は、いづれも私心を去り小我をすて、自己の名利功達など眼中におかず、一意専心大局に向つて邁進すべきである。金も地位も命もいらぬ、さうした熱と力を以てせんば、此の難關は突破できないはずである。政府當局が大勇猛心を以てすすむ、官界の新體制建て直しにより、身を

以て律せねばならない。豫算だけで見ても實行豫算の引きしめ、將來への豫算便乗の防止などには身を以て律すべきである。ムッソリーニ首相は高度國防國家をつくり上げるため、一般國政費はかなり査定し引きしめた、官署の廢合など随分思ひ切つた行政整理の鉈を振るつた。戦時と戦後と違ふのは無論であるが、米國では第一次大戰後の反動不景氣の時に、フーヴァー大統領は、

官吏に對する八分三厘の減俸となる現行の休暇制度を繼續する上に、更に年收千ドル以上の俸給に對し一割一分の減俸を行つた。

五十以上の官署の廢合を行ひ、行政整理を斷行した。

八億三千万ドル以上の節約をした。

匡救事業費豫算七億一千七百万ドルを四億三千三百萬ドルに削減した。

恩給費を廢止した。

凡ては先づ自ら律してゆく事であり、上下左右いづ

れへも公平に平等に辛抱し我慢する事である。

一般國民とても同じ事である。それそれに地方の利害や立場などに囚はれて文句をいひ出しては、國全體の革新は出來ないのである。もとより過渡くわどの際において、いづれは多少の不平不満もあらう不利不便もあらう、そこには行きすぎもでき行き足らずもできよう。

マルサスはかつて、

It is very probable that having found the bow too much bent in one direction, I was lead to bent too much in the other with the view of making it straight.

といつてゐる。何事によらず多少思ひ切つた事をやらうとすれば、どうしても極端に走りたがるといふ事である。丁度右に外れたるものを真ん中へと思へば、少しく逆に左へ、反對の方へ曲げねばならぬといふ事である。故上原元帥にこの詞を話したら、元帥はそれに似た詞が支那にもあると「韓子綱領」をひもといひて示された。それは、

夫矯箭者、先及張其曲、漸自歸直、若始直之而已、則不日反曲。故左曲者、反之於右。右曲者、矯之於左、漸自得正。

といふのである。ところが事實は勢のおもむくところさうまでせずともと思ふ以上に極端に行き過ぎたがるのである。事實玉石共に焼く事が少くない、明治維新當初の廢佛毀釋のあとを見ても分かる。過ぎたるは及ばざるが如しと、古くから言はれてるが、さて中庸を得るといふ事はむづかしい。既に中庸を得るためにすら反動の要が説かれてる位である。それだけに爲政者は先づ官廳自體より自から律するところがなければならず、又民衆に對しては絶えず理解につとめ同情を厚くし、共に共に朗かに精進の一途につとめねばならぬ。民衆も又、互に我慢する辛抱する、徒らに愚痴つたりヒヤカシたりケチをつけてをるべきでない、共に氣を揃へて先引きする後押しする、さうした協心協力 of 熱と誠がなければ、昭和維新の大業はできないのである。明治維新の大業をあげさせ給ひし 明治天皇は、か

八紘一字の大使命を確信してゐる。しかし我等は内協力一致絶えず向上の一途に精進し、外その氣宇を大にし謙讓の徳を積み、ますますその大を爲さねばならぬ。世界人類の平和の來るべき時の一日も早からん事につとめねばならぬ。

つて辭表を奉呈し骸骨を乞ひ奉つた或る首相に、お前はいつでも荷をおろして職を去る事ができるが、朕は辭するといふ事はできないといふやうなお詞があつたやうに洩れ承つてゐる。昭和の今日は全國民毎日のやうに官城を遙拜し聖壽の無窮を祈り奉つてゐる。國體の明徴今日の如く明らけき事はない。しかも内外の時局は多事多難ますます複雑怪奇を極め、政變相次で頻々として續發する。我等臣民は何んと申し上げてよるしいか、只々恐懼措くところを知らないのである。

紀元二千六百年、世界をあげて文化の潰崩を見るか、新秩序が樹立せられるか、まさしくその岐路に立てる西曆一九四一年を迎へた。よし、それがいづれに動くとも、國の人と物の總力を最も合理的にあげて大東亞新秩序の建設に進むべき時に直面してゐる。政府も國民も文も武も、虚心坦懷あげて共に共に昭和維新の革新達成にその全力をつくさねばならぬ。

日本の國體、日本の歴史、そこに日本國民の不動の信仰がある。我等は長い將來を達觀して安心してゐる。

山

水

篇

忠義櫻と不忠柳 (昭和十二年一月、動く日本)

一、赤穂花岳寺

播州赤穂をたづねたなら、臺雲山花岳寺に數多き義士の遺跡を見出でるであらう。

淺野家三代五十七年間ことに初代長直侯は、水道の敷設、鹽田及び新田の開拓、赤穂の築城等により、明君の譽れ高く從三位を贈られてゐる。その長直侯が母の院號臺雲を山號とし、父の院號華岳を寺號として臺雲山花岳寺を建立した。淺野家の香華院であり又家老大石家の菩提寺である。

山門は赤穂城の搦手門を移し建てたものであり、本殿の前面には大石良雄が母の冥福を祈るために移し植ゑたる大石名残りの松があり、境内西寄りの一字には本懐成就の後大石が寄進せる守本尊千手觀音菩薩を安置し、左右には四十七士の木像を列べたる觀音堂があ

る。その觀音堂にならべる寶物館には義士の連名狀、早打狀、大石の惠光和尚への暇乞、亡君への奉答文さては山鹿素行はじめ義士の書畫刀劍什器など、數多い遺品が陳列されてある。

ここに筆にせんとするは寶物館の南に隣せる淺野内匠頭をはじめ四十七士の墓の前なる忠義塚である。忠義塚は龜跌の上であり、碑文には良雄の殊遇厚かりし西播の碩儒熊陽藤江忠廉の撰文が刻されてある。寶曆二年義士五十遠忌にあたり、有志相はかりてこれを建てたと傳へられてゐる。問題はその忠義塚の兩側にある義士墓畔の櫻と柳である。

櫻は大石邸の櫻樹の一株を移し植ゑしもので忠義櫻と名づけ、柳は大野九郎兵衛の邸宅門前にありし垂柳の一樹を移し植ゑしもので不忠柳と名づけてある。

二、大野九郎兵衛宅趾

花岳寺の書院に片山伯仙師と茗をすすりつつ義士の昔話をしのびあひ數刻をうつした事であつたが、その

る。

折に先住仙珪和尚は義士狂僧とまでいはれ、大石神社の建立に三十餘年全力をささげて努力をつづけた事、又さうしたおこりは明治九年佛人モズロペールの花岳寺訪問にきざせし事なんぞ聞かせてくれたのであるが話の序にこの忠義櫻はよいが不忠柳はよくない、取りのぞけといふ説もあり、いや取りのぞいてはならぬといふ意見もあり、一時は取りのけた事もありますが、今は又植ゑつけてあります。これはいかがなものでせうといふ事であつた。

此のたづねにつきすぐ思ひ出したのは先刻大石神社に参拜したかへるさに、ところどころ義士の舊宅の趾にしるべの石標が立つてゐる。鳥居を出て、左に大石瀨左衛門宅趾といふ石標があつたとおもふ。右して右側に間瀨久太夫左に磯貝十郎左衛門の石標がある。大野九郎兵衛のやしきあととはたづねたら、磯貝の西隣りでここになります。しかし不忠者ですから石標も建てないのださうですといふ事であつた。

これから私の伯仙師へあいさつした話の要領であ

大野九郎兵衛の屋敷跡には石標があつてよいとおもふ。何も故人をおまつりするといふのでは無い。ここに大野の邸があつたといふ標識にすぎない。もし義士の遺跡顯彰會の仕事であつたとしても、藩侯といはず山鹿素行といはず、その他善惡邪正に拘らず、それに因縁ある遺跡にはしるべをつけておいてよい。或は觀光會なり町役場でやつてもよい。遺跡の保存、道しるべなのである。もしその石標がカケとられる、さうした事は鼠小僧の墓にもあれば、荒木又衛門の墓にもある。いろいろの意味でくさくさの心持でカケとられる事がある。大野の宅跡の石標を見て大野は怪しからぬ不都合なやつだといふので、カケとられるならそれもよいではないか、倒されるならそれでよいではないか。それが不忠者に對するこらしめ世のいましめになると解してよい。さうした意味で大野宅趾にも石標はあつてよいと思ふ。

三、不忠柳

不忠柳にいたりては大野宅の石標とは大分話がちがふ。それは遺跡でも道しるべでもない。もしそこにまつられてある長矩侯又四十七士の遺霊がどう感じられるかといふ點も考へられるが、それよりも考へらるべきは、それが参拜者に興へる感化である。

大石良雄遺愛の櫻をうつし植ゑてある事には何人の異存もありやうもないが、不忠柳となると、押ならべて是非共にここに植ゑつけておかねばならぬといふ理くつもないが、さりとして不忠柳を植ゑつける事はよくないかといへば、さうはいへない。というて取りのぞかねばならぬといふほどの理窟もない。

問題はそこに参拜する數知れぬ人達には、老若男女それぞれにくさぐさの思慮分別があるからである。参拜する人々の心持によりて、よい戒めだとなづかれる事もあらうし、又よい氣味だ、尤もだと思ふ人もあらうし、又さうまでせずともと首をかしげる人もあらうし、

うし、又却つて追慕参拜の氣分をこはされると思ふ人もあらう。だからわざわざ植ゑ附けねばならぬといふ事もない、というてわざわざ取りのけるにも及ばぬとも思ふ。

私が伯仙師に答へたところは、もろもろの多數の参拜者にはどうひびくのかといふ事であつて、いづれは國鐵が赤穂をすぐる頃は、参拜者の質もかはつてこよう。殊にその數は大變な事になる。その頃の参拜者へ及ぼす感じにより、自から此の問題もなにかきまるめどとなるであらうと答へた事であつた。それならお前はどう思ふかといはれたら、赤穂の町をたづねて義士追慕敬仰の念に浸つてゐる、ことに義士の墓前に立つてゐる。さうしたところへ大野九郎兵衛とか、不忠柳とかさうしたイヤな感じを聯想される事は氣分をこはす……さうした感じがするのである。

四、義士の生死觀

赤穂の濱邊には藻鹽たく烟が眞すぐに立てるしづけ

き秋日和である。赤穂御崎までドライブして對鷗館の樓上に、屋島群島から小豆島へかけ瀬戸の島山を見はるかしつつ、花岳寺よりおくれたる義士の書翰類の刷りものなどに目を落としたが、大石良雄が泉岳寺へ引上げ吉良上野介の首級をささげ、亡君の靈前によみ上げた奉答文を再讀三讀して、今更ながら大石内藏之介の智仁勇兼備であるといふ事がしみじみと感得された。さうしてもし内匠頭が場處柄にかんがみて辛抱我慢をしたならば、又もし内藏之介が出府してゐてしかるべく吉良家へ手當をしてゐたならば、かうした凶事も起らずにすんだであらう。もとより大石内藏之介はじめ四十七士の銘々にかかる凶事の起らぬやう、又起つてもお家斷絶にならぬやう、只淺野家安泰なれと専心であつたであらうが、事ここに至りて已むなく元祿の美擧となり、それが長く後世に風教の上に尊い遺烈を傳へたといふ事は、見方によれば上野介の意地悪と内匠頭の短慮のおかげであつたとも見られる。

長い長い悠久の間に我等は朝露の命を託してゐるの

である。昔から死は安く死に處するは難しといつてゐる。松の間の刃傷が無くば、大石はじめ四十七士はその名も知られず殘されずに天壽を終へた事であらう。又四十七士は淺野家の爲めにさあれかしと祈つた事であらう。それが不幸にして凶事に直面した。大石はじめ四十七士はここに死を以て善處すべき秋を得、見事善處したのである。

五、泉岳寺靈前の奉告文

内藏之介の亡君の靈への奉告文はいかにも情理がつくされてゐる。次の如くである。

奉申上事

一、今日只今大石内藏介ヲ始御足輕寺阪吉右衛門迄都合四十七人進死臣等謹而奉告亡君之尊靈。去年三月十四日尊君刃傷吉良上野之介殿之御事私共不奉存其子細、然所尊君御生害上野介殿御存命御公裁之上我等共如是之上我等共如是之企非尊君之御心而却御怒奉恐候得共、我等共尊君之食祿申共不戴天之儀難默

止共不可踏地之文無耻不可申候然而晝夜感泣仕候、假抱耻相果候共於泉下可申上詞無之候。因茲可奉繼御意趣奉存候ヨリ此來今日ヲ相待申事一日三秋之思御坐候。四十七人輩起雨踏雪一日二日漸一食仕申候、老衰之者數々進死申候得共、蟻螂頼臂之笑ヲ相招彌尊君之御耻辱ヲ相遺可申歟與奉存候得共、不得已昨夜半申合上野介殿御宅エ推參仕、則上野介殿御供申是迄參上仕候。此懷劍者故有私家先祖代々則持仕兼御存被遊候觀音妙利劍ニテ御坐候、御候御墓下御尊靈於有之再御手ヲ被下候テ逐給御鬱憤右之趣四十七人一同奉申上候以上。

元祿十五年壬午十二月十五日

大石内藏之介良雄謹言上 花押

六、内藏之介の心持

奉告文中私共其仔細は存じ奉らず、しかし尊君は御生害上野介殿……殿と云つてゐる……御存命である、既に御公裁のありし上は、我等の企ては尊君の御心に

逆ふかも知れぬといふ事を恐れるが、しかし尊君の食祿をのみし我々は、共に天をいただけないといふので刃傷の仔細はいかにあらうとも、よし又御心に逆ふかも知れないが、臣子の分としてこのままでは居られぬといふ意趣を明かにしてある。それから四十七人は一日三秋の思ひにて今日を待った。もししくじつたならば尊君の御耻辱をます事と存じたが、昨夜上野介殿御宅へ推参しと記して、さてここに上野介殿の首級をあけてといはずに、上野介殿御供申し是まで參上仕り候とある。私はこの一文をくりかへし讀んでゐると眼頭があつくなつて來た。そしてふと又伯仙師の不忠柳の話へ聯想されて來た。あの忠義櫻と不忠柳を前にし、亡君を中心にとり圍んである四十七士の墓所、その地下の靈がこの不忠柳をどう見るであらうかと想像をめぐらして見た。

大野九郎兵衛の不忠柳！ それは痛快だといふ者もあらうと思ふ。この場所へ汚はしいと怒る者もあらうと思ふ。大石殿の忠義櫻とならべるとは慮外至極とい

きまく者もあらう。内匠頭は「眼障りである切つて捨てよ」と一喝されると思ふ。内藏之介は只靜かに「取のけたがよからう」といひさうに思ふ。

（二二）、「文藝春秋」

關ヶ原古戰場

（昭和十二年十一月、心の糧物の糧）

一、ウォータールーの古戰場

中仙道は美濃近江廢物語の國境を越えて程なく不破の關となるが、それが、まさしく關ヶ原のただ中にある。その關ヶ原に柳ヶ瀬よりの北國街道が相會し、關ヶ原の一つ東の驛垂井から大垣を経て南へ伊勢街道がわかれ、東へ赤坂を経て岐阜へむけ中仙道がはしつてゐる。

歐洲に旅する者は多くはウォータールーの古戰場を見物する。しかも十中の八九いやほとんどあげて、日本の観光客の記憶してゐる土地の名といへば、只ウォ

ータールー一つだけであり、人の名といへば、ナポレオンにウエリントン、それにネー將軍位のものである。

之れが關ヶ原となれば土地の名も、大垣、赤坂、南宮山、松尾山などがあり、人の名には徳川家康と石田三成の外に、東軍としては福島正則、加藤嘉明、黒田長政、池田輝政、山内一豊、淺野幸長、細川忠興、藤堂高虎など豊臣直參の諸將をはじめ、徳川麾下の松平忠吉、井伊直政、本多忠勝などあり、西軍としては毛利秀元、吉川廣家、小早川秀秋、長曾我部盛親、長束正家、安國寺惠瓊、脇坂安治をはじめ、石田三成と手を組んだ島津義弘、小西行長、宇喜田秀家、大谷吉繼など算へ立てたならば際限がない。その記憶の廣く深い關ヶ原にくらべたならば、ウォータールーの認識はあまりにも狭く淺い、しかもだつ廣い一面の野原である。ウォータールーの戦跡見物をする人たちに、お前は關ヶ原を見物したのかといへば殆んどあげて見物してゐない。ウォータールーはこの機會に見て

おかねば又と見る機会が無い、關ヶ原は又いつでも見られるといふ心持ちも手傳つてはゐるだらう。しかしその連中は歸朝してから關ヶ原へ足を印したかといへば、恐らくは印してゐないとおもふ。そのくせ關ヶ原を汽車では何回何十回となく素通りはしてゐるはずである。

二、看過されてゐる關ヶ原

さうなると宣傳の世の中であるといふ事が考へられる。といふのはベデカーなりをはじめ数多い歐洲の旅行案内記などに、白都のブルッセル案内記に、長々と克明にウォータールー戦跡の説明がつてなかつたならば、ウォータールーはどこにあるのやら知らず仕舞ひにすごされてしまふに相違ない。それは宣傳の足りてゐる話で、關ヶ原などは宣傳が足らぬ。高松の水攻めの古跡なども、岡山の驛から程遠からぬところにあるが、萬人知らずに通るにすぎてゐる。

白都ブルッセル市に留學中は、フランス語を話す日

本の旅客は少ないから、僕は見ず知らずの人にまでよくウォータールーの案内役を仰せつかつた。あんな馬鹿馬鹿しい思ひ出はない。一望際涯なき野原である。只一ヶ處に小高い丘を築き上げ、その上にライオンの像がある、それだけである。ガタ馬車のガタゴトする中でペラペラとしやべるガイドの説明も語がよく通じないから聞きとれない、聞きとれても土地の名も人の名も、いづれにしても全くおなじみが無い固有名詞の連続である。何をしやべつてるのか皆目分らない。ガタ馬車にゆられて丘のそばでおろされる、それから丘へあがる。いろ／＼としやべりつゞけられるが、何が何やらさつぱり分らない。丘からおろる、繪葉書など求める、コーヒーか紅茶をのむ、又ガタ馬車で歸路につく、それが二度三度と重なると只馬鹿々々しさが次第に身にしみてくるだけであつた。その馬鹿馬鹿しさの埋め合はせといふもをかしいが、日本へかへつたなら成るべく早く關ヶ原を見物する事だと決め込んだ。しかし明治三十七年日露の開戦にあわただしく歸朝し

てから、今年今日まで關ヶ原を通過する事何十回たるを知らず、その間岐阜の講演に臨みしこと三四回、ことに揖斐の講演に出かけたのも、いづれは關ヶ原見物をと念じたのであつたが、或は歸りをいそぎ或は天候にめぐまれず、いつも此の次に此の次にとするに今日まで機を失した。それが此の度岐阜縣内三ヶ處で講演をとの申込があつた。丁度その二日前に和歌山へも出講する事になつてゐる。今は一介の野人浪人のありがた味である。關ヶ原見物を書き入れにしてすぐに快諾した。和歌山より東海道線の上り汽車へ、あれから大垣にて下車、岐阜から出迎へられた今井社會教育主事と關ヶ原へ自動車を驅り、上野小學校長と關ヶ原の役の生字引である藤井前關ヶ原町長兩氏の東道により、長いとも長いとも四十年來關ヶ原の見物念願がここに初めて届いたのである。

三、關ヶ原の役前記

豊臣秀吉は慶長三年八月十八日伏見に長逝し、徳川

家康が上杉景勝を討つべく大阪をあとにしたのは五年六月十六日であり、石田三成等同志を糾合し、鳥居元忠の死守した伏見城を陥れたのは八月一日であり、毛利宇喜田勢は伊勢路へ、大谷吉繼は北陸へ、石田、小西、島津勢は中仙道へ進發し、三成等の大垣城に入りしは八月の十一日である。

西變の報を聞きながら悠々と會津へ進軍をつづけた家康が、下野小山より引きかへしたのは七月二十四日で、結城秀康を會津への抑へにのこし、秀忠をして中仙道より、自からは海道より西進する事にした。福島、池田、井伊、細川、田中（吉政）等の諸將は八月の中旬に尾張清洲に軍を集め、家康の進旗をまつてゐたが家康は中々腰をあげない。

當時武將達の向背が中々にきまらない、疑心暗鬼の世の中である。豊臣譜代の武將たちは此際はずきりと家康に對する態度を示す必要があるといふ事が分かつたので、相會して岐阜城攻撃のことを議し、二十二日に攻撃にうつり二十三日に守將織田秀信は降参する。

大垣城より呂久川附近へ援軍に向ひし石田島津の軍も決戦を見ずして大垣に退城する。岐阜を陥れたる東軍の諸將は不破郡赤坂に集營する。岐阜の捷報を耳にして家康はやつと御みこしをあげ、九月の一日といふに江戸を發し十三日岐阜に、十四日正午に赤坂に到着したのである。

赤坂は大垣の北からやや西よりになり指呼の間にある。慶長五年九月十四日おひるに、家康が赤坂に入りしを見て、大垣では城を堅守するといふ説と、すぐ赤坂へ夜襲すべしといふ説と相わかれたが、此の時東軍は大垣を脇目に見て一路西へ、三成の本據江州佐和山を衝き京洛に向ふといふ情報を得たので、西軍は急遽關ヶ原へ先き廻りして家康を迎へうつといふ事に轉向する。午後六時頃大垣城には福原長堯等以下小勢を残し、南宮山の南を迂回し、大雨を衝いて關ヶ原に出て北國街道を中仙道の隘路にまたがり、東軍を阻止すべく笹尾山から松尾山へかけ陣營を張つた。

ここで考へさせられる事は攻城といふ事とスパイと

いふ事である。西南戦争の時に薩軍は熊本城を圍んだ。もし官軍が城を出て戦つたならば、戦は即座に決せられたであらうし、又薩軍の勝ちになつた事と思ふ。しかし官軍は籠城した。それなら薩軍が熊本城を脇目に見て東上したならばどうなつたであらうか。沿道風を望んで薩軍に合流したのではなからうか。吾等桐野の攻城説と篠原の進軍説とが兩立したと聞いてゐる。もし篠原説になつてゐたら、形勢はかり知るべからざるものが有つたとおもふ。我等子供心に敗れたる西郷さんに同情したものであるが、今ここにその古い古い昔の思ひ出が湧いて出た。

四、關ヶ原の野戦と熊本の籠城

攻城には手間がかかる。僅かな軍勢でも數倍數十倍の大敵に圍まれて、かなりの籠城がつづけられる。金剛山千早の城はいはずもがな、秀吉の大勢に圍まれた備中高松の城、相州小田原の城、武田勢に圍まれた三州長篠の城、さては幕軍が持てあつかつた島原なる原

の城、近くは日露戦役の旅順の要塞、今直面せる上海外のあの小さなトーチカでさへもと、そんな事を長々とならべずとも、當時中仙道より西進せんとした徳川秀忠の大軍は、信州上田の城で眞田の小勢に喰ひ止められ、たうとう關ヶ原には間に合はず仕舞ひになつてゐる。

攻城戦は長期に互る憂ひがある、必勝を期してゐる家康としては早くラチを明けなければならぬ、籠城されるとするさくなる、時がかかる、野戦となれば半日一日で勝負がきまる、同じ勝つのなら少しでも早く片付けたい。さうした心持ちからいへば西軍が大垣城をあとに大雨ををかし遠廻りして關ヶ原の西へ乗り出したといふ事は、家康の思ふ壺へはまつたのである。

何はさておき豊臣の直參連は、西軍が勝つて白面の小冠者石田が此の上のさばる事は癩の種であるから、何よりも石田を叩きつけたい、さうした根深い感情の隔たりは現に當時加藤清正も肥後から島津へ攻めにかかつてゐたといふ事である。その上に天下の大勢は徳川

にうつると日和見をする連中のなかにも、金吾中納言秀秋のやうに裏切つて味方の横つ腹へ突つかかる篤志家もある。しかしさうした藝當のうてるのみな野戦なればこそである。此の如くにして西軍總勢九萬と號したが、いはば家康を袋の鼠にしたがら、その袋の尻の方なる南宮山の毛利、吉川、長束、安國寺、長曾我部の諸軍勢は、旌旗動かす鳴りをしづめ日和見をしてゐる。小早川秀秋をはじめ脇坂安治、朽木元綱等は味方を裏切る。十五日の午前八時頃福島正則が宇喜田勢を攻め立ててより、午後三時には戦ははや収まり、陣野場で家康の首實驗となつてゐる。

五、スパイと逆スパイ

攻城は手間どる。如何にして家康は西軍を大垣の城中から引きずり出したか、それはスパイの働きである。スパイに二種ある。俗にいふスパイは敵へ内通するのである。ソ聯邦では盛んに黨中黨をつくり、スターリンは手に手をとつて新政府をつくり上げた名士を文

武にわたり、片つ端からスパイ扱ひにして銃殺してゐる。支那でも昨今漢奸といふ名を冠し、無性やたらに血で血を洗つてゐる。

しかしスパイの中には逆スパイがある。スパイの如くに装うて、實は敵の爲めでない味方の爲めに敵へ逆の放送をするのである。

家康は赤坂へはいつた、その家康は大垣へは眼もくれず西進するのだと、大垣の城中へ放送したのはこの逆スパイである。その手にのつて西軍は大雨の中を關ヶ原に泳ぎ出たのである。逆スパイ？ そんな詞はあるか無いか知らないが、さうした事實は稀でない、かなり効果百パーセントである。春秋戰國時代には、かかる逆手を反間苦肉の策として屢用ゐられてゐた。

黒田長政が狼烟を上げたといふ丸山の高處に立ち、藤井君が指さすままに話すがままに、一と目に見渡す關ヶ原の戦跡を、右の方石田三成の陣せし笠尾山をはじめ、島津、小西、宇喜田、大谷諸將の陣營より小早川の松尾山へ、中央には關ヶ原の町を中心に東軍の各

部署を眼の下に、島津維新が敵陣に割つて入り切りぬけた鳥頭坂道。毛利、吉川、長束、安國寺、長曾我部の諸將が日和見した南宮山一帯を、それからそれへと見はるかしたのであつた。

六、古戦場観光ルート

終りに關ヶ原観光について一言して見たい。之れがウォータールーでもエナでも歐洲の古戦場さてはアメリカの獨立戦争の記念場などであれば、多くは記念塔が立つてゐる。そばにはレストランがある。休憩場がある。繪葉書や案内書繪圖面などの賣店は無論である。記念塔又は戦場の模型なり、戦争の立役者の像なり、文鎮、おきものなど記念品など賣る店がならんでゐる。

しかし日本では川中島でも小牧山でも關ヶ原でも、金剛山千早城でも、湊川でも、一の谷でも、高松城でも、さうした設備があまりにも物足りない。屋島の風光を見物するときに、御景物に八島の古戦場が紹介されてゐるのが上の部である。

時節柄武張つてゐるからとてわざわざ書き立てるわけではないが、さうした古戦場見學といふ熱も流行して

よい、ハイキングをかねてもよい。苟も日本民族ともあらうものが、只神社佛閣の参拜、景色見物ばかりに偏する要はない。關ヶ原にしてが折々軍人はみえるがその外の行客は至つて稀であるといふ。よろしく觀光局より府縣觀光協會の肝煎りで大いに設備もする宣傳もする。之れは何も關ヶ原のみについていふのではない。東海道線には長篠と三方ヶ原、桶狭間と小牧山、關ヶ原と姉川に賤ヶ岳、さうした古戦場をチェーンにして見學旅行するなど妙である。それは士氣を練り歴史と地理を學ぶ上より見ても極めて有意義である。

猶此の關ヶ原行につけ加へておきたい事は、そこに幾多の史蹟が惠まれてゐる事である。關ヶ原の松尾といふ處が、日本の關の一つなる不破の關のあとであり、壬申の亂には關の藤川をさしはさんで戦はれた。謡曲にある班女の古跡は野上の里であり、關の藤川からいくばくもなく不破の關屋へと志ざした足利義教の車か

へしの坂があり、美濃近江の國境廢物語の里へとつづいてゐる。

かうした名所舊跡が場處もあらうに東海道線に沿つてゐる、驛の名まで關ヶ原と銘を打つてゐる。それにしては餘り世間から忘れられてゐる、せめて世間並だけの設備と宣傳があつたならばといふ思ひの切なるまに、此の一篇を筆にして見た。『旅』十三年新年號

關ヶ原古戦場の歌

南宮山

長曾我部 毛利長束 安國寺

なりをしづめて日和見せしところ

丸山

こにして汐時よしと高虎が

合圖の狼煙あげたるところ

笹尾山

鼓を出て日に干されけりみそさざえ

三成あはれをとどめしところ

古床几場

義弘が残兵を束にし敵陣の

眞つ只中を切りぬけしところ

宮 中

病める身を駕籠のままにて吉隆が

敵のさ中へ乗り入れしところ

松尾山

あなうたて金吾中納言秀秋が

味方の陣へ裏切りしところ

陣場野

日午をすぎ幾時ならずいくさはてて

徳川家康首實驗のところ

關ヶ原

これやこの天下分け目の古戰場

關ヶ原といふに人は訪はななくに

足摺岬と名無しの箱

(昭和十三年一月、
物の糧心の糧)

上、足摺岬

土佐は鬼國といふ。どういふ意味からわり出された名前かはよくは知らない。とにかく四國の裏になつてゐる。船路は荒れる陸路は不便である。恐らく本島四國九州を通じて縣廳所在地でありながら、鐵路の便に恵まれなかつた最後の國であるとおもふ。

今は阪神から高知への船便の外に、鐵路も高知へ結びつけられる事となつたが、土佐への自動車路は中央に吉野川に沿うた大歩危小歩危の景勝に富める險道が池田と高知を結びつけてある。池田から平家落武者のかくれ里であつたといふ祖谷溪の勝を探るのも道順である。さらに高知から東海岸を甲浦日和佐へと北上し小松島徳島へ出るのも、道中に室戸の鼻を廻る道順に

なるので、近頃行客のあとが絶えないらしい。

中央線としては阿波の池田より高知へ南下する線より、さらに西の方伊豫の松山から久萬町を経て高知へ南下するバスが通ひ初めてゐる。久萬は四國の輕井澤といはれてるが、途次面河溪の勝を探るといふ便宜があるさらに西して南豫から宿毛又は中村を経て高知へ西廻りするのも宇和島見物をかねて趣きがある。

僕は松山高知街道の南の半ばを除いては全部踏査済みであるが、恐らく觀光客の大部は室戸廻りをするであらう、又道順であるからおすすめる、海岸廻りであるから景色もよい。しかし時が許すならば大歩危又は久萬によるよりも、往復の一つを西廻りするやうにすすめる。それは宇和島見物といふお土産があり、さらに足摺岬といふ景勝に恵まれてるといふ事と、その外に土佐の土佐たる浮世の風から超越してゐる氣分を高知から西へ窪川中村宿毛方面にて親しく味へるからである。そこで一應足摺岬と名無し箱につき簡単に紹介する。

中村の宿をはづれて四萬十川を渡り、林有造をたづねた江藤新平が潜行をつづけたといふ伊豆田峠を越え下の加江から椿と松の林をぬけて、足摺岬の半島のど首のところへくる。四五年前の話であるが、そこからは岬の尾の上をよこぎる五里ばかりの道はまだ車が通はない。のど首を西へ越えて中濱萬次郎翁の出生地に近い清水といふ港へつく。それから發動機船で海上三里にして岬の鼻に近く伊佐といふ漁港より上陸、タブと珊瑚樹の林道を數町にして、左側に西國第三十八番の札所金剛福寺の書院大師堂本堂が見える。山門を左に見てさらに數町足摺岬の突角に出ると、花崗岩壁の突角が八つ手のやうな手をのばし、削りなす斷崖は泡立つ怒濤の中にそぎ立つてゐる。

にが竹、檳、うまべ、鼠木、とべら、まさ木、ぐみ、ゆづり葉、椿など、いづれも當りが強いから身長すらのびてゐない。かへり見すれば、白王山下松林の中に金剛福寺の多寶塔が浮んでゐる。黒潮流るる太平洋のただ中へ突出した足摺岬は、室戸岬より更に緯度二

十五分も南の突角である。その豪宕なる風光に金剛福寺をあしらつてある環境は、室戸岬と全然趣を異にしてゐる、とにもかくにも室戸と足摺は双方向に時に一見すべきである。

椿咲ける南國のはてにつきにけり

大海原のただにはるけし

四國路の過路もここにきはまりて

黒潮よする足摺岬に

見はるかす大海原に一とところ

濃き色ながる黒潮ならん

足摺岬わだつみにさしいできり立てる

巖にむれ生ふるぐみ、まさ木、椿

下、ダシウリ——名なし箱

るわけで無いから品物も只取つてよし、序でに品物と取りかへに、おいてあるお鳥目まで引きさらつてよいわけであるが、信仰にみちてゐる過路の衆に左様な罰當りをする者があらう筈なく、また土地の人たちも盗みとるなどとそんな曲つた事はしない。そこに昔ながらに淳朴な氣分が、土佐の一角にまさまざと残されてるのである。

しかしかうした名なし箱は、もはや人通りの多いバスの埃をたてる高知から東の方室戸への道筋には見當らない。現に高知の町で名なしの箱につき、あれは何といふ名なのかとたづねても、誰れも本名を知らなかつた。とうとう誰も知らないままに僕は「名なし箱」と題して四國紀行「過路」の中へ記してある。

ところが數年を経て後、土佐の友より橋詰延壽といふ人の『土佐事物抄』に、ダシウリとしてかかげられてあるのを切抜いてよこしてくれた。その文中にダシウリはバスの塵埃よりも、人間の心の埃がひどくなつて、あるお婆さんは、

西國三十三ヶ所は第一番から五番までは徳島の郊外の地に數町を隔てずしてつながつてゐる。大體、徳島高松松山方面には札所の數が多すぎる。それに較べて鬼國の土佐には札所が少い。かなりの隔たりを以てポツリポツリと散らかつてゐる。第三十八番の金剛福寺は第三十九番の延光寺と十里近くへだたり、さらに第三十七番の岩本寺までは二十里を越してゐる。さうした不便な土地だけに、土佐は阿波、讃岐、伊豫と大いに趣を異にし、その土佐でも高知を東と西とで大變に人氣がちがふ。

土佐の西部窪川久禮の間には道の兩側に殆んど半町おきに名無しの箱がならんでゐる。蜜柑箱などを横にして杭の上にしぼりつけてある。中にはお米もある、團子もある、玉子もある、草もちもある、草履草鞋もある、一杯盛りは金二錢が例になつてゐる。道中困つた方に入用な方といふ心持ちなのだから、おもに過路の衆を相手にしてゐるのだらう、誰れもお鳥目と引換へに、好みの品物と取りかへるのである。番人がついて

室戸岬

船の上中かへり見すればはるくと

潮ぐもりせり室戸が崎は

わだつみはとゞろき暮れて室戸崎

燈臺の火のたゞ一つのこる

洛東靈山

(昭和十四年、持久戦時代)

雲州松江に開かれた關西醫師大會に臨むべく、東京をあとに朝まだき京都に下車する。山陰線の夜行まで

京洛の一日を阿彌陀ヶ峰から靈山へと、東山の御墓まわりにくらす。

清水から祇園へ横ぎる道すがら、八坂の塔を左に見て靈鷲山へだらだら登る細道がある。一町はかりにして天誅組墓しるべの小石が見える。右のすぐ眼の下立木茂れる下枝のもとに、高き五尺ばかりささやかな墓が、下段に六基上段は二列に、前なるが九基……その中には松本謙三郎の墓もある、後列が六基、その右の隅に別格に、小さな石の鳥居を前にせる吉村寅太郎、藤原重郷の墓があり、左に牧岡次郎と伴林六郎の招魂の碑がある。

天誅組は七卿長門落の直後、文久三年の夏吉村寅太郎、藤本鐵石、松本奎堂等侍従中山忠光を奉じて兵を大和十津川にあげた。十津川は我郷里紀州と境を接してゐたので、子供心に當時のくさぐさの思ひ出が残つてゐるだけに、低徊去りがたきものがあつた。

さらに三町あまりにして、格式は總本山とかいふが靈鷲山の小さな假りの本堂があり、その左手の丘陵が

一體に墓處になつてゐる。梁川星巖の墓、そのうしろに宮川長春の墓もある。このあたり丹念に一つ一つしらべてゆけば志士名士の墓は数限りないのであらう。御堂の横を左に二町ばかりにして、元治元年七月の變に戦死せる入江九一、緒方彌左衛門等十三名の甲子戦死の墓があり、木戸に公の墓につづくそのうしろに伊藤公の詩碑がある。このあたりが一番高くこれから下手への丘陵は、幕末志士の墓により全山埋れてゐるといつてよい。

靈山志士墓處のもとに招魂社が新に建立され、安政の大獄、寺田屋の變、天誅組及生野銀山の義擧、池田屋事件、禁門の變、河原町の變等々に殉難せる志士の靈が祭られてゐる。木戸公の墓處を少し下ると、安積五郎等三十六名の碑につづいて浮田一蕙、玉松操の碑があり、さらに下ると、甲子禁門の變に戦死せる久坂玄瑞、來島又兵衛、寺島忠三郎、入江九一等長州勤王烈士の墓域となり、石碑が四列であつたと思ふ、長々と林立し、その南のはづれには、中岡慎太郎、坂本龍馬

及榎藤吉の墓が列をはなれて石垣に圍まれてゐる。

梅田雲濱の碑から木戸公の神道碑、それから招魂社の廣場となるが、國防婦人會や愛國婦人會のシルシをつけた婦人達、京洛見物の老若男女三々五々神前に参詣してゐるのが見える。この御山の墓どころにも十歩に一人、二十歩に二三の人影を見かけられる。

靈山の墓所から京洛の街が見おろされる。そこにはかつて保元平治の亂もあつた、鴨川の水とサイコロと並べて意の如くならざるものとうたはれた山法師の亂人もあつた。吉野朝の前後京師は屢々兵火の巷となつた。室町時代となり、山名細川兩黨の修羅場となり、京洛の地は灰燼の巷となつた。足利の末年から元龜、天正に至りては天下麻の如く亂れ、徳川に至り漸く平靜に歸したが、幕末となりてそこに開國と鎖國の意見が相分かれ、尊王と佐幕の主張が對抗する。元治元年の池田屋事件は長州に非常な衝動を興へ、七月砲火は蛤御門に及び禁門の變となつたが、それは長州對薩摩、會津の戦ひであつた。それから、土佐の中岡、坂

本等の薩長聯合運動となつたのだが、その各藩の中にも又それぞれ意見主張の對立があり、勢力争ひがあつた。

明治維新となりても、猶改進保守の意見の開きがあり、熊本は神風連の亂があつた。征韓論から下野した西郷南洲を推し立てた西南の亂には、薩の健兒父子兄弟互に相戦つたのである。

幸ひに動きなき我國體はさうした幾多の波濤を越えて、國際の舞臺へ最後に乗り出し、日本を世界最強國の最前線にまで躍進せしめた。もし尊い有りがたい國體がなかりしならば、日本は海外に雄飛する代りに、薩長土肥會桑の各藩とか、東北、關東、五畿、九州とか、さうした間の勢力の對峙により、骨肉相傷けて内に疲弊困憊を來たし、外は侮を招いたのでは無からうか。

水は停滞すれば汚れる腐る。民族には清新潑刺たる意氣が無ければならぬ。

勅語に拜讀するに「日進以テ會通ノ運ニ乗ジ日新以

チ更張ノ期ヲ啓ク」とある。そこに民族の絶えざる眼
覚めがあり、緊張があり、寸時も止まぬ向上進歩があ
る。しかし波瀾曲折は彼岸への筋道であるが、目的で
は無い。

古今東西の史乗のあとをたづねるまでもなく、遠く
我國の歴史のあとをしのぶまでもなく、幕末から維新
の當時をしのびても、吾等には教へられるところが多
い。さうして今さらながら、我國體の有りがたさと我
民族の進みて止まざる精神を今更の如くしみじみと感
得する洛東靈山の墓處に杖をひきてくさくさの感慨に
胸が打たるばかりである。(政界往來)

高麗神社

(昭和十四年十月、
持久戦時代)

一、高麗の郡

この夏は三十年來の宿願である南洋へ旅立つ心づも
りであつたが、三日にあげず物價委員会がいまだに引

つづき開かれてゐるので東京へ釘付けになつてゐる。
地方の夏季講演へといふ招きがあつても一々断りをし
てゐたが、たまたま秩父の町よりの申込は二つ返事で
引うけた。

秩父ならば日がへりもできる。秩父はまだ足を踏ま
ない町であり、さらに程遠からぬ三つ峯はケーブルも
かかつてゐるから序でといつては失禮だが登山もらく
である。さらに秩父への道すがらかねて志してゐる高
麗の里へ立ちよる事ができるからであつた。

池袋から武蔵野鐵道は所澤をあとに、飯能をすぎ秩
父連山の山ふところ吾野あがのに下車、それからバスで三時
間足らず、正丸峠を越えると秩父の町にくだる。その
飯能に遠からずそこに高麗川が流れ、高麗村があり高
麗神社があり、高麗山勝樂寺がある。今は入間郡に併
合されてあるが、高麗高麗川の二村を中心に東西八里
南北三里にわたる村々は古くから高麗人安住の地であ
り、明治二十九年まで高麗村と名乗つてゐた土地であ
る。

二、高麗の歸化民

我等大和民族の祖先には原住のアイヌ族もあつた。
黒潮にのつて來た南洋方面の民族もあつた。支那本土
からもシベリア滿洲沿海州方面からも、さらに朝鮮に
至りては任那、高麗、百濟、新羅の各地から、少から
ぬ移民が相ついで歸化されたのである。

その中で高麗國の黄金時代は、滿洲南部から朝鮮の
北部西部を包含し、平壤に都して新羅百濟にまで迫つ
た。我國へは仁徳天皇の朝から高麗人の歸化が傳へら
れ、欽明天皇の末期頃から高麗は唐と新羅の挾撃を
うけ、爲に我朝との往來も繁くなり、推古の朝には僧
慧慈曇徴をはじめ聖徳太子の師となりし惠灌等が來朝
してゐる。

天智天皇の朝に高麗は亡され、天武天皇の朝にい
たりて歸化人多くなり、持統天皇の靈龜二年には武
藏國に高麗郡を設け、これまでに駿河、甲斐、相模、
上總、下總、常陸、下野等に散在したる高麗の歸化人

千七百九十九人を收容したと傳へられてゐる。

近畿を中心として朝鮮の歸化民の多いのは當然すぎ
るが、關東方面にも歸化民が散在された。甲斐の巨麻
郡あり、近くは相模の高麗山高來神社あり、高野郡は
高麗郡の轉訛なりと傳へられてゐる。こんな事を書き
立てると際限が無い。

三、高麗神社と勝樂寺

高麗神社は高麗王若光を祭神としてある。蕃神とい
ふので式内社には入れられないが、延喜以前の古い宮
居である。若光は祖國では王侯の一人であり、我朝に
ても從五位下を賜り、特に王の姓……王の字はコシキ
とよむ……を許され高麗郡の郡司に任ぜられた。若光
も遠く異郷の下に同族を率ゐ、高麗再興の念止みがた
きものがあつたらうが、故國回復の望みも絶え、終に
此地の土となつた。同族諸方より參集門前にひざまづ
きて慟哭涕泣止まず、祭神と仰ぎて高麗明神高麗大宮
などと稱へたが、若光は晩年びん髪眞白であつたので

白髭明神ともいつたと傳へられてる。向島の白髭神社が同系であつて、武蔵の國內には五十有餘の類社が數へられるとの事である。

大磯の高來神社も若光を祭つてある。若光は海より相模に上陸し大磯に居をかまへ、……大磯のうしろの山は高麗山といはれてる……それから高麗郡に移つてゐる。高麗神社は今は猿田彦命武内宿禰の二柱を合祀し縣社となり、さらに朝鮮に縁故ある人々相計りて資金をつのり、木の香新しき社殿が築かれまさに落成されんとしつつある。高麗神社に程近く、杉生茂れる中に高麗山勝樂寺がある。若光の墓は山門の右なる池のほとりにある。昔は神佛混合であつたから若光の子孫は宮の別當と勝樂寺の住職を兼てゐた。若光の後はその姓が高麗より大官司、多門房、……此頃には新田義興の招きに應じ各地に 戦してゐる……清乘院、宮本院、梅本坊、を経て又高麗となり、現社司の高麗明津氏は五十八世の孫となつてゐる。

四、高麗歸化民の後

先づこれだけの豫備知識で東京から十二里、高麗驛から十餘町なる高麗人の遺跡を、所澤、村山池などへ散策の道すがら、一日の行樂をかねて歩をまげられん事を皆様におすすめする。

今や日鮮併合されて一つとなり、次で日滿一如が唱へられ、さらに日滿支を通ずる東亞の新建設の聲さへ高まつてゐる。今日も今日とて拓務大臣官邸に於て滿洲開拓民衆議會特別委員會が開かれ、委員諸君の熱論は午前九時から午後の五時に及び、さらに近く第二次會を開く事になつてゐる。觀じ來れば高麗村の探勝には、そこに數々の示唆もあり、感想がそれからそれと浮かはれる。讀者諸君も又探勝さるる人たちも、先づおのれたちの姓に一應ふりかへつて見るがよい。

栗田寛博士の氏族考によれば、高麗人の後が四十四姓となつてゐる。その中で重なるものは、
高麗王の後 高麗 高倉 難波 三宅 鳥井 吉井

宮原 津 白河 安達 高井 狛 豊原 高 御船

高麗人の後 御笠 新城 出水 清原 朝日 島野
高里 高井 日置 八坂 田河 私川 高田 高安 高島 葉原 三木 須々岐 豊岡 篠井 玉井

などがある。かうした姓の人々は皆高麗人の後なりとかざられるわけでも無からうが、高麗人から出た氏名にはこれこれがあるといふのである。但し之は高麗の歸化民の氏だけである。別に任那、百濟、新羅の歸化民が少くないのである。

(一四、八、一八。朝風莊。『モダン日本』十四年十一月號)

對馬の秋

(昭和十四年十月 持久戦時代)

對馬の秋? そんな遠い邊鄙なところをと云ふなか

れ。關釜連絡も大連航路も對馬のそばをながめて通るのである。

釜山と對馬と壹岐と博多又は平戸の間はそれぞれ三時間程の船路である。ひるすぎに博多をあとに夜對馬嚴原に着く、あくる一日島内見物におくり、その夜歸路につけばあくる朝は博多にかへつてゐる。それとも釜山へ志してもよい。又その途上壹岐に立ちよれば、これ又一日で島内くまなく見物ができる。

對馬はつつじの咲くころがよいといふが、秋晴れの旅にもよい。對馬の面積は七〇二平方キロメートルで淡路、壹岐、隱岐などの約五倍にあたるが、何分にも榮螺のやうな、さう高くも無いが、けはしい岩山が林立し海岸に迫つてゐる。上縣と下縣二郡を通じ自動車道は數へるばかりで、あとは船か徒歩か馬背による外無し。

對馬の旅は數日滞在して、古くからの支那朝鮮との間のくさぐさの史跡をたづねるもよいが、一日の滞在ならば淺海灣の見物をおすすめする。淺海灣は上縣と

下縣二郡の間に横はる内海で、灣口は西方に開け東は大船越の瀬戸及び久須保水道により日本海に通じる。灣内の面積七千町歩に近く南北三里五町、東西三里二町、灣の周圍五十七里、島嶼の數五十八を算へ、水深は四尋より四十一尋に及ぶ。かつて要港部として知られた竹敷も此灣内に在る。

淺海灣の全景は嚴原から程遠からぬ龜阪のピークから一と目である。いや淺海灣ばかりで無い、下縣郡の北半分と上縣郡全部が一望の下にある。對馬はいかに山角瘠せて榮螺のやうになつてゐるかが一と目で分かる。全島一町十二ヶ村、戸數九千餘、人口五萬四千、それで小學校の本校がなんと三十六……戸數五百位で本校五ヶ所といふ村さへある……分教場二十一それで學級は二百十三しかないといふのだから、交通の不便さが推しはかられる。

龜阪からながめた景色は、松島のそれでも無い。屋島や瀬井や下津井から見た瀬戸の島々のそれでも無い。先づ天草の上島から天草松島をながめたそれにやや趣

きを一つにしてゐる。

此風光は寫眞にしてもつくせない。まだ地圖で想像をめぐらす方がよいかも知れない。何よりも、とにもかくにも實地に足をこぶ事である。

淺海灣にくさぐさの史實も残されてゐるが、幕末オロシアの物語だけをここに止ることに止める。

日本海の咽喉を占めてゐる對島に、尤も食指を動かしたのはオロシアである。文久元年二月露艦ボサジニック號は函館から長崎への道すがら、船に損處が出来たといふ口實の下に淺海灣内芋崎に碇泊し、艦體修理の爲め家を建てる土地を借りたい。それから一里四方は解放して散歩に便宜を與へるやうにと申込んだ。藩主宗義和は之を幕府に告げる、電信といふわけにもいかない、早馬か何かでお江戸へ注進してゐるうちに、露艦の人々は木を伐り家を建てはじめた。或日露人はボートに乗り芋崎から東の奥なる大船越の堀割を日本海側へ抜けようとした。關守は村人と共に之を防ぎ止める、ロシア人はピストルをぶつ放つ。松村安五郎は即

死する。吉野敷之助は胸を傷けられる。

幣原博士の朝鮮史話によると、吉野はボートへ引き込まれようとしたから、身ををどらして海に投ぜんとしたが自由がきかない。そこで舌を嚙んで死なうとしたので露人も驚いて之をかへしたが、敷之助は外夷に捕へられたのを耻ぢ藥を退け憤死した。

とある。ボートは遂に堀割を通る事が出来なかつたのである。露艦の芋崎滞在は七ヶ月の長きに及び、幕府と露國官憲との談にて漸く芋崎を引き拂つたといふ事であるが、此史實はあまり世間に傳へられてゐない。

龜阪から見さぐれば左に芋崎の鼻も見える。その中ほどに海に添うて漁村らしいのがあり、赤煉瓦の煙突が只一つ立つてゐるのが、その昔、要港部として花やかであつた竹敷である。今は煙突一つがかたみに残されてゐる。自動車を通するまま竹敷の要港部のあともたづねて見たが、今は戸數四五十ばかりの寒村にすぎない。このあたり廓のあとといふところも、枇杷畠となり丈にあまつてのびてゐる。

嚴原はじめ、元寇のあとなど語りつぐべき史蹟も少くないが、それはその地を踏んで感慨にふけるがよい。ここには極めて手近い關釜間の道筋に一日の行程にても足りる對馬がある、秋の旅のよすがにも……。

『オール讀物』十四年十一月號

臺灣征伐の跡

(昭和十五年三月、昭和の維新)

(臺灣遊草の一節)

一、ガランビーと四重溪

臺東からさらに南下してバロエ越えにかゝる。コ、アヤコーヒの栽植にかかつてる森永の事務所にて下車餐食、さらに西海岸の楓港に出て、鷲らん鼻の尖角までドライブする。こゝは臺灣の最南端として有名であり、燈臺もあり、ガランビー神社もある、その境内に筆者が在職中によみいでし、

日の本のみんなみのはしに我立ちて
ふりさけ見れば黒潮をどる

といふ歌の碑が建つてある。ところが今次此のガラ
ンビーが日の本の南のはしでなくなつたのであるさら
に遙か遙か南に新南群島が我日本の領土として宣言さ
れたのである。そこで今次のガラランビーの旅次にヒネ
リ出された歌は、

日の本の光はてなしこゝにして

新南群島ははるか／＼南に

といふのである。

ガラランビーから引かへして枋寮よりいくばくもなく
路を山の手にとると四重溪温泉に至る。このあたりが
明治七年臺灣討伐の史跡である。明治四年十一月の昔
にさかのぼる。東海岸の南端近くに漂着したる琉球藩
民六十六名は蕃地高士佛社に迷ひ入り、同社に一泊し

たるも、危懼甚しく同社を脱走すること二里餘、雙溪
口にて牡丹社蕃の爲め頭伸宗根支安以下與人、目兼、
筆者、隨行五十四名は殺害せられ、十二名は保力楊友
旺の加護により辛うじて歸還した。日本政府が清國政
府へ談じこむと化外の地化外の民の仕業である、責任
はもてないといふ。それなら當方から直々責任を問ふ
といふので、陸軍中將西郷從道征臺軍都督として渡海
したのが明治七年の臺灣征伐である。

本街道から折れていくばくもなく右手の田中に、木
麻黄の樹々に圍まれた碑石が見える。琉球藩民の墓で
ある。これから數町にして四重溪の町を通りぬけ半
ちばかり、石門の古戦場に達する。東城溪の上流右岸
五重溪山と相對し斷崖相迫りてその幅僅に二十間、い
はゆる石門と稱せられるところ、牡丹社の兇蕃頑強に
抵抗する、時の佐久間中佐は二個小隊を率ゐて五重溪
山に登り石門の上に出て牡丹社頭目等を斃した遺跡
である。その佐久間中佐は後年、臺灣の總督となり、
全島の生蕃討伐を決行する事となつたも、ふしぎな因

縁といふべきである。

今はこの石門の手前の四重溪に温泉が見出だされ、
臺灣南端に近き一仙郷として、行客の旅塵を洗ふ別天
地となつてゐる。僕の此度の旅中には海南島崖縣の温
泉と井に、野趣に充ちた泉郷として忘れがたい思ひ出
となつた。

畑中に木麻黄しげり石碑見ゆ

牡丹社ははや遠からなくに

天そゝる巖せまりて谷狭し

吹ぬく風の力のつよさ

二、地名改稱

高雄から臺南への汽車中に車路境といふ驛名を見出
した。筆者にはシマツタといふ思ひ出が又浮び出たの
である。

車路境といふ名は三字であり、又境といふ字はむつ

かしい字である。鐵道案内をくつて見ると、三字の驛
名は番仔田、林風熱、白沙屯、淡叉湖、公司寮、伯公
岡、埕子脚などがある。在臺足かけ七箇年の在職中に
はいろ／＼の仕事をしたが、大正九年臺灣地方制を布
くと共に市街庄の地名は之を簡易化する、字畫の多い
もの、讀みにくいもの、紛らはしきものはすべて二字
につめ讀みやすく改めた。打狗のターカオは高雄とな
つた。礁吧啤は水清きまゝに玉井になつた。水邊脚は
そこまで潮がくるといふので潮止に、清い水で名高い
から牛罵頭が清水に、米の名産地だから葫蘆墩が豊原
と改稱した。さうした風に臺灣の地名にして蕃語を當
時の支那音にうつして漢字をあてはめたのは、北海道
でアイヌ語を日本語にうつして漢字をあてはめてある
のと能く似てる。そのやゝこしいむつかしい讀み方を
簡易化し、同時になるべく日本語にしたのである。
ところが鐵道の驛名中、街庄以下のところには猶三字
名、それもむつかしい名前のもが昔のまゝ残つてゐる。
シマツタといふ昔の思ひ出が湧き出たのである。

市街庄の名稱で地方制施行の際好い分別がつかず、たうとう昔のまゝの読み方で通したものに基隆のキールンがあり、三字のまゝの読み方で花蓮港がある。キールンといふ名があまりに言ひふらしてあるからそう簡単に代へにくい。さりとて日本よみでキールンとよめる字は見當らない。狗の港は音便で高雄となつた。基隆は佐久間總督のやうにキリユーと讀むのも一策であるが、たうとう之れは基隆と記し、キールンと昔ながらの讀み方をつゞけてゐる。

花蓮港は三字のまゝ、殘された唯一の例である。只花蓮といふのもゴロがわるい、というて根こそぎ代へるべく既にあまりに言ひ古るされてある。此度花蓮港をたづねて遠からず一躍市制を布かれるまでに發展しつゝあるを見て、今さらに何んとか思ひ切りやつてしまふのであつたといふ感をふかくした。同じ東海岸でも璞石閣は玉里と改めた。當時何んだか女郎の名のやうだとケナシた人もあつたが、今では玉里がかつて璞石閣といつたといふ事さへ世間から忘れられてゐる。

花蓮港でも花蓮廳花蓮港郡花蓮港街花蓮町とか何とかいふので、あまり管々しく困つてゐる。市制にでもなると、土地の住民はもとより、これから出来る會社、工場、商會、學校、病院、協會、事務所、官公署など、どれもこれもこの管々しさに惱まされる事とならう。三字と二字とではその手數と損失は看板や廣告料だけの問題でない。時恰かも市制を布かれる機會に二字の然るべき名に改稱してほしい。内地でも數多い町を合同して海南市とつけた例もある。宇治山田市は近く伊勢市となるといふ。今や改稱すべき絶好のチャンスである。

三、支那事變と臺灣

年々歳々花相同、歳々年々人不同といふ詞がある。花は相同じいかも知れないが、支那事變に直面した臺灣は其の自然に於てもかなり變りつゝある。東海岸の花蓮港に港らしい港が出来た。高雄の港は著しく發展しつゝある、臺中州の沿岸には新しい港が芽生えつゝ、

ある。況んや人に於てをやである。

多數の中には例外もあらう、しかし支那事變に對する外地の人々の活躍は、朝鮮のそれの如く臺灣に於ても目ざましいものがあつた。臺灣から夥しい軍夫が支那に渡つてゐる。さうした人たちの業績は内地人に比しても勝るとも劣らないと激稱した話は、一昨年支那の旅で屢々耳にしたのである。南支方面には通譯にはもとより衛生醫藥といはず、あらゆる方面に本島人は活動をつづけてゐる。

臺灣の主なる土地に神社ができた。神社は之を取り巻く民衆の敬信の的となるばかりでない、鎮守のお祭り、官相撲、かけ馬、曰く何曰く何、お宮さまは又暖かいなつこい明るい朗かな、村人を引きよせ、手をつなぎ合はすところとならねばならぬ。さうなつた時に神社を中心にした眞の親和がある、融合がある。支那事變はまさしく外地融合のカスガヒをも打ちおろしつゝある。

朝鮮では妓生は日本語を話し日本の歌をうたふ。臺

灣では日本語を話さない、歌はない。話せないではない、歌はれないではない。口にしなかつたのもあつたであらうが、今は盛んに話す、歌ふ。これも一つの時代のうごきである。臺北の高等女學校では本島人の娘たちの日本キモノを着るのが珍らしくなくなつてゐるのである。

朝鮮では志願兵の制をはじめた。新なる試みとしては成功したもとのいふのは定評である。我等京城孔德里なる志願所を參觀した感想も、まさしくその成績の可なるを看取したが、支那の戦争に志願兵を率ゐたる將校からも、有力なる裏書きせる話を親しく耳にしてゐる。昨年新京で日滿華交驩競技會が開催された時に張總理は大會の總裁として開會式の席上に、我等はかうして集まり、どこにちがつた點が見出されようか、只詞を誌す時だけであるといつたが、その詞さへも今や非常な速度で普及されつゝある。

しかしまだ慾をいへば、さらに姓氏によりて立てられる彼我の差別を無くする事である。詞が同じくなり

更に姓氏によりて差別ある事が意識されずにするれば、もはや差別意識を起すべきものはなくなるのである。朝鮮では姓氏を日本役に改むるの道を開いた。臺灣に於ても又此の紀元節からその道が開かれる。

我等の民族はもとく南洋、朝鮮、支那、滿洲各方面からのあつまりである。それが島國で長い歲月の移るまゝに渾然として今日の大和民族を形づくつたのである。徳川幕府以後の接觸であるが、沖繩は内地と一如の狀態になりつゝある。いやもはやなつてるといふのがよいであらう。時は恒久であり、氣短かく速成をあせつても無理である。只今回の事變はさうした期間を著しく狭めスピードアップしつゝあるといふ事は、支那事變がもたらした大きな副産物である。

四、臺灣征伐

石門の戦跡をしのびて明治維新史をひもとき、臺灣征伐の昔より現下の時局に想到し、そこに幾多の感懐を催した。

臺灣征伐は只臺灣を征伐する、牡丹社の生蕃をやつつけるといふだけの問題ではなかつた。それまでに琉球民遭難の爲めに臺灣征伐となり、大久保利通の清國行となり、日清間に締結されたる天津條約は琉球人の日本臣民たる事を條約面に明記される事になり、琉球の日本歸屬といふ事が自から確認されたのである。そんな事は何んでもないぢやないかなどと云ふなかれ。當時日本政府の左院では琉球は日本支那兩國に兩屬せるものと見なすべしと議決してゐたのである。

明治四年琉球民遭難の年は岩倉大使一行歐米に出張した年であるが、年表中少々抜書をして見る。

明治六年

一月 太陽曆行はる。徴兵令布告さる

二月 外務卿副島種臣を清國に差遣す。四月日清條約成立す

六月 西郷參議板垣參議に遣韓使節たらんとする衷情を訴ふ

七月 副島種臣西郷隆盛と遣韓使節の任を争ふ、

三條相國裁斷に苦しむ

八月 廟議西郷を韓國に派遣するに決す

九月 岩倉大使歸朝

十月 遣韓大使の件漸く可決されしも、三條相國病に斃れ岩倉等の反對意見貫徹し、西郷隆盛、江藤新平、板垣退助、後藤象二郎等野に下る

明治七年

一月 武市熊吉等九名赤坂喰違に岩倉右府を邀して之を傷く、次で捕へられ七月皆斬に處せらる

二月 江藤新平等佐賀に兵を擧ぐ。大久保利通自ら征討の任に當らん事を請ひ、鎮撫の命下る。小松宮征討總督の軍着するに先立ち、大久保自ら軍を部署し三月一日賊を破る

此の四月である。臺灣征討の議決し陸軍少將西郷從道を中將に進めて臺灣事務都督に任じ、陸軍少將谷干城、海軍少將赤松則良を參軍とし、兵三千六百人を發して征討に當らしめる事とした。前にも記せる如く政

府は一面征韓論を否認し内治を先決とせる時、臺灣征伐を企てし事はまさしく矛盾の甚しいもので、時の參議兼文部卿木戸孝允は内治未だ整はずして兵を外に構ふるの非を論じ、極力反對したが容れられずその職を辭してゐる。しかし政府の征臺を企てしはこれによりて征韓論者の不平を緩和し、且つ輿論を鎮壓せんとしたるもので、夫婦喧嘩のときに外の火事に氣持ちの轉移をはかると同じく、國內政治に對する應急策でもあつたのである。

されば米國の將校を招聘し又船舶を借り受けたが、米國は中立を守りて將校の解雇と返還を求め。英國も時局の擴大を欲せず征臺中止の忠告を試みる。政府も躊躇して遂に征臺の中止を爲さんとしたが、西郷都督は清國から若し抗議があらば我等朝命を服せず勝手にやつたものである、政府の關知する處にあらず、と言つてやればよいと、五月二日遂に長崎を出發したのである。

これから臺灣征伐となる。さきに化外の民の爲すと

ころといつた清國は、我領土であるからと撤兵を要求する。西郷都督は、臺灣が清國の領土かどうか知らない。只勅命によりて蕃賊を討伐したのだ、勅命の無い限り一歩たりとも退かないと頑張る。そこで福建巡撫は兵を率ゐて我征臺軍を攻めたが撃退される。一面政府は参議兼内務卿大久保利通を全權辦理大臣として清國に差遣する、談判決裂引きあげんとしたが、ウエー下英國公使の仲裁がはいり、七年六月媾和條約締結せられ、被害民救恤金十萬兩征討費四十萬兩を出させ、今後蕃人をして我國人に危害を加へざる事を約せしめた。同時に此の條約により琉球人の日本臣民たる事が裏書されし事、前に述べし如くである。それならば國內は臺灣征討によりて民心が安定する事となつたであらうか？

五、明治維新と昭和維新

それならば臺灣征討によりて征韓論者の不満は緩和され輿論も鎮壓されたであらうか、さらに年表を拾つ

て見ると、

明治八年

一月 井上馨等の仲介により大久保板垣木戸の大坂會談あり、三月木戸板垣等又参議となる
五月 公使榎本武揚露國外相との間に樺太千島交換條約を結ぶ

八月 雲揚號朝鮮江華島に泊し、其の島人に砲撃せられ、我兵防戦す

十月 木戸参議朝鮮處分の使節たらん事を乞ふ。

板垣参議島津左大臣下野

十二月 黒田清隆井上馨特命全權辦理正副大臣となり、朝鮮に赴き條約を議し江華島事件を談判せしむ

明治九年

二月 日鮮修好條規交換、江華島事件の紛狀を收む

三月 木戸参議辭職、後藤象二郎元老院議長より下野、廢刀令布かる

十月 熊本に神風連の亂起る。秋月藩士の亂次ぐ、

前原一誠等萩の亂起る

動亂は矢繼早に起り出した。最後があくる明治十年二月に、西南の亂となつたのである。西郷従道がかゝる事もあらんかと憂へ、征臺の擧を強行したがその兄であり、大久保利通等と莫逆の友である隆盛と、遂に兵を交へざるを得ぬ事となつたのである。

當時の日本の政情を今日と相くらべたならば、何よりも先づ政局に當る人たちの眞剣味がうかゞはれる。

歐洲では各國の外相はもとよりヒットラー、ムッソリーニ、チェンバレン、さうした列國のリーダーは、互に身を挺して相手國へのり込んでゆく。日本では隣國と雖ども地理的關係に於てかなり隔りがあるとはいへ今日よりもさらに、交通の不便なりし時代に、維新の元勳たちは遠く難に赴くべく、互に身を挺して朝鮮に清國に自ら派遣せらるべく運動してゐる。かうした熱意、かうした信念は、その後の日本に於てはどうであらう？

かうした時代に征韓論に限らず、國策については右に左に火花を散らして相論争せるはもとより、民衆の中からテロ手段に訴ふる者の續出せる事も又怪しむに足りない。横井小楠、大村益次郎、廣澤眞臣、大久保利通等刺客の手にその命を失つてゐる。しかしそれらの下手人は皆斬に處せられてゐる、岩倉右府の時は傷けるに止まりしも、武市等九名は皆斬に處せられてゐる。

その後森有禮、星亨、阿部守太郎等の命を奪ひし者又大隈重信を傷けし者も自から命は捨てられたが、原敬、濱口雄幸、井上準之助、團琢磨、犬養毅、永田鐵山、近くは二・二六事件を通じ、自ら命を失ひしものなく、その多くは獄につながれ既に出獄せし人たちも少くない。そこに、法の裁きにも時の動きのある事は見のがせない。

明治維新の政局に直面せる人々には、その信念を貫くべく決然挺身するところに潑刺たる興國維新の意氣が燃えてゐた。しかも明治政府の巢立ちせるばかりの時である。その後日清日露の戦役を経て、世界の一等

國にまで躍進し、世界列國を前に敢然としてタンカの切れる今日とくらべて、明治の初めはあまりにもまだ弱々しい日本であつた。幕末より至るところ保守と改進、勤皇と佐幕の摩擦がある。そこへ斷髪となり廢刀となり、遷都となり、廢藩置縣となり、四民平等となり、國民皆兵となる。上へ下へと火事場以上の大混亂の中に、歐米列國は鋒を揃へて四方よりつめよせてくる。さうした中に我等の先人は熱誠と信念を以て邦家の重寄に任じ、百年の大計を樹立したのである。

我等昭和維新の渡頭に立つ者、遠からぬ明治維新をかへりみて、教へらるゝものが少くない。

〔改造〕十五年四月號

蘇東坡と落書

(昭和十五年三月、
海南島遊記の一節)

一、海南島の蘇公祠

海南島は蘇東坡が、
四時皆是夏 一雨便成秋
と吟じたるが如く、四時花開き椰子檳榔樹の木々を吹く風暖かに、一年四季を通じて清爽の氣に満ちてゐる常夏の島である。

昭和十四年の十二月三十日、臺北をあとに海南島の南端三亞に飛び、そこに筆者海南は光輝ある二千六百年の元旦を迎へた。島の北端海口へ引きかへしたのは一月の三日で、蘇東坡の遺跡をたづねたのは、ぼかぼかと暖かい一月四日のおひるであつた。蘇東坡の古趾といふのが海南島唯一といつてもよい史蹟になつてゐる。海口と瓊山府の間は殆んど土饅頭塚の連続であるが、その道すぢから海口より瓊山に向ひ右に折れて程近くに在る、さゝやかながら池を隔てて瓊山府城の外郭が形づくられてる如く見える城壁の廢墟……實は土塊の丘陵であるが、廢墟の城壁の如くに見える……を前にし池中への出島がある。熱帯植物によりまばらに圍まれた一角があり、小亭の下に腰かけがあちこちに

ならんでゐる。

この池と路をへだて相面して赤く白く彩られた門に蘇公祠といふ額が掲げられてあり、中門には又南溟奇甸といふ額……これは明の太祖が海南衛指揮を勞せる詞の中より抜きとられし文句であるといふ事である……がある。正面中央の廟宇の中に、

宋蘇文忠公諱軾神位

とされる霊位がまつられ、この手前に我等の眼を引く獨逸字でしるされたる額面がある。光緒乙未瓊海關吏稅務司機往遊のときの事で、

君子經行處 鄉風化善良

後人承教譚 千載感遺芳

といふ白門董林直臣の譯字も併せ刻してある。後年この税關に高柳松一郎君が在職したことがある。當時この額を見てなにがしか感懐を催したと思ふ。もし君が猶健在にして我と行を共にし、今又更にこの祠前に立つならば、まさしく感慨無量であらうと思ふ。

二、流謫されたる蘇東坡

蘇東坡は、宋の哲宗紹聖元年五十九歳の時、河北省の定州から英州へ、さらに廣東へ左遷された流配には安置と流徒の別あり、東坡は寧遠軍節度使副使といふ肩書で安置されたので、毎日愛妾の朝雲と三男過と共に作詩に耽り自適してゐたが、間もなく朝雲が亡くなる、東坡はさらに海南島儋州に流された。王敏中におくりし書中に、

某老に垂んで荒に投ず、復生きて還るの望なし。

今海南に至るや、首めには當に棺をつくるべく、

次には便ち墓を作るべし。(中略)生れて家を擧

げず、死して柩を扶けず、これ亦東坡の家風なり、

この外は宴坐寂照のみ。

とあるはこの時であつて、惠州から雷州への旅次に同じく流されある弟子由(名轍)に會し、起臥を共にすること二十餘日、追迫の命急にして、海を渡り瓊州に上陸、肩輿により僮耳に着き、太守張中の同情をうけ

てゐたが、又有司から苦情が出て倫江驛を逐はれん椰林にうつされてる。この三年間は、

食ふに肉なく、居るに室なし、出るに友なく、冬に炭なし

と述べてる。時には食に乏しく蝙蝠や蝦蟆を食したとある。哲宗崩じ徽宗位に即きて東坡は廉州にうつされ次いで永州にうつされて朝奉郎に復し、建中靖國元年常州にて六十六歳を以て永眠してゐる。

蘇東坡が遠い遠い南陔の果てへ、引きつゞき上司から窮迫されて来たのは、流謫中に於ける彼の作詩に恭順の風がない、上司を馬鹿にしてるといふやうにとられたのらしい。近頃よくいはれる筆禍である。東坡の流謫中の作品としては陶淵明の飲酒二十首に和せし和陶詩四卷は有名なもので、易傳、書傳、論語の三傳及び未完成の東坡志林もある。その桃柳庵の銘に、

僕筆硯を焚いて既に五年、なほ味をこの學に寄す、隨行に陶淵明集あり、陶、伊鬱を寫す、正にこれに頼るのみ。(中略)海外に流轉するは空谷に逃

るゝが如し、既に語を語る者なく、又書籍擧げて有る無し、たゞ陶淵明一集、柳子厚詩文數東、左右に置いて、目して二友と爲す。

とあり、以て東坡の風懷を窺ふべきである。東坡黨諍の嵐にもまれて遠く海南島に流謫せられ、しかも思ふまゝ信するまゝ之を口に筆にし、筆禍の連続線でその一生を終へてゐる。支那は物的なところであるといはれ、勘定高い民族なりといふも、邊土の島に東坡の遺跡の祀られてあるを見れば、日本の徳川三百年歴代の數知れぬ御大老や老中の遺跡は、今ではよく知られねど、一俳人芭蕉の遺跡の餘りに多く廣く江湖おしなべて渴仰の的となれるにくらべ、又東坡の拓本をならべて賣りものにしてゐる祠堂の風景を見ては、御大老や老中たちと事ちがひ一儒者頼山陽の尺簡寸墨がいかに持て囃されてゐるかをおもひ、支那だからといつてさう阿堵物一點張りではない、矢張り氣品の似通へるもの無きにもあらずといふことがうなづかれる。

蘇東坡の名は、赤壁の賦で日本人に知られてゐる。

現にこの祠堂には、まだ繪葉書も、名所案内記も賣り物に出してはゐないが、東坡の拓本は、數多く敷きつめし墓の上にならべられてある。海南島謫居の際の風情を洩らしたものであるかと思ふとさうではない。赤壁賦など他所ものばかりである。値段も相當に高い、値切つて見るが手を振るばかりである。

蘇東坡の遺跡をたづね赤壁の賦

吟せんとせしが思ひ出されなくに

三、五公祠廟

蘇東坡の遺跡ばかりと思つて出かけて見たが、東坡の祠堂を中央に左右にも先人を祀つてある。その左の方は五公祠廟として土地ではかなり名が賣れてゐる。欄仁……これは沖繩でおなじみの「小はせいし」といふ僕にはとても好きな樹である……の大木のもとを過ぎ、中門を左にぬけると二階建の高樓があり、海南第一樓といふ大きな額がかゝげられてある。

階上に上ると、安國危身とあり、そこに次の五つの靈位がならべられてる。

宋尙書右僕射李忠定公諱綱

宋尙書左僕射贈太傅趙忠簡公諱鼎

唐尙書左僕射贈大尉李公諱德裕

宋祕書少盛胡忠簡公諱銓

宋資政學士李莊簡公諱光

この中央の李德裕は、唐宋約五百年間を通じ、名流の官人學者の中でも尤も有名であつたらしい。唐の宰相であつたが、貶せられて瓊山縣張吳都顔村に望闕亭を建て、そこに配所の月をながめてゐたのである。

榕上江亭望京帝 鳥飛猶用半年程

江上只恐人歸去 百匝千廻繞郡城

といふのがこの時の作で、海南島開拓の先覺者として讃仰されてゐる。

四、伏波將軍廟

海南第一樓を下りて、又もとの東坡の祠堂の前をよ

こぎり、向つて右側の一とかまへに入ると、そこにはさゝやかながら林泉の見るべきものがある。階段の下には浮粟泉と名づけられた泉石があり、そこに神龍と刻せる道光時代のほりものがある。階上へかけてところ／＼に、佛桑花の眞紅の花は今を盛りと咲き匂つてゐる。乾隆時代に建てられた粟泉亭といふ建物を右にし正面に洗心軒といふ額の掲げられてある兩伏波祠がある。中央には、

漢伏波將軍邳離路公諱博德之神位

漢伏波將軍新息侯馬公諱援之神位

と一つの靈位が祀られてある。我等中學生時分に十八史略にておなじみになつて居るのは、この新息侯馬援である。伏波將軍の四字はまだ耳の底に消されずに残されてゐる。史を按ずるといふ程でもないが、馬援字文淵は純然たる武人の出である。後漢の初めには武將として王莽に、後は光武帝に仕へてゐる。建武九年太中大夫となり涼州を平げ、次いで十一年には隴西太守となり歩騎三千を率ゐて西羌を破り八千人を降し、揚武

將軍となる。伏波將軍となつたのは十七年で遠く交趾を討つて銅柱を立て、新息侯に封ぜられ食邑三千戸を給せられてゐる。遠く波浪を蹴つて交趾へ討伐の通路海南島を経たので、風模様でも待つてゐたのか海口の西方詹縣に足をとめて居たらしく、そこに白馬井といふ地名も今猶残つてゐる。馬援は二十四年に、匈奴烏桓が北邊を擾せるとき、男兒まさに邊野に死すべしといひ、老驄を押して匈奴の討伐に従ひ、翌年陣中に歿したるは史乘に傳ふる如くである。

伏波將軍馬援の廟のきばはしに

眞紅にもゆる佛桑花のはな

伏波廟の前にたゝすめばよみがへり來

十八史略の將軍馬援

五、落書の癖

東坡の遺跡をたづねて私が何よりも不思議に感じた

事は落書の無かつたことである。由來、日本人は落書の民族である。我々は子供の時から壁にでも塀にでも神社の鳥居にもお寺の樓門にも机卓子にも雪隠の板にも、苟くもいたづら書きのできさうな處には何がしか落書をする。いかさま文字の國の民だけはあると感心したければしてもよいが、これは文字に限らない。塗立ての壁や塀なら歩きながら筋をつける。さらに繪畫の心得があるのか、よく繪をかく。それも相當やゝこしい風紀上いかゞはしいお座に出せない繪？ それに添書きなどが書きながらされてゐる。あのなんとか組とかなんとか講とかなんとか會とかいふので、名前や屋號など印刷した張札をするのは忍ぶべし、かうしたいかゞはしい落書に至つては全く感心しない。

曾て歐米の旅を續けた時に、歐米人は餘り落書しないといつたら、或る友人は外人をほめると馬鹿に興奮するたちで、いかにも心外さうな顔をして聞いてゐた。併し事實は事實だから、黙り込んで小首をかしげてゐた。その後幾日か經つとロンドンの旅先から手紙をよ

せて、今日ロンドンのウェストケンシントンであつたか、とに角ある公共便所に入つたら、かく／＼の落書がしてあつた。怪しからぬ繪もかいてあつたと注進に及んだものである。その時に僕は君がロンドンで鬼の子でも取つたやうに落書の注進に及んだが、それほどまでに落書が珍らしいので、これが日本であつたなら、こゝにも落書してある、かしこにもしてあると毎日のやうに注進ばかりしてゐなくてはなるまい。又よしんば歐米で落書が多いからとて、なにも日本で落書してよろしいといふことにはならないぞよといつたものである。

事實朝鮮の金剛山に登つても、至る處石の上に北海道平民何の某とか福岡縣博多どこ／＼の何の何之助であるとか、群馬縣高崎何々會幹事何の何吉だとか、それは／＼根氣好く丹念に書きつけられてゐる。大同江畔浮碧樓や玄武門のあたりにも鴨綠江畔統軍亭のあたりにも、至るところ落書されてゐる。滿洲の旅にも北支蒙疆の旅にも、いつも行きあたるのは落書である。

しかもそれはいつも日本人であつて、土地の人たちの落書らしいのはあまり見當らない。

六、蘇公祠に落書なし

この程中支から歸朝された淺野孝之君の巡遊談を聞いた時にも、廬山に至るところ落書がある。いづれも日本人である。愛知縣何郡何町の何三郎などと銘してある。どの落書を見ても、民國人らしいのは見られない。それに感心なことは、先方の制止する詞使ひである。日本式の鹿爪らしい文句を全然避けてある。休憩處などに張札してあるその文句は、いかにもシヤレてゐる、上品である。

乞壁上勿題咏

これへ廬山林野局敬白とていねいに敬白してるといふことである。これは相手が日本人だから敬白といつたのかも知れない。もちろん日本の警察の文句だとして藝術的なものもある。

この土手に登るべからず警視廳

などいふ十七文字もあると感心して手合もあるが日本の凡ての揭示のギゴチないこと、生硬なこと、讀み分けにくいことは驚くばかりである。

大分に話が横道に外れたが、とにかく内地といはず満支といはず到る處に今落書オン・パレードである。南京の郊外なる明の孝陵、ある雄大な孝陵にはそこに幾つかの門がある。城樓のやうな處もある。いづこを見ても、落書である。とても盛んなりといふべしである。何も南京の古い陵墓をかつぎ出さなくとも、内地で神社佛閣名所舊蹟いづこにありても落書横行に氣がつかぬはずがない。いや、むしろ歐米などに旅してはじめて落書のないのに氣がつく位である。それに何ぞや、今海南島の一角東坡の遺跡をたづねて、そこに落書がない。そんなはずがないといつてもないものはないのである。これは不思議だ、珍らしい、稀れなことだといふと、傍なる人が僕にあれを見なさいと指で指してくれた。見るとたしかに揭示がある。その意味は落書してはいけない、もうこの壁はこれで三度塗りかへてあるのぢや。

〔中央公論〕十五年四月號

歐米篇

山水篇に次で此一篇だけは、大正十年の秋より十一年の春にわたる歐米巡遊記である。舊著「歐米より故國を」から非理法權以下十三節を摘録した。二十餘年前の舊遊記であるが、猶現代にふりかへり見てうなづかれるもの指針となるべきふしがなくはない、鷗助捨てがたきを覺えたのである。

非理法權天 (大正十年秋、 アメリカにて)

合衆國に旅してガラソクと鳴る汽車の鐘の音を聞き、四十餘年前の西伯利亞鐵路の旅を思ひ出した。日本の様な小さい山國では、ビューと耳を劈ざく汽笛は日本の國民性にふさはしいかも知れぬ。同じ様にアメリカの汽車の鐘の音が、ガラソクと緩るくノンビリと鳴るのははて知らず廣い大平野の氣分が現はれて面白。

南加州ロサンゼルス市へ來ると、ブルマンの急行車は人口七十萬の大都のたゞ中へ、ノソソクと例によりガラソクと音立て、道路の只中を進行する。兩側の横道にも、線路の左右にも、柵を無い垣も無い。かくの如きを宜しいとは云はぬが、日本では法律規則なるものありて、しかも少しも融通が利かぬ仕かけになつてゐる。

大都會の往還の眞中に急行車が走ると云へば、日本人は眼を廻はずかも知れぬ。木柵一つ無いと云へば、世間の口や新聞などは、嘸や嘸八釜しくなる事であらう。一日も早く天下交通の利器が活用される爲め生ずる現實の利便と云ふ事よりも、ヤレ高架だ、地下だ、木柵だ、踏切だ、切りの無い詮議立てに長い時と少からぬ金が費される事であらう。さうして竣工の時が遅くなり、汽車賃だけは高くなるであらう。

昔楠廷尉正成は、非理法權天と云ふ五字の番號を記した旗を押し立て戰場に臨むだと云ふ。非は理に勝たず、理は法に勝たず、法は權に勝たず、權は天に勝たずと云ふのである。權とは權力である、力である。力ありて法が出来る、しかし法は人ありての法である、法の爲めの人ではない。

法を無視せよとは云はぬ、法を曲解せよとは云はぬ。然かしもとく法は神意ではない、人間が作ったものである。然かも社會を對象とするものである。社會は靜物ではない、動いてゆく、變つてゆく、寸時も靜止

してゐない。あまりに法に囚はれ過ぎる日本人には、法三章とか徳川百ヶ條のふる事を話すよりも、ロサンゼルス市の大往還の只中を、ノソソクとゆすぶつて行く、急行車ブルマン・カーのガラソクの鐘の音を聞かすのも一策である。

物價調節 (大正十年冬、 アメリカにて)

シカゴのゲーリー氏の製鋼所で、何故に時間中猫も杓子もボロイ儲けをしてる際に、薄利に甘んじて居ましたかと尋ねたら、ゲーリー氏答へて曰はく It pays 之れは實業團の大橋新太郎君の直話であるが、實際米國では凡て公益と云ふ事を中心にして活動する。若し利益が餘分に出てくれば、それ丈け安く賣る、一般民衆の福祉の爲めに、如何にせば安く多く廣く賣ることが出来るか、之れが凡ての階級の努力の標的である、公定利子は六分である。其以上の配當は各會社にても

殆んど見當らぬといふ事である。ところが極東をかへり見れば、戦が始まつて五割以上も配當する、まだ配當仕切れぬから、事實事業の擴張もしないに増資に振りかへる、蝸配當してもおつつかぬ、申合はして生産を制限し、價格の低落防止の城塞に立て籠もる、如何にせば戦時昂騰せる物價を維持すべきかと努力する會社、見て居る政府、極東の日本も亦幸なるかなである。實業團の諸君及び東道の一人小林正直君の話によると、合衆國民のなす事は、事々物々よくも日本と裏表になりて居るかと思ふ節々のみである。今其重なるものを摘記して見る。

一、生産の種類を生活の絶対必需品と、然らざるものに分かち、絶対必需品の生産の爲めには、農商工を通じ政府も金融業者も大に援助する。然らざるものは極度に引締める、彼の護謨の價格の暴落も、現時の米國に於て活用せらるゝ自働車すらも、贅澤品の部に入れたからとの事である。

二、株式取引所は日本のように延取引をせぬ、日本

のように北濱と兜町からの電報を以て足れりとする様な取引所はない。現物取引のみであるが猶投機的に株の賣買をなす事を防ぐ爲めに、各銀行は之に用ふる資金の回収を爲す、其回收高が大正九年に既に十億圓に上つてゐたとの事である。

三、聯邦準備銀行の制の下に各組合銀行を統率し、如何なる銀行も資本金の一割以上は貸出さぬ、借りた人も其一割を無利子にて銀行に預ける、そこで第一に日本の場合のやうな破綻事件起らない、左様な不健全な貸付は頭から無いからである。第二に萬一あつても相互に報告聯絡を取つてあるから、甲銀行にも乙銀行にもと、不始末の延焼といふ事が無い、米國では石井の定ハンでも指一本指す事は出来ぬ勘定である。

四、一般の給料及び勞銀は、此一二年間何れも一割から三割位迄引下げられて居る。鐵道のストライキは矢張り鐵道運賃の値下げの餘波であることは前に述べたる通りである。

五、節約の風はあらゆる方面に行はれる、殊に一般

需要者側のボイコットは尤も適切に利目がある。高いと云ひながら購買して居る日本とは大分趣きがちがふ、ヒューズ國務卿は贅澤品は最後のオンス迄無くして仕舞へと高調して居る。其説明の一競に節約すべきものとして、

- 三億五千萬弗 化粧品類
- 三億弗 毛皮の外套
- 三億五千萬弗 清涼飲料(生水で澤山)
- 四億弗 贅澤な石鹼
- 五億弗 葉卷煙草
- 八億弗 紙卷煙草
- 八億弗 刻煙草
- 五億弗 寶石類
- 三十億弗 贅澤な使用人の給料(自分でやるがよい)
- 三十億弗 贅澤な娛樂費
- 五千萬弗 チューイン・ガム
- 二億五千萬弗 アイス・クリーム

五十億弗 贅澤な食事代

此等の節約高約二百二十億弗に對し、義務教育費は四億萬弗、其教員の費用四億萬弗、其養成費一億三千萬弗に過ぎないといふ事を高唱して居る。

六、政府の財政整理及び軍縮問題も、各生産事業の利益の制限も、又前に掲げてある通りである。

如此あらゆる方面より努力せる結果は、物價にして戦前より安くなりしもの十七種、大正九年の頂上より下りしもの三十三種、生活費に於て衣類は四割方、瓦斯電燈が一割程、家賃の如きは頂上からは十分の一に下つたとの事である。無論物價の引下げは巨額の損失を來たす、恰かも日本で關稅の引下げとか生産制限とか、價格引上げとか、あらゆる方法により、引潮にあたり人工を以て一部價格の釣上げ維持に汲々たるを願みれば、如此引下げの強行は非常なる苦痛に相違ない。統計は一ヶ年に二十億から三十億の損失を計上して居る。然かし之れが爲に輸入超過の襲撃を支へたるのみならず輸出超過の勢をなし、戦時百六十億萬弗儲けた

ものを五十億萬弗の損失で喰ひ止めたのである。之を惡錢身につかず逆つて入るものは逆つて出づる計りである、戦争でほろく儲けたものを何時までも握り占めて居てはよくない、よろしく吐き出して可なりと輸入超過をつゞけて居る我國民の態度には今更ながら慄然たらざるを得ぬ。赧然たらざるを得ぬ。

現代離れの教育 (大正十年冬、アメリカにて)

華盛頓滞在中感じたのは日本人の語學の貧弱な事である。僕自身が下手な事に呆れたが、同時に我同胞がならしてまづい事を知つて嫌氣がさした。英學者として知名な人も今度華盛頓會議に來て居たが、何處で話をして思ふ様に通じない、ボーイに話しても通じない、馭者に話しても通じない、何うも亞米利加の言葉は下品でいかぬと負惜みを云うて居る。同じ象形文字を使つて居る支那人、朝鮮人でも皆相當に英語を話

してゐるのに日本人に限つて下手である、其の癖英語の字數は澤山に知つて居る、僕も其の一人であらうと思ふ。僕は實用的な英語は習熟せぬが、英文學は長い間稽古した。セクスピアを始めスコット、バイロン、アデキソン、ゴールドスミス、モーレー、カアーライル、アーヴキング、エマーソン、テニソン、曰く誰、曰く誰と英米の著名な人々の著作はかなり讀んだ、いや讀まされた。十數年間ぶつ通しの學生々活を通じ、英語の學課に縛られ通してゐたが有りがたく無い事には共華盛頓へくと、直に食堂のボーイにも自働車の運轉手にも話が通じない。日本の英語の教へ方は文字を學ぶのである、しかも舊い文學を學ぶのである、書く事も語る事も聞く事も殆んどゼロである。アクセントも何も御構ひなしである。若しケーとシーとかエルとアールの區別を舌を廻はして發音する者があると、あいつ、いやに氣取つて居やがると冷笑する國柄である。

今度の華盛頓會議ではスリー・ビッグ・パワー

てお仕舞ひであつた。今日は少し進んで中學校の歴史讀本にも世界大戦争まで記されて居る、併し僕の言ふのは世界大戦争迄では未だ意味を成さない。さらに進んで華盛頓會議、ゼノア會議まで知らしめねばならぬ。華盛頓に於て感じたのは小學校でも中學校でも女學校でも時事問題を閑却しない。社會教育として新聞を例にとれば、排日のハースト系の新聞である紐育アメリカンの如き、懸賞論文を募集し小學校、中學校の生徒を目標として、一等當選の賞として千弗二千弗を與へる。其問題は何故に日本は最近五十年間に膨脹したか其の歴史を述べよとか、何故に日本は東洋の獨逸と云ふかとか、日本の人口問題の將來を如何すべきかとか、或は山東問題、加州問題などの問題を出してある。さらに痛切に感ずるのは其の當選した生徒の學級を受持つて居る先生に、最近歐羅巴の風物を見る爲と稱して二千弗三千弗の旅費を贈る事である。そこで米國の讀者は喜んで其の新聞を見る、先生も受持の生徒から當選者が出ると、生徒は懸賞金を貰ふし自分は歐羅巴見

の一と迄云はれて居る日本としては、將來に於ても年中各種の國際會議に重要な地位を占めてゆかねばならぬ、日本は二流國三流國を代表し、特に有色人種を代表し東洋民族に代はりて平和人道福祉の爲め重大な責任を負うて居る。又彼の英佛間の意見の合致を得ざりしシレジャ問題の如き歐洲内の紛更も、我國はじめ第三國の参加によりて解決を告げたのである。今日の日本の外國に於ける地位は日本といふ事を離れても、世界列國間に伍して重要な役割を持つて居る。しかし日本では内争に忙しく、海外の事がらには風馬牛の有様である。日本は外に對し口が達者で頭も良い、さうして腹の据つた人が二打も三打も必要である。日本は今日不幸にして此の種の人に甚だ乏しい、言葉が自由に出來、頭腦明晰にして腹の据つた人を世界の爲めに又我民族の爲めに痛切に必要とする。

日本歴史の教程も僕等の時は、平安朝時代から徳川時代の初期でとまつた。支那は春秋戰國から唐宋あたりまで、西洋歴史は希臘、羅馬から佛蘭西革命前後に

物が出來るのである。さういふ風に實際的であるから生徒も労働者も婦人も時事問題に了解を持つて居る。故國でも常識教育、社會教育、殊に現時の學校の教程、教員の頭、生徒の頭に改造を要すべきもの多々ありである。現代離れの教育、結晶せる智育にのみ偏れる教育には、全く飽き／＼せざるを得ない。

片、志、磅

(大正十年冬、イギリスにて)

ストランドからフリート・ストリートへ出かけてもホルボーンを通つても、到る處見る處、黒く燻つた倫敦の都は、保守といふ空氣で浸み込んで居る。

殊にアメリカから來た眼には、米國の新しくセツカチな氣分と、英國の古くドツシリした氣分とのコントラストがくつきりと見える。

保守的な英國々民は未だに片、志、磅制を固守して居る。モウこれ丈けは此時局中に思ひ切つて廢止した

かと思ふたが、まだその儘である。

片、志、磅の外に二志のフローリンとか、二志半のクラウンとか、二十一志のギニーとか云ふ連中が交つてゐる。どうしたら混雑に、小面倒に、間違を多くし、事務を滞滞せしめ得るかといふ點に努力してゐる事は、日本も三舍を避けたい位である。

百貨店にて少し品物を澤山買ふと、賣子がその計算に苦勞して額を打ちくゞ苦吟する様は氣の毒千萬である。何も英國人だからとて、暗算の名人ばかりではないのである。英國でも千九百〇二年から、之れが整理統一を計る爲め全國委員會を設けてある相であるが、彼の大戦局に際會して、猶之れが改善を斷行し能はぬとは、保守を通り越して頑冥と云はれても仕方が無い。

尤も議會もメートル制に對し下院は之が改正案を通過したが、上院にてわづかの票數にて遂に成立を見なかつたといふが、そこに英國國民の長所乃ち短所がまさしくと現され、同時に普佛戰爭に佛國を負かしたドイツが敵國であり敗國である佛蘭西のメトリック制を採

用したのは、さすがに生氣ある新興國の面目躍如たるものがある。

イートンの庭 (大正十年冬、イギリスにて)

イートンの名は、古くより英國の名士を輩出した由緒ある學校として喧傳されて居る、古いくゞ然かも昔の儘を誇りとする學校である。たしかまだ電燈も無く蠟燭立も其儘残つて居る。生徒を責める道具には、竹箒もある臺もある。

柱は、インヴィンシブル・アルマダの時の西班牙軍艦の艦材で造られたまゝである。

卒業生の名前は、講堂の戸板に幾千となく、それぞれ手づから刻まれてある。ピットもある、グラッドストーンもある。ローズベリー、シェリー、フォックス、近くはカーゾンもある。バルフォアもある、大英國を築き上げた偉人の多くの名が、幼い手でそれくゞ刻

まれてある。

今回の大戦に黙々としておのが名を著し義勇軍に馳せ参じた者六千人を超えて居る。戦場の露と消えた千人近い人々の名はイートンの誇りとして又新に校庭の壁に刻まれてある。

外交、國防、曰く何、曰く何、凡て國民全體の外交でなければならぬ、國民あげての國防でなければならぬ。

千人の健兒身をすてゝ新しき

誇りをぞ得たるイートンの庭は

あらゝぎをそこにかしこに二つ三つ

残して暮れぬイートンの町は

聖ポールの除夜 (大正十年冬、イギリスにて)

除夜の鐘の音を聞くべく、何萬人とも知れぬ群衆が聖ポールの寺院の廣場にぎつしりとつまつて來た。

十二月三十一日の午後十一時を過ぎて、一刻くゞと一千九百二十一年は正につきんとする。

一千九百二十一年の最後の鐘は鳴りはじめた。一ツ二ツ三ツ……群衆は只黙々として、眞黒な塊をつつたまゝである。全く黙々としてゐる、何千か萬をすぐるか、この大衆が月無き夜の中に全く黙々としてゐる。

十、十一、十二……最後の鐘に二十一年は終りを告げ、こゝに二十二年の新年を迎へた。

何か喊聲でも起るであらう、新年お目出度うとか新年萬歳とか何とか、或表現があるであらうと期待して居つたが何もない。數知れぬ群衆、數萬の肉團は、徐々に四方に散つてゆく。全く黙々としてゐる。

聖ポールのあらゝぎは、薄暗き空に眞黒に靜かに聳えて居る、それは恰かも大英國の國民性を代表するが如くに。

除夜の鐘セントポールのあらゝぎに

靜に鳴りて年こゝに逝く

二五〇

銅像と共同便所 (大正十一年春、フランスにて)

日本の銅像は顔ばかりで外の事は考へぬ。

遺族なり有志家は、兎角顔計り氣にする、又出来る文け顔を大きくしようとする、顔が大きくなればズウ體も大きくなる、基礎工事に至りてはさらにうんと大きくならざるを得ぬ、然しそんな事には著はない。いやそうした基礎工事の豫算は立てないのだ、銅像の方にばらり氣を取られすぎるのだ。

銅像は基礎工事と相またねばならぬ。此釣合がとれぬ結果、博多箱崎の松林の中で、日蓮上人は梅ヶ谷が一人乗の人力車へ乗つた様な、小供が親爺をおんぶした様な格好で立つて御座る、上野の公園へゆくと西郷南洲翁は犬を連れて、江川の輕業といふ格で、小つぼ

けな臺の上へ危なつかしそりに立つて居る。

基礎工事すら閑却する日本では、其銅像の大きさと建設さるゝ場處の廣さ又は背景などを眼中に置かう道理が無い。

芝の公園には増上寺に向つて東の角に、後藤象二郎伯の銅像がある。右と後が杉林で、左と前とはアツカラカンにあいて居る。時計で云ふと片蓋とか片硝子といふ仕懸けである。一層のことに角から正面にシムメトリカルにやれば聊か調子がとれるが、あの様子では見たところどうも不恰好に見えて仕方がない。こうした不恰好式は東京で流行すると見え、上野の東照宮の入口東側の角にもある、同じ流儀が水交社の前にもある。

須田町の廣瀬中佐の銅像は少し場處が狭い、又スケールも釣合がとれぬと思ふ。九段の大村兵部大輔の銅像は、出来は別として場處はよい、同時に此九段の坂を登りて左側に、川上大將と品川子爵の銅像が行儀よく並んで居るが、第一に場處がよくない、第二に對でも

なんでもない人を並べてある、第三に其スケールが全く違ふ。川上將軍の方が馬鹿に小さく見えて氣の毒千萬である、第四に共同便所と並んで居る、三スキミの體になつて居る。

日本では銅像を建てると、之れに對して一種の焼餅があるかと怪しまれる程、建設場處に酔のこんにやくのと苦情が出るらしい。銅像は矢張り大事な藝術の表徴の一つである、其製作其建設の場處此等は又風教の上から意義を持つ、都市の美觀となり藝術の奨励となり表彰となる。

僕の父自知房次郎の銅像も、郷里和歌山市といふ話もあつたが、公園内ではむづかしい立消えとなつて生前因縁深かりし浦鹽航路の起點たる、敦賀の公會堂前に建てられた。

我郷黨の師表と仰がれた、故濱口梧陵翁の銅像も伏虎城を中心にした大公園の、壕一つ越えて道競の狭い片角に窮屈に建設せられてゐる、日本では公園の使用につき何かむづかしい規則でもあると見える。

どうか諸君は歐米の地をひと走り見て來てほしい。

伯林のライヒスタツハ前のビスマルク公の巨像や、羅馬の丘上のガリバルディー將軍の像でもひと目見るがよい。日本では他に格好な場處が澤山あるのに、背景もない狭い道競に、スケールの違ふ銅像を共同便所と並ばしてゐる。大本教の言ひ草では無いが、こればかりは御建て直しが願ひ度い。

下水と奈破崙 (大正十一年春、フランスにて)

セイヌの河岸に降れば隧道がある。中には電燈が點ぜられて、小さい軌道は奥深くまで通じてある。其傍には上水道、下水道、電信線、電話線など、數多くの地下線條のチューブ、又はケーブルの類が横はつて居る。つまり巴里では地下にも市街が出來て居るのである。

我日本帝國に於ける村落の大集團たる首都東京には

未だ地上にも地下にも高速度の交通機關すら無い。況んや地下埋設物の整理に於てをやである。日本の都市では先物勝ちで、不規則に不秩序に各種のケーブル類チューブ類が埋没せられてある。道路は必要の都度掘り返すに便なる爲め、極めて軟弱に出来上つてゐると解してもよければ、折角立派な外國式の道路を造つては、時々發掘するに不便である、又時々掘返しをせねば、道路を軟弱にすることが出来ぬとも解釋せられる。勿論日本の下水は所謂下水で、人間の排泄物はそれ／＼家屋の一部に保存せられる。貯蓄といふ觀念に縁遠い日本人は、せめてもの埋合せに、色が黄金であるだけに排泄物だけは貯藏し、排泄の都度居ながらに見おろせば、高覽に供し得る様な仕掛にし、傍ら銀蠅の繁殖に従事して居る。勿論近頃は大分西洋式の家屋も出来、排泄物は附近の河や濠へ吐き出すと云ふ無責任な趣向になつて来た。そこで東京でも土橋から鍛冶橋邊へかけての濠の水？は三伏の候眞黒に泡を立て、よどんでゐる。水は年を経る毎に益々其惡臭を發揮し、

帝國ホテルの觀光外人に今更ながら其ブンとする異臭にあつと云はせ、日本人は天然の美と人工の臭とを、如何に巧妙に帝都の中央に織り交ぜ彩どつて居るかといふ、苦心の點を三嘆せしめつゝある。

僕が十八年前の曾遊の思ひ出、しかも歐洲觀光の同胞が、百も承知二百も合點の、巴里地下見物の一競を茲に重新らしく紹介するは、奈翁を紹介し度いからであつた、何んと云ふても奈翁は僕の好きな偉人であるからである、巴里の紀行には奈翁はオミット出来ぬからである。

將軍としての奈翁も、政治家としての奈翁も、學究としての奈翁も、誰も知らぬ人は無い。兵馬にあわたいしい奈翁は女土アンツヴェルヌの築港も企てた、奈翁大法典も編纂した、巴里の下水も亦奈翁によりて其競を發して居る、奈翁はコンナ事を云うて居る。

「チェイリーの公園の擴張、下水の修繕などには、人民の福祉の爲め我全身の精力を傾け、一日に七通以上十通の手紙を書き、頭は熱し腹は立ち、其上二

千萬の金を下水の爲めに投じた、然かし誰からも感謝されるでもない」

僕はふと又村落の大集合東京市と、市長として横死した故星亨氏を連想した、強き大なる巨人星亨によりて東京の電車が出来た、此人に猶貸すに十年の歳月を以てせば、今頃は高速度の交通機關なり東京灣の築港なりが、多少共眼鼻が付いて居たとおもふ。今日の東京市は市長として和製ルーズヴェルトと綽名され蠻爵と號せらるゝ後藤新平君を得た、東京市はまとまつた何ものかを得るであらう、東京市はまとまつた何ものかを得ねばならぬ。

一東京にして猶然かり、日本全體の爲めとなれば、一層幾多の故障をブチ破りて彼岸に向ひ、飽く迄遂行する偉大なる力を要求する、今のまゝでは地方々々の利害色彩が濃厚になつてゐるばかりである。全體民族全體の爲め、少しく遠大の長計を樹立するとなると、茲に非常なる障害がある、困難がある、今日の貴族院令あり、今日の衆議院議員選舉法あり、小選舉區制の

下に戸別訪問を必要とする時代に於て、殊に／＼然りである。

セイヌの河畔に立てば、うすら寒き冬の日は、今奈翁が長へに眠れる、アンウアリードの高塔を萌黄に染めて漂うて居る。

伯林のストライキ前五日

(大正十一年春、
ドイツにて)

二月一日午後伯林に入る。關口泰、中平亮、森戸辰男、山内顯、大塚金之助の諸兄と、僕も明日はチェツクへ出發といふので名残の集ひをする。卓上の夕刊を見ると今夜十二時から鐵道ストライキは決行するとの事である。維也納では本多熊太郎公使とも會合の日取も打合せて居る、石井光次郎君もバルカンに行くべく待ち合せて居る。ストライキといふ經驗を嘗めるのも面白いが、先を急ぐ旅程を思ふと、心二つに身は一つである。

三日、關口山内諸氏と、Admirals Palast に漫畫祭のバル Ball der Karikaturisten 見物にゆく。獨逸全國鐵道のストライキといふに、さりとては此舞踏會の賑はしき。まことや不夜城の感じがする、幾百千と數知らぬ假裝の男女は音樂につれて舞うてゐる。

此一夜漫畫祭りのバルの海の

人波の中になれもたゞよふ

踊り場をいづればさむし橋馬の

鈴が音遠く月傾きて

あくる日から電燈も、電車も、電話も、瓦斯も、水道も、相次いでストライキとなつた。

湯タンポの赤錆のぬるま水で顔を洗うたといふ友が来た。

マーク暴落のおかげで泊り込んでるホテル・カイザーホッフには、自家用電力の設備はあれど、石炭節約

で電球は一室一つとなる。リフトは無論とまつて仕舞ふ。階段も十階を越えたと上り下りもらくでない。

劇場や、舞踏場は無論の事、料理店も次第に休業する。學校も、交通關係で止むなく休校の處もあるといふ。殊に醫院の患者の慘狀につきては新聞でも盛んに書き立てる。

病院に火なし氷なしやまうどの

すくはるべきもすくひ得ずとふ

水をなみ凍つきとけぬ窓際の

雪さへいとも尊しと見ぬ

一階をまた一階とのほりゆけば

かそけくほそし蠟燭の灯の

零度以下十度の雪の伯林、ストライキの伯林市中を獨逸人なればこそ、老いたるも幼きも、男も女も、靴

伯林の都飢ゑよとや生肉は

只に三日をあますのみとふ

伯林の都凍れとや石炭は

只に二日をあますのみとふ

伯林のストライキ後五日

(大正十一年春、
ドイツにて)

五日は丁度日曜日にあたる。さすがに市中は靜かである。處々に氷迂り場の樂の音がかすかに聞える。市中へかり出された橋馬の鈴の音が耳につく。

たま／＼に櫓の鈴が音かるくひゞき

都大路の眞晝靜けし

もう生肉はあと三日だとか、石炭もあと二日だとかいふ。暮の維也納の様に、今に伯林にも暴動が起る、ホテルには湯水の如く金を使ふ外人連が居るから、第一に掠奪を免れまいといふ噂も立つ。

市役所では、市民奮つて伯林市の爲め戦へ、苟くも技能あるものは來りて急を救へといふ赤き貼紙が處々に貼りつけられてゐる。

市役所が技ある人をつのる紙の

赤きか見ゆも吹雪の中に

街の爲めはた汝が爲めにふるひ立て

技ある人は來て救へ急を

夕方の街の光景も面白い。荷馬車や貨物自動車無蓋車の上に、背中合せに石炭の空箱を代用せる腰掛を

並べた臨時の乗合車が辻々に列をつくつて居る。

吹雪の中で明箱の上に腰をかけて、満員を待つてゐるお客の格好も一寸面白い。

辻に立ちて蠟燭を賣るをみなあり

夕刊ひさぐ男の子に並び

各工場會社私人の自動車は、それ／＼微發に應じて活動する。水道も瓦斯も電燈も、義勇兵の援助により少しづつ恢復する。

實物教育から縁の遠い不具者のやうに育てられる、我故國を偲ばすには居られない。

ストライキを爲す者も、ストライキをうける者も、そこに訓練がある、修養がある、理智の閃きがある、秩序維持の冷靜なる氣分がある。

胴體ばかりの國

(大正十一年春、オースタリーにて)

新しき歐洲に入りて色々と變つたものを見物した。獨逸より東してソコにどこが頭か尻尾か分らぬような感じのする國を見た。それは波蘭であつた。

獨逸より南して、今や畸形兒の鈴成りが眼の前に展開せられて居る。其中でも一際不思議に感じられて、香具師の手にでも渡つたら、屹度呼物になり大人りを占めようと思はれる。代物が差當り二つあつた。

一つは手足を切り離された胴體で、一つは胴體を挽ぎ取られた頭である。ソシテ此の胴體も頭も生存して居るから不思議である。これが狂人の仕業とか怪我の拍子とかで出來たのなれば、我邦にも嘗て大阪で妻吉事件といふ先例もあつたが、ヴェルサイユ宮殿の只中で、天下の智慧者が集つて熟議の結果、悠々とメスを執つた結果と聞いては、今更に驚かされざるを得ぬ。

胴體ばかりの國とは新奧太利である。四方八方から手は挽ぎ割かれ、二十六萬方里の土地と五千萬の人口を抱擁した舊奧國は、面積は只の三萬方里に切り縮められ、其中へ六百萬人の人口、然かも其三分の一は維

也納に集中せられた、畸形の胴となつて取り残こされた、然かも、新領土の大半はアルプスの山嶽地帯である。三分の二の人口は食料を他國に仰がねばならぬ、これは正しく匈牙利獨立の結果である。新奧國の石炭は舊帝國の有せし約百分の一しか無いといふ、之れは正しくチェソク國獨立の結果である。

殊に滑稽にして悲惨なるは、舊奧國の官吏の大部は獨逸人であつた。此等の官吏は擧げて小さな新奧國へ追ひ立てられた。假令其俸給は薄しとも、人口六百餘萬の維也納には、今二十六萬の官吏が居るといふ、維也納では出生兒は戦前の四萬に對して、戦後は二萬そこ／＼に激減した、少年學生の半以上は榮養不良、三分の一強は成育不良で、今に全市人口中三萬人以上の不具者を見るであらうと云はれてる。

殊にヴェルサイユ條約締結に際し大手ぬかりは、車輛船舶等の處分方を忘却した事であつた。假令ば舊奧國の國有鐵道は舊政府の財産であつたが、小國分立の結果、其停車場なり軌道なりは屬地主義で分割したと

して、汽罐車客車貨車に就ては何等分配の規定が無かつた。此が爲生じた大混亂は想像に難くない、各國互に一度他國に入りし車輛は戻らないといふ懸念から、國境を超えての輸送は杜絶した。長い間の調査で船舶の方は分配し切れたが、鐵道の方は全く決了せぬ。處によりては國境で荷物の積み替へをする。之れを思ふと獨逸と波蘭の國境で、一々切符の買替をした事などは未だ不便がましくいふて居られぬ。有難いと心得て然るべきであらう。

それなれば此胴體はどう始末するか、奧國はもともと獨逸聯邦の一つである。人種も言語風俗習慣も純然たる獨逸民族である。一九一八年十一月休戦勿々奧國大會議は、獨逸及獨系奧地利の永久的協同生活を希望する旨を決議した。翌年の元旦には列國へ其主張の覺書を送り、議會はもとより國民大會議委員も滿場一致で奧國は任意に又人民大多數の希望により獨逸に合併を可決支持する旨を議決した。然かしドコ迄も切り締め度い獨逸を、反對に膨らます事は列國に執りては

一大脅威である。佛も伊も殊にチェックなどは、三方獨逸と境する事となる。所謂民族自決といふ事も原因ではあるが、適川の範圍は獨逸其他の敗者に限られて然かも其結果が弱められる時と條件が付て居る。従つて戰勝國に對しては、自然適用は除外される勘定となる。之れも國家を主體となる戰爭といふ眼から見れば避けがたき運命であらう。然かしそれが果して國家本位より見ても、結局有利となるや否やは疑問である。

普墺戰爭に Sadowa の戰で、致命的の勝利を博した普軍は、勢に乗じ一舉維也納を屠らんとせし時、比斯麥公は極力之を阻止した、維也納を攻め落して、城下の誓も面白からう。しかし普墺の民族地勢と、普對佛の將來を達觀した處に、比公の明があつた。今踏んだり蹴つたりされた維也納の民新墺國の民は所在人民投票により、殆んど擧げて獨逸合併を希望せるに拘らず一九一六年のサンゼルマン條約及び一九一九年のヴェルサイユ條約は、主義理想も持樂としては、用ふるに自ら時と所とありと計りで、堅く其希望の途を絶つて

居る。

泣く子に地頭で、苦し紛れに墺のショーバー首相は遂にチェックのベニス首相とも、昨年末所謂ラナ約定を結び二千萬圓の借款を重ねる條件として、チェックと政治的協約を結ぶ中となつた。英國も二千五百萬圓を貸す事となる。佛國も義理にも見て居れぬ一千萬圓伊國も若干と助け舟を出すが如くなつた。一寸此處墺國も小康を得たる感なしとせぬ。然かし一體燒石に水といふ譬へもある。なるほどカンフル注射も一回一回は効果もあらう、然かし之れが根が胴體計りである。流れに逆うて小細工をしてそれが何時まで續くと思ふのか。

「追記」佛伊の援助も空聲計りである。ショーバー首相はゼノア會議で墺國救済を訴へたが、會議そのものが知らるゝ通り失敗に終つた。今ショーバー一内閣倒れてセイベル内閣となつて居る。如何に駒を置き換へて見ても、源泉が大濁りである。百年河清どころか暴動が繰り返へされねばミツケものであ

る。

「寄合世帯」バルカン一體の新國は、決して民族の自決ではない、十重八重に人種がそれぞれ入り亂れてある。中にもそのなるものは、ユゴ・スラビヤである。四百五十萬人の舊塞耳納は、約三割の犠牲者を出して、新に一千二百萬人の民衆を抱擁することゝなつた。其代りにユゴ・スラビヤといふ新世帯は、

セルビヤ人	六〇〇萬
クロアト人	二五〇萬
スローベン人	一〇〇萬
回教セルビヤ人	六二萬
マセドニア人	五五萬
マジヤール人	四五萬
獨逸人	四五萬
アルバニア人	二五萬
ルーマニア人	一五萬
其他	一七萬

といふ持寄身上である。少々之れもイカモノ喰ひ消化不良で食傷の氣味がある。

レゼンダ・ド・ビエーブ

(大正十一年春、イタリーにて)

伊太利は乞食と泥棒と立小便の名物に、ボムベイの遺趾に於ける風俗壞亂の繪畫や彫刻を以て評判となつてゐる。しかしさかのぼれば伊太利は羅馬帝國を築き上げた民族である。

伊太利の聲樂家、否世界の驚異として欽仰せられたるカルツォーは天國に上つたが、今ナボリの一角に愛國詩人パロン・マリオがある、伊太利は歐洲俗語の本場で、ナボリは又伊太俗語の中心となり、マリオは實に其代表者となれる者である。

身を郵便局の一集配人より起し、作歌と作曲に於ける天才は、伊國對墺の戰局と共に其熾烈なる愛國心に煽られ、民謡レゼンダ・ド・ビエーブとなつて現はれ

た。伊太利を擧げて戦線に立つ者も、線後に在る者も此民謡によりて如何に愛國心を鼓舞された事か、如何に此民謡が熱狂的歓迎を受けて國民に持て囃された事か。

戦治まりて無名の戦士を葬むるの日、伊太利政府は凡ての音楽を停止した。只例外として許されたるものは、實に伊太利國歌とレゼンダ・ド・ビエーアの二つであつた。

昨年暮マリオは皇帝の前に此光榮ある歌を自ら奏した。彼れは藝術家として又愛國者として一代男爵に叙せられた。其マリオは今ナポリの市井の中、二間開口の店舗を開いて自己の作曲譜を販賣して居る。足をナポリの街に入る者はボムベイもベスピアスも見物するがよい、しかし同時にマリオ氏を訪ふも一興であらう。

然かし僕が茲に此一篇を書き入れたは、別に大なる主旨がある。

日本には國歌として「君ケ代」がある。

然かし君ケ代の外に吾々は我光輝ある帝國を謳ふと同時に、我日本を謳ひ、東洋をうたひ、又我日本民族を謳ひ度い。そうして其曲譜は歐米諸國のそれの如く行進曲となる壯烈な熱あり強味あるものがあり度。い誰か「マルセイユ」の曲が奏せられて血湧き肉動かさる者があらうか。

我光輝ある日本を表徴する高く遠く強く、大にして熱のある國民歌があらねばならぬ。

忘れられたる富の分配

學校の講義で聞いた以外に、富の分配、甚だ意義ある富の分配のあることは、歐米に旅行して親しく眼に映る事であらう。

法は富の分配に強制と任意の別を認める。任意な自由な富の分配は、凡て利己といふ氣分によつて支配される。しかし社會は利己計りで成り立たぬ。經濟學も

只利己計りを中心にして取扱はれてはならぬ。

人間あつての學問である。人間は私人にして同時に公人である。茲に高い廣い人生觀が無くてはならぬ。然らば如何なる富の分配があるか、曰くそれは寄附行爲である。そこには相続税とか配當税とか、そうした税制によりても影響するところがあるが、とにもかくにも寄附行爲である。

カーネギーやロックフェラーは、明治の或る年度の日本政府の豫算總額以上のものを、公共の爲に寄附してゐる。そうした富豪でなくとも、家屋にも器具にも機械にも、繪畫其他の美術品にも、あらゆるものにあらゆる階級の人々の寄附行爲がある。一のミューゼーに入る。其或る部屋の名は寄贈者の名を冠して居る、一つの部屋を専らにするまでもなき品も、それ／＼皆寄贈者の名稱を付して陳列されてある。

徒らに何代目かの子孫の手によりて賣立てられ、竟に散佚して仕舞ふよりは、公への寄附、何といふ意義ある事であらう。第一外國では人口二三萬の小都市で

も、皆其市の歴史を語るべく、ミューゼーの無き處はない。博物館どころか、公園といふ觀念よりも、各自大なり小なり、箱庭を自宅の一部に築き上げる日本とは、大分國民性に廣狹の別がある、大小の差がある、公私の別がある。

カーネギー翁一人で、生前九億弗の寄附をしたといふ、其北米合衆國では公共事業に寄附する金額は、一ケ年平均四十億弗と號して居る。然かも其寄附の金額の大なるは、それだけ日本に比して輪に輪をかけた大金持だからでは無い。富豪の多くは其収入の大分を醸出するのである。其寄附金の大きなりと云ふ事よりも、其寄附者の自ら奉ずること甚だ薄いと云ふ事である。合衆國の富豪は其愛兒をして自主自立獨り歩行の出来るよう、新聞賣りもやらす、靴磨きもやらす、皿洗ひもやらす。自分の子に残した財産の金庫番をさすよりも、自分の子に自分以上に築き上げる自主自立の力を要求する。東洋にも獅々の子落しとか、可愛い子には旅をさせとか、諺丈けは残つてゐるが、トント之れが實

行が伴はぬようである。

僕は篤志の調査機關によりて、各國の富の分配の上に、寄附行爲が如何に重きを成して居るか、數字によりて明確に調べ上げて貰ひたい。如何に社會の現象に寄與する處大なるか分ると思ふ。同時に日本では如何に其比率が低いかと又明かになると思ふ。

追加三篇小引

此春送りすみの原稿がデラ刷りになり、千島旅行不在中、留守の者が校正を了したが、あとで印刷處の方から、約三分の一の不足をつけるといふしらせがあつた。もと／＼五十有餘の著作の中から選み出すのだから三分の一も不足ならあれまで苦心せずすむのであつたが今になつてはせんすべもない。

追加の方針は在來の如く概論や長文ものをさけ、時局にふさはしく、事實に即した軽いものと思へども、書齋から離れて身は帝大醫院の病室にあり、上記の分は既に紙型にとられてゐるといふから今さら各篇

へそれ／＼にふさはしい分をつぎ足してゆくといふ事は出来ない。

結局新刊「來るべき日本」から抜きとるのが尤も簡易であり時局向きであるが、それではあまりに重複しすぎたものを同時に公けにする事となる。それで此前の歐洲大戰直後の旅行記「歐米より故國を」百六十三節中から更に二十六篇をぬきいで「續歐米篇」と題して第一篇とし、次に、最近「改造」の十月號にのせてある「千島遊記」と「文藝春秋」十一月號にのせらるべき「生死百首」の一部をあはせて「樺太病床篇」と題し、第二篇とした。いづれも樺太の惠須取にて狭心症にかゝり病床中口傳にしたものであるが、いさゝか時局觀、生觀にふれてゐる。

最後に世界地理全集中に筆にしたる「東亞及び世界における日本の地位」の一篇を添へる事とした。本年初夏に公けにされたもので、「來るべき日本」を筆にせる折と時を同じくしてゐる。全集第一卷「日本」の最初にのせられた一篇であつて、日本の過去現在を語り將來につき感懷を述べたものである。

(昭和十六年九月帝大醫院坂口内科病室にて)

續 歐 米 篇

大正十年第一次歐洲大戰直後の歐米漫遊記「歐米より故國を」中よりの抄録である。今次の大戰の過去現在より將來につき、いろ／＼と示唆するところが多しといふ事を今更に痛感するのみならず、理屈をさげ事實をならべた軽い紀行文であるから、こゝに第二次の抄録を試みた次第である。

一、布哇、モロカイ島とダミエン師

ホノルルをあとにして、船は右舷にモロカイ島を望む。モロカイ島は癩病の隔離所として古くより知られて居る。

癩病は土語には、マイハケ——支那人病——と言つて居る。千八百四十五年頃、初めて布哇に輸入せられ、爾來猛烈な勢で傳播するので、千八百六十六年、モロカイ島に隔離所が設けられた。患者数は死亡と新入と差引いて近來猶常に千人を越えて居る。人口二十五萬人の布哇としてはいかに多い。

このモロカイ島の名は、古い癩病の隔離所といふよりも、天刑病者の父となり母となり友となり、終に自ら其悪疾に斃れた教父ダミエン師によりその名が高くなつて居る。

ダミエン師は白耳義ルーバン市の人で、千八百六十四年布哇に渡來した。千八百七十三年モロカイ島の向

ひのマウイ島で舊教の僧侶たちが會合した時、或る僧正が「我はモロカイ島の憐れな患者が、牧者なき羊の如きを思うて深く痛む」と云ふた時に、彼は「主よ、

我は僧服を被せられた利那、殉教は新生命の初めなりと考へたが、今モロカイの癩病人の間に入り、生きながら葬られるべく覺悟をした」と答へ、彼はモロカイ島に渡り、生きながら父子夫婦の間から挽ぎ離され再び歸り能はぬ患者の群の中に其身を投じたのである。

モロカイ隔離所は、今日こそ、あらゆる設備が整うて居るが、當時のダミエン師は、ラハラ樹の下に露宿し、晝はお説教をする、大工左官の仕事を教へる、只の一人の醫師として、患者の傷口を洗ふ、繃帯をする臨終の床に儀式を行ふ。自ら死者の爲めに造りし棺の數は實に千五百を越ゆるに至つたといふ。

此牧師であり説教者であり醫師であり葬具師兼建築家であつたダミエン師は、十有六年間の犠牲的奮闘の

師の深敬病院を見るのみである。大東亞共榮圈内何地へ行つても救癩事業は主としてカトリック教徒の力を待つてゐる。

二、桑港、ポスト街の縣人會

十月七日朝金門灣に入る。

桑港の中央、ポスト街附近は日本人街である。家屋は日本から見れば上等の部であるが、生憎桑港大地震の際における大火災を免れた丈に、今日では際立つて實に貧弱である。其貧弱なる家の軒並に、何か縣人會事務所といふ看板の見えるのが、いやに目立つ。多くもない日本人は太平洋の東岸でも盛に地方的差別的色彩を發揮し、相對峙しつゝあるが如くにも見える。

加州は合衆國を組成せる四十八州の一で、云はゞ日本の府縣に相當するが、其面積は日本内地から四國を

後遂に悪疾に感染して、千八百八十九年四月十五日天國に上つて仕舞うた。爾來殉教者はダミエン師のあとを次ぎ、現にブラザー・ダットン師の如きは、モロカイ島に入りて既に又三十年の長きに、足未だ一步も隔離所の外に出でぬとの事である。

尊い事である、有難い事である。かうした殉教者に對しては何人も敬虔の念を禁ずる事は出來ない。筆者は熊本のリデル嬢の天刑病者に對する犠牲的行動に對しては常に衷心より感激して居る者である。宗教の下には國境は無い。神の下には人種の別も無い。日本からも多數の牧師諸君僧侶諸君は、萬里異郷の地に奮闘して居る。固より布哇在住十餘萬の日本人の教化丈けでも、中々の仕事ではあらう。しかし尙進んで他の民族に至る迄、佛の慈悲、基督の愛を以て教化し、猶ダミエン師の如きは美しい尊い犠牲的精神の發露を見るを得たならば、それは一日本の誇には止らぬであらう。

(日本における救癩事業は熊本に草津に御殿場に皆外人の手によつて營まれ、佛教徒では網脇龍妙

引き去つた位の廣さである。其州内のカウンチーは郡に當るが、その面積は又我府縣に相匹敵する。然かも米國人は合衆國民とは云ふが、日本の様にヤレ加州だヤレ何々カウンチーだと、やかましく餅に搗かねば口にもせぬ。反對に長く鎖國の下に閉塞して居つた日本人は、蚤の糞丸の様な上で、三百諸侯相對峙し相牽制し士農工商の階級で、縦横十文字に差別し釘付にした封建政治の餘波を受けて、曰く何々縣人もまだよいが今度は之れでも物足りなくて、ヤレ何々藩、ヤレ何々郷友會などと小つぼけな縣を又四ツ裂五ツ裂にし、之れをアメリカ三界にまで延長して喜んで居る。

いづこを故郷といふのか？ 藩といつても徳川以來の話である。その藩も明治維新までには幾度か國替えになつた例が少くない、今日は大東亞の指導者とまで躍進して來た、眼を大陸に注ぐべし大東亞に放つべし一萬石二萬石の藩の中で世襲で傳られてゐた時代とはもう遠くかけはなれてゐる。

その日本は巴里會議に、人種の無差別撤廢まで提唱したのも事實であるが、國民擧げて同種の支那留學生に對し、無差別的温情主義どころか、二度目にはチャンコロがチャンコロがと下宿屋のおかみさんや女中をはじめ市井の徒どころか相當な人々まで、凡てが差別的冷遇主義を遺憾なく發揮した。弱きを助け強きを挫ぐ日本國民の氣質として、さりとは合點が行かなさすぎる。我等かつて數千の支那留學生の講師となりし因縁から、隨分此點については口を酸くして論じたが、残念ながらこの辭は中々なをらない。そうした結果は只在日留學生の漸減であつた。

此際米國はお先へ御免とも何とも言はず、支那政府に團匪事件の賠償金の免除を申出た。同時に北京に清華學堂なるものが出來た。北京に上つた青年は清華學堂の門に入る、さらに外に出づる學生は袖を列ねて米國に渡る、シャートルに着くと特別汽車は一行を迎へて市俄古大學に送るのである。

日本では矢張り同文同種とか日支親善とかいふて居

三、市俄古大學と支那留學生

市俄古はなんだか落ちついて居れなさうな處である。殊に冬の市俄古は寒い、石炭が燻つて黒い霧を垂れてゐる、氣忙しそうな修羅場の感じがする。

それでも藝術に對しては、博物館なり美術館なり、大いに見るべきものがある。殊に市俄古の大學には、ではない大學にも、中華民國の學生は非常に多い。しかも少ない日本の學生より、一般に其質に於て勝れりといふ事である。日本も維新當初と異なり、國內の教育機關も著しく發達をした。在外の留學生の數はうんとへつた、殆んど無くなつた。質も量も多く且つ宜しいはずは無い。日本は支那と距離も近く經費もやすい、同じ漢字を使用し歐米の文化を模倣し攝取し消化しつつ、ある好箇の先進日本國として、年々一萬有餘の支那學生を見た事もあつた。

る、世の中は太平無事である。

四、華府のリンカーン・ミュ

ーゼアム

原敬氏の兇報に愕然として撫然として、華府の日本の同胞は擧げて憂愁に沈んだが、一日／＼と幾分づゝ平靜に立戻つて來た。僕は今日は半日をリンカーン・ミュゼアムに送る事に決めた。

十一月七日の午後ホテルを出た。リンカーン・ミュゼアムは十町目のフォード劇場の眞向に在る。リンカーン大統領終焉の地である。フォード劇場で兇漢ブリスの爲め狙撃を受けた大統領は、直ちに此家に運ばれて絶命されたのである。

今日米國民は右にワシントンをと、左にリンカーンを稱するは、固よりリンカーンが奴隸問題により竟に南北分立となつた時の、其高邁にして卓越せるリ

ンカーンの人格に共鳴せるに外ならぬ。しかも南北戦争の結果はリンカーンにより合衆國は統一を保つた。一層堅實を加ふるに至つた。然もリンカーンの人格殊に其終焉は又層一層に國民の欽仰を集めたのである。此家屋は今政府の手に買上げられ保管せられて居る。さなきだに手狭なる室内には、或る篤志家の六十年間程リンカーンに關係せる材料蒐集に努力せる結果として、あらゆる記念品が處狭きまで配列せられてある。大統領が永眠せる室には、尤も感慨を催さしむるものがある。殊に其當時の新聞紙其他あらゆる記録により如何に米國民を擧げて大統領の死を悲しみ、兇漢に對し憤つたかが想見せられる。

陳列されたる遺物中、特に注意を牽いた左の一文を摘録する。之は千八百六十一年二月二十二日、「インデペンデンス・ホール」に於ける大統領の宣言の一部で、北米合衆國の統一の見地より、奴隸制度の廢止を主張し、此方針主義を曲げんよりは、寧ろ暗殺さるゝも之を辭せずと宣言した際乎たる決意の閃きである。

"But if this country cannot be saved without giving up that principle, I was about to say I would rather be assassinated upon this spot than to surrender it!"

「アツサツシネータード」と云ふ語が原首相の兇變に連想して一種の感慨を催さしめる。

むしろ死をわれに與へよ、國のためなどで思ひの曲げらるべしや

次に千八百六十三年十一月十九日、ゲツチースバーグの戦死者の墓地の竣功式に於けるリンカーン大統領の有名なる演説の一節をも紹介せざるを得ぬ。

It is rather for us to be here dedicated to the great task remaining before us; (中略) that we here highly resolve that these dead shall not have died in vain; that this nation, under God, shall have a new birth of freedom, and that government of the people, by the people, for the people shall not perish from the earth.

立てよ民の國なり民の爲に

民の政なす民ならずや

リンカーン大統領の宣言は今猶生きて居る、永久に生きてゐるであらう。

リンカーン・ミューゼアムを出た、又思ひは原總理の死に馳せた。

東京中央停車場の現場には、少くとも原總理の兇變を記念とする標石の類は建てられねばならぬ。

日本人は其時ばかり逆上してワイ／＼と騒ぐが、あとはけろりと忘却したがる癖がある。何れ今頃は兇變のあつた場處を、ざわ／＼と公衆は右往左往に去來して居る事であらう。

五、華翁の墓マウント・ヴェ

ルノン

アメリカ國民の父と仰がれる華盛頓大統領の墓は、

華盛頓府を去る十六哩、ポトマック灣の下流に沿うたマウント・ヴェルノンの華翁の舊邸内に在る。

マウント・ヴェルノンと云ふても、唯ポトマック灣に沿へる丘陵で、華盛頓家はジョージ華翁の約一世紀前から此處に住居し、華翁は此地より立ちて獨立戦争に参加し、戦終りて此地に還り、又大統領として此地より首都に出で、職を去りて又此地に餘生を送られた由緒深き處である。

華盛頓の住宅華盛頓の墓、茲に事新しく名所案内記を繰返して紹介する迄もない。只老若男女は四時群を成して、マウント・ヴェルノンにアメリカ國民の父たる偉人の跡を絶えずしので居るといへばそれで澤山である。

しかし只ドクトル・アンドリュウ・リード氏の華翁の墓に書かれたる文句文々は、餘り有名で有り觸れてるかも知れぬが、茲に紹介して置きたい。

Washington

The Brave

The Wise

The Good

Washington

Supreme in War, in Council, and in Peace.

Washington

Valent

Discreet

Confident

Without

Without

Without

Ambition

Fear

Presumption

Washington

The Hero, the Patriot, the Christian, in all Himself.

Washington

The Father of Nations, the Friend of Mankind;

Who

Who he had won all, renounced all

and sought

In the Bosom of His Family and of Nature,

Retirement;

And in the Hope of Religion

Immortality.

華府に有名なる華盛頓記念塔を建設するとき、委員は此ヴェルノン山の華翁の墓を、移して貰ひたいと申出たさうである。華翁の未亡人は、自分は常々良人は公の爲めには犠牲になることを甘んじて居つた故に、自分は持去られても異議は云はぬと承諾した。然るに華翁の弟は自分には兄の詞は法律である。兄はヴェルノンに葬れとのことである以上は、何としても此詞は亙古に出来ぬと反対した。この抗議の爲めに記念塔の竣工に大分の行惱みを來したと聞いて居る。

然るに今華翁の遺跡は擧げて、ハウント・ヴェルノン淑女協會の事業として維持されて居る。華翁世を去つて約五十年、ジョン・オウガستن・ワシントン氏に至りて家計豊ならず、此廣大なる家屋及墓地を維持すること甚だ困難となり、竟に合衆國政府に買上を求めしも成立せず、次にヴァーヂニア州政府に求めしもまとまらず、一方には際物師は公衆の娛樂場として巨額の金を提供しよう云ふ。此時南カロリナ州の

・バメラ・カンニグハム嬢は、華翁の家屋及墓地の復舊維持の爲め、"All women, help?"の聲を擧げた處、愛國心の熱烈なる浪は全米合衆國を席捲し、こゝにマウント・ヴェルノン淑女教會の成立を見、華翁の家屋も墓地も久へに維持せらるゝことゝなつたとの事である。

歐洲に於て偉人名士の故跡の保存に、如何に力を盡せるかは縷説を俟たない。我國も近時正岡子規居士の終焉の地は其家屋を買ひ取りて、根岸の里に保存せられて居る。福澤諭吉翁の中津の舊邸も、乃木大將の東京赤坂の住宅も、山口縣長府の舊宅も、大隈侯の佐賀の舊邸も、伊藤公の恩賜館も、何れも保存せられて居る。原敬氏が長い間住み通した芝公園の狭い小さい邸宅も、どうか其儘保存して置きたいと思ふ。

原敬氏の遺言には、自分の郷里父母の下に共に葬られたいと云はれてあるとの事である。しかし原敬氏は少くとも日本の原敬氏である。盛岡の原敬氏といたくなく。御當人はそれで宜しいかも知れぬが御當人の事

計りいふては居れぬ。せめては其遺骨の一部なりとも氏の尤も心血を凝がれたる日本政治の中心東京の中に葬られたい。

今日内地の新聞を見るに、故ラッド博士は其遺骨の一部を遠く思ひ出深き長崎高等商業學校の校庭に埋めて呉れと遺言されたとある。筆者はかつてたま〜郷里福岡で遠逝されたる故明石總督の遺骸を任地臺北三板橋に葬りし思出多き經驗を持つて居る。決して原敬氏一人のみに就て言を重ねる譯ではない。

戈とりて立ちつるところ秋の水長し
眠れるところ

六、華府の一日 Barbecue

バルチモア・サンの主催で、プレスメンの一行百臺近き自動車は、寒風を衝いて朝華府をあとに Folly Quarters の社主 Van Lear Black 氏の別墅に駛走し

た。巡査の一隊はオートバイで前驅し後衛をする。速度は制限外のスピードで、ビュ〜と風を切つてゆく。そこでは Barbecue Ⅱ 牛の丸焼 Ⅱ の催しがある、アメリカ、インディアンの一行が又珍客として招かれて居る。ラフ・ライダーの一组は男女十數人、あらゆる馬術の巧妙なる技を示した。寒い事は寒むかつたが、終日晴天で面白い野外の氣分を味つた。途上に小憩の時僕は巡査に今日の速度は制限の倍にも上つてゐるかと云ふと巡査の曰く、

今日の宴會は一新聞社の主催でも、御客は世界中の新聞記者です。歡待せねばなりません。出揃ひの爲めに、時間が大分延びましたから急いだのです。なあと速度超過でも私共が責任を以て先導をしてゐるのです、いゝぢや無いですか。

七、華府會議と電報料

紐育もブロード・ウエー一帯はイルミネーションで不夜城を造つてゐる。しかし之れと背中合はせてチャイナ・タウン、イタリア・タウンもある。Sightseeing の見物處となつてゐる。殊に Greenwich village. Latin Quarter 又 Bohemian village とその邊は一寸趣きが異つて居る。

ジグフェルド・ルーフといふ一番贅澤な、又一番美人をあつめてある興行場が、ブロード・ウエーの中心に在る。五六人連立ちて見物に出懸けて見た。成程贅澤千萬でよくこれで算盤が持てるなと思つた。

丁度アメリカの新聞は筆をそろへ、日本の全權は、常に電報未著といふ口實を慣用して日本は Bargain して居るとか、delay は日本の傳統的外交手段だとか、書き立てゝゐる時分の事であつた。

ラフ・ライダーの装束をつけた道化の立役者が、例の如くクル〜と繩を上下左右に廻しながら、盛んに joke 輕口を連發する。吾等日本人の顔觸を見て、

「日本政府は今に電信料で破産するだらう」

と云ふ。見物は哄然と笑ひ動揺いて衆目は吾等の一行あつまる。奴さん調子に乗つて矢繼早に、

「日本の全權は朝飯を喰べるにも、電報でメニューを知らして本國の許可を求めて居るらしい」

とほざく。見物は又ドット笑つて吾等の一行をふりむく。さすがに旨い場當りをいふものだろうなづかれたが、いさゝかその座に堪えかねた。

事實海底線は大西洋が十五六本のところへ、太平洋は只の一本である。無線電信は猶の事矢張り比較にならない。先方は打電するすぐ着信する。其又返事も早い當方は第一に打電する前に日本字の原案を作製し、之をローマ字に書きあらためる。海底線にかゝる前に合衆國の陸上線の中繼せねばならぬ。……合同通信や聯合通信などはそれ〜に専用線を持つて居るが、普通線路によるから電送の順が與へると何時間發信が待ちおくれるか分らない……如何にして太平洋の一本の海底線へ、似たり寄つたりの各種の通信が押すな〜と集つてくる。通常電報では中々二日や三日で返事が來

ない。至急報となると、一語七圓なにかしと云ふ高價になる。朝日新聞などは此電報料丈けで一日に千圓を超過する事が稀で無い。法外な高價であるのも馬鹿々々しいが、電報の遅延に伴ふ公私一般の不便不利は想像以上である。

僕はニューヨーク・タイムス紙の希望により、此度の會議は必ず無事終了するであらう、同時に此會議の記念として、

太平洋を経て

合衆國と極東間に

軍縮によつて節約し得たる一部を割き

海底線を増設すべしとの意見を發表した。

軍艦一隻約一億萬圓、丁度約三條の海底線が太平洋に敷設出来る。これが日米の親善、否進んで世界平和の連鎖として、眞に意義ある生きた記念となるのでは無からうか。

八、紐育大學の fame house

ロサンゼルス市で眼に付く銅像は、新聞を手にした呼賣小僧の大發明家エディソン翁のそれである。

アメリカの太平洋沿岸である桑港の金門公園には、文豪シラーの銅像がある。獨逸人である、文豪である。

華府でシヨウラム・ホテルから大使館へ行く道筋にマルチン・ルーテルの銅像がある。獨逸人である、宗教改革家である、場所は米合衆國の首都である。

紐育大學には、Fame House といふ建物がある。北米合衆國民にして偉人として仰ぐべきものを撰んで一堂の下に表彰してゐる。日本で著名の軍人、政治家は固より宗教家、文豪、科學者、藝術家、事業家、其他あらゆる方面の名士を網羅してある、婦人とても無論漏れてはない。

茲に一々名前を擧げて見ようと思つたが、我日本人の記憶に無い人が多いから止める。

現世のあらゆる階級を見よ、少しく遡りて徳川氏時代を見よ。一體如何の人が究極偉人として其名を成し其名が不朽に持續せるか、遠く東西の史乘を達觀せよ、大老や老中も多かつた。その中から、誰の名が残つてゐるのか。

東京の眞ん中に Fame House 又バリのバンテオン、又伯林のチャーガルトンのジューゲスゾイレ、又ロンドンのウエストミンスターアベイ、さうしたものは青年の志氣を激勵するによろしからう。

さてさうした時にどうした顔觸れがえらばれるか、それともその人選がもめぬいてそんな企てはお流れになるといふ事になるか？

つた、見物席などで眼障はりにならなくなつて來た、

コルセットも緩るくなつて來た、スカートは短くなる狭くなる、矢張り戦争の影響であるが、ゾロ／＼と引ずつたり片手で裾を掴み上げて居つた昔を追想すると如何にも時代思潮の反映が見える、短いスカート甚しいのは膝頭も見える計りに引締つた形ちは、早いピッチで歩行する婦人には似付かはしく見える、尤も一ツの國へ行けば二ツ眼が片輪に見えるのだから、時代の流行と云ふもの程不思議でもあり、又不思議でないものは無い。

今日の歐洲は戦後の回復と云ふ事と、社會生活の脅威と云ふ事と、此二つの挟み打ちとなつて居る、簡易と云ふ事が老幼男女の衣食住に凡て現はれて來る、一重生活猶然り、我等祖國の二重生活、さらに朝鮮臺灣人の三重生活にまで想到せば、正に一大猛省を要すべき秋である。

長い經驗から云へば、我等御役人の大禮服も何とか工夫をつけて欲しい、文官のは誠に込み入つた入念な

九、倫敦の一日、フロック。

コート

簡易なる生活、自由平等の觀念、此等は驅つて服裝の上にも現はれて來る。尤も保守的な倫敦の City でも、銀行會社の下級 clerk や messenger の連中が、金釦の服裝でシルクハットを着用してゐるのが僅かに残つて居る丈けである。戦前に比して大變なかはり方である。

尤も實業團の一行も、アメリカでは全然不用、英皇帝謁見の時丈け、フロック・コートを着用に及んだといふ。僕も白國皇帝に謁見の時丈け、フロック・コートを借着した。勿論今でもロンドンで葬式などには、たまにフロック・コートは見られないことは無い。

婦人の頭も髪も簡單になる、甚しいのは梳かづきの様にザンバラ髪になつて居る、婦人の帽子も小さくな

ものである。誰かと勳章が一杯飾つてあつたのを服地の模様と間違つたのだといふ。今日では只重いギゴチないといふだけである、金はうんとかゝる荷物として嵩張る事此上なし、夏は能く暖まるが其癖冬は中々寒い。

XXに至つては種類も多い、殊に地位の昇進に伴ひ其都度に變つてゆく。

太平の御代櫻かざして

暮す頃には、暇にあかし事や細かに分けへだてしてあるのも宜い思ひ付であるかも知れぬが……

十、倫敦の一日、乗り物

倫敦の眞冬に、市中を縦横に織る乗合自動車の二階には、いつも車中のお客よりも吹放しの車上客が多い

のが目立つ。子供の時から戸外の空氣といふものに傳統的の執著？を有てる英國人は、寒風に吹かるゝとも少々の吹雪に襲はるゝとも、車中に閉ぢ籠るよりは車上に吹き曝さるゝことを撰む、茲に又英國人氣質がある、老人も子供も婦人も……。

リッチモンド公園の雪中にも散歩の人の跡を絶たぬハイド・パーク、レゼント・パーク、到る處老幼男女は雪上りをしてゐる、フット・ボールをやる、何處のゴルフ・リンクにも、競技者の見えざる處は無い。

東京の眞ん中でかりに乗合自動車があるとす、定めし冬の階上は至つて寥しく、夏は満員となるであらう、同時に地盤の弱い凸凹の道路では、頭でつかちな自動車は中心を失うて顛覆するであらう、それより第一に高架線のガードで乗客は皆頭をカッバラはれるであらう。

東京は廣くて人口も多いが、高速度の電車は地上にも地下にも無い、偶乗合自動車が出来ても、燐寸箱のやうな小さいものだ、此の如くにして市民は朝な夕な

電車の戸口でオシ合ひへシ合ひの練習を繰り返して居る。

こゝで當時の様を追想すると、ニューヨークでは電車へ乗る料金を渡すと車掌は紐を引くチンと鳴る、それでよいのである、切符など使はない。ロンドンで乗合馬車に乗る、車掌は居ない。乗客はてんでに料金を指定の箱へほりこむ、それでよいのである。土地の人にあれではロハや乗り上げがあるだらうといふと、外國人にあるかも知れないが、一々車掌をおく手数や費用からくらべたら物の數でないといつた。さう云はれると英國では鐵道でも手荷物に引換證をくれない。汽車がつく、手荷物はほり出される、名々は自分の荷物をさがし出して自由に持つてかへるのである。それでよいのである、それで事故なしにすんでゆく。

十一、フランス戦跡ランス

華府に於ける平和の會議、軍縮會議に破産した獨逸や素亂を通り越した露國を眼の敵にして、戰爭氣分軍備擴張の空氣を猛り立て、述べたブリアン佛首相の長廣舌は、殊に親しく之を目にし耳にした吾等には、言ひ知れぬ一種の感慨に打たれた。そしてこの佛首相の心理は、我等親しく佛蘭西の戦跡を見ねば分らぬ、少くとも佛蘭西人の氣分に親しく接して見ねば分らぬと思つた。

寒い／＼一月の十五日、吹雪を衝いて、クツクの案内でランスの戦跡を見物した。

親といへばなしといふ子が雪の朝を壊れし街の繪葉書を賣る

ランスの街は一週間獨軍に占領せられ、死者一萬人を超えたと註せられてゐる。人口十七萬の都市は今八萬に激減して居る。どこに一つとして満足な建物がない、紀元四世紀に建てられた有名なカセドラルも蜂の巢の様に壊され、天井はガランドウになつて空へ抜けて居る。

吹雪の中のランスの街、喪の人黒衣の人の往来しげきランスの街をあとに、郊外に出る。

雪とけの途をたどりて教會の

假屋につゞく黒き喪の人

積雪の中に鐵條網や軒壕のあとが見える、英佛獨各國の戦死者の墓、白きは身方黒きは敵方と、數限りなく碁盤の目のように列をなして居る。

敵味方一つところに埋もれし

廣野隈なく雪ふりつもる

雪道を踏みしめ、有名な爆弾巨砲により全く崩れ、佛兵二千の犠牲を生じた百〇八高地に上る。

戦前に既に乗り込みテニス・コートを作ると號しつゝ、巨砲据付けの爲めにコンクリートの地盤を建設してあつた Berry au Bac の村、戦前から推葺を作るとしつゝ、坑道を縦横に掘つてあつた Pontavent Co-rmicy の村。

此邊にもと何かいふ森があつた、此邊にはもと Cranteny の村、Cranne の村、Craenuelle の村などがあ

つたのすがと、それからそれとガイドは慘憺たる戦跡の名残りを次から次へと語る。

ヒンデンブルグ線に沿うて滿目荒涼白皚々たる戦跡は、まことに想像の外なる凄慘なる光景である。

此あたり村のありしと案内者か

語るも寒しクランヌの岡

此一行には、山内顯、竹内可吉の二君と落ち合つた、そこへ塚原中島の兩醫學士 見へたので、結局戦跡見物の一行九名中に五名が日本人といふ事になる。

ガイドに聞くと、殆んど毎回日本人の見えぬ事はなといふ。成程誰 教へたとなしに、ガイドはコレ、ザンゴ、コレ、ケウカイ、コレ、ガツコウ、コレ、テツゼウモウと片言の日本語をならべる。尤も今は爲替關係から圓の値がうんと高い、フランはうんと安、まさしく我敬愛なる日本のお登りさんの旅行時である。

十二、巴里、エトワール

星の心、車の軸、その人、馬、電車、自動車、目まぐるしき計りに織るが如き、エトワールの其又中心の凱旋門に登れば、大巴里は眼下に展開せられる。

シャンゼリゼーの大路から、ブラス・コンコール、ルーブル、チュリーエの一角を見たときは、そこに大佛蘭西のかゞやかしい歴史、佛蘭西民族の光輝ある誇りが力強く吾等極東の遊子の胸に深く印される。

華府の華盛頓モニュメント、バンカーヒルの獨立塔、紐育港頭の自由の像、そこに大米國民のシンボルがある。其民族の偉大なる抱負がある。倫敦に入りてトラファルガー、スケアーを過ぐるとき、此スケアーの地位構造、其中央に天空を摩せる大圓柱と、其上に立てるネルソンの像は、世界の覇權が西班牙より英國に移りしエボック、メイキング、モニュメントとして

そこに大英國民の大なる自負と、亦大なる努力と誇りをまさしくと感ぜしめる。

羅馬の都には蓋世の英雄該撒と大羅馬帝國の盛時をしのぶべく、そこに幾多の凱旋門がある。餘りに古い爲めに藝術的の意義より來たる尊さもあるが、同時に羅甸民族の世界に覇をととなへたる歴史を語るものである。生新らしい伯林のウンターデンリンデンの凱旋門、十八年前と今日、見る者の感じに徑庭を來たしたが、凱旋門は獨逸民族の光輝ある紀念物であつて、將來に互り必らずや何等かの意義あるべきものたるを吾等に語つて居る。

之れを思へばシャールレマンの大帝からボルボン朝を通じて、世界藝術の中心として、殊に大奈翁が歐洲の天地を席卷してより、巴里の都は實に佛國の都であり、又實に世界の中の都となつて居た。茲に佛國民族の強き誇りがある、過去の誇りの大なる丈けに今は其重き責に逐はれて朝野共に藻掻いてゐる。

日本帝國は 明治大帝維新の宏徳により、躍進して

大日本を造り上げ二十七八年戦役と三十七八年戦役を
經、遽然として覇を極東に唱へ、世界五大強國の班に
列する事となつた。

此光輝ある歴史此民族の誇りと之を繼承せる者の責
任を、根強く植付くる記念物として只桃山御陵を見る
のみである、吾等帝都には何等見るべきものを知らぬ。
二重橋前に廣々と芝生は展開されて居る、しかしルー
ブルもない、オペリスクも無い、凱旋門もない。

十三、巴里、ルーブル

古くから口にしてゐる話だが、日本にも少くとも時
代を追ひ、各流派別の美術の代表作は一堂の下に陳列
してほしい。又文部省主催の展覽會の新作中優秀なる
ものは、事情の許すかぎり、ルクサムブルのミュー
ゼー式に絶えず陳列して置いて、繪畫に志す者の研究
奨励のため、一般の觀賞と常識教育に資するようにあ

りたいと思ふ。

ある専門家の言の如く名作佳什も三太夫神主和尚の
手によりもう摺換られてあつて、今更明るみへ曝け出
せぬといふやうな事もあれば、權勢家大富豪の手へ贖
と知りつゝ高價に賣り付け、今更に銘打つて臆面なく
出せぬ事もある、又中には骨董店や贖作屋といふ階級
を保存する必要もあるといふ皮肉な話も聞く。

日本の書畫は濕氣やいろ／＼の關係、保存上陳列
して置けぬともいふ。何も年中陳列せねばならぬとい
ふではない、否時には蟲干もせねばならぬ。要は家屋
の構造設備次第である。外國のミューゼでは、一つ二
つの繪の寄贈せられたものも多い、又數十の繪を寄附
し特に何某の寄贈の室と銘打ちしものも少くない。散
失の憂なく、廣く衆と共に樂しみ、且つ一般觀賞家又
は後進者に大なる利便である。黑板勝美、塚本靖博士
などと屢々意見を交換した事もあるが、今ルーブルや
ミューゼー・ルクサムブルグを見て、その感じをます
ます深くするばかりである。

十四、常設國際裁判所と織田

博士

巴里會議の大なる産物の一つは常設國際司法裁判所
である。日本ではそんなものがあつたかなと、けろり
として空嘯く人も多からうが、此裁判所は各國の重視
せるものであつて、其制定委員會には、米よりはルー
ト氏、英よりはフキリモーア氏なども列席した位であ
る。

裁判官の數は十一名、豫備が四名で、四十二ヶ國の
選舉により、總會及び理事會の双方に多數を得たる者
を當選とする。此選舉競争は随分激烈であつたが結局
當選したのは、

英、佛、米、日、伯西、西班牙、丁抹、伊太利、瑞
西、和蘭、玖瑪
の十一ヶ國で、豫備は、

支那、繼馬尼、諾威、寒爾比亞

の四國であつた。

此國名を見て此程澤山當選するのなら、日本の入選
は當然のように思ふ人もあらうが、云ふ迄もなく東洋
には、選舉資格者となりべき獨立國が少ない。南米中
米の諸國又は中歐近東方面とはくらべものにならぬ。
現に一九二〇年海牙の萬國公法會議の議長をつとめ
た、白耳義の有名なる公法學者デカン Descamps 氏
の如きすらも落選してゐる。此れには大戦後白國に對
する各國の嫉妬的氣分も手傳つたとかいふが、兎に角
此選舉は政略と同時に學界を通じて、中々激烈なるも
のであつた相である。

此選舉で日本が當選しても日本ではなんとも反響が
無い。況んや誰れが其裁判官となつて居らうが居るま
いが、そんな事は一向に御構ひなしである。恐くは一
代議士一地方長官一縣會議員の選舉や任免程にも感じ
られて居らぬであらう。

其裁判官に織田萬博士が日本から代表されて居る。

そこ一織田君と他の裁判官を比較して見る。

海牙 會議が始まると各自本國から出かけてゆくが交通か便だから平素は自國で或は學者として、或は辯護士として、其他あらゆる本職に従事して居ながら議員としてかけ持ちができる。此結果収入も増加する、旅行を楽しむ事が出来る、夫人なども多くは海牙へ同行する。

日本は極東にはなれてゐるから内地と兼業といふわけにもゆかない。織田博士は爲めに京都大學の重職を去らねばならぬ事は大學としても苦痛である。博士は裁判官としての待遇丈で、孤獨のまゝ任期九ヶ年間歐洲の旅客に長年月を過ごす事は、同情に堪へぬ處である。

兩院議員などには候補者が腐る程ある、押し合つてゐるが、しかし此大事な任務に就く人は、誠に寥として晨星も嘗ならぬ。僕は只一織田君に付て云ふのでは無い。國際聯盟の時も折角のポストを行ふ事になつてもさて人がない、新渡戸博士を無理矢理に引張り出した

事も連想される。我極東の民衆はもう少し高處に立ちて、常に我國の爲め世界の大局を理解して呉れねばならぬと思ふ。

十五、十八年振りのベルギー

武府

日露戦役前留學して居つた思ひ出の多いブルユツセルに著いたのは、一月十五日の夜である。十六日ランデパンダンスの主筆ドンス氏に相談して、市廳のピュロー・ド・ボビュラシオンに、僕が會遊の際寄食した舊知の遺族の居所をしらべてもらつた。

十六日夜に入りて漸くイルデフオンス・メルシデキス君の宅を訪ねあてた。彼は僕を親身の子の様な心持で世話してくれた老婦人、故ウハン・ピラン老夫人の女婚である。

十七日はイルデフオンス君と共に、サン・ジヨスの

墓場にピラン老夫人の墓に花を捧げた、當時同宿した

學友津村秀松、柴崎雪次郎二君の心持をも代表して。

歸途イルデフオンス君の宅には、故人の妹や其女婚

其他親族一同が集つて僕を歓迎して呉れた。

十八日はイルデフオンス君の宅に晝餐に招かれた。

此三日間は誠に思ひ出の多い日であつた。

只一言いひ添へる。日本へは、前後數萬の支那の留學生があつた。此等の留學生諸君が在學中に在宿した下宿屋なり、素人屋下宿のおかみさんなどの間に、歸國後絶えず美しい氣分で通信なり交情をつゞけてゐるもの。果して幾許あるであらうか。僕がこゝに自分の手前味噌をでつち上るのではない、此武府のパンシヨンの家族が、しかも日露戦役前はまだ日本のニの字も知られない時代に、我等のような萬里遠來の有色人種の留學生を分け隔てなく待遇してくれた。同じ様に滑き温かき心を以て支那の學生諸君に接した事例が、我故國の東京神田邊に果して幾許あつたであらうか。同種同文も日支親善も、口先や文字の上だけでは意味

をなさないのである。

幼きははや母となりてコンゴに

ゆけりといふに繪葉書おくる

十六、武府の一夜 Cafe Sesino

白國ブリュツセル市留學中を通じ鳥の啼かぬ日はあつても、カフェ・セジノの撞球場でキューを手合せぬ日は無かつた。其カフェ・セジノは今閉ぢられてゐる。話は十八年の昔に遡る。

和蘭人で嘗て海軍の下士を勤め、僅かな恩給を命の綱にして居る鰥寡のお爺さんは、毎日セジノの球場で朝から晩までマドロス・パイプを口にしてゴロツとして居つた。球はあまり上手でない、僕は二三回競技した事はあるが、其後あんまりやつた事は無い、僕の強よ過ぎると、フランス語の下手な事も原因だらうが、爺さんは又爺さんで、年寄同士の好い對手があつ

た。それに爺さんはキューを手にする事一日に只の二回を限りとしてゐる。爺さんは一法か一法五十の定食料と、此二回の球戯料——無論ゲーム代は時間割で勝敗に拘らず半々に分擔する——それにマドロス・パイプの葎代、これが一日の生計費の限度であつて、十年一日の如く判で捺した様に繰り返して居た。

時によると僕は對手欲しやで爺さんに挑戦する事もある、爺さんは指を二本出す、もう二回分すましたといふのである。それならゲーム代は私が出すからといふと、爺さんは競技の精神に倅り自分の爲には悪い先例を作ることになるから折角だがと斷りをいふ。此天命に安んじ運命に諦め、吾只足るを知りて悠々と餘生を送つてゐた爺さんは、一日としてセジノに見えぬ日は無かつたが、もう彼の世の人になつてゐる事であらう。

此爺さんは無論此世の人では無いが、セジノで此爺さんの消息も知りたかつた。A名譽領事先生も、Mプロフェツサーも、小供の溺死せんとせるを救うて表彰

せられた勳章の略綬を付けて來たB會社員も、今はどうなつた事であらう。當時在住の我同胞をかへり見ても公使加藤恒忠君は上院議員の傍松山の市長として、松村貞雄君は露領に總領事として、武石弘三郎君は彫刻界の巨匠として、津村秀松君は久原商事の重役として、柴崎雪次郎君は新潟市長として、アンベルスの領事たりし諸井六郎君は羅馬の參事官として、シャルロアに留學した山田三次郎君は旭硝子の重役として何れも今活動されて居る、不幸にして龜山松次郎、久野安雄の二君は長逝されてゐる。當時の遞信書記官として留學したりし夫子は、その後遠く臺灣の役人とならうとは思はなんだ。さらに新聞人となる、そうして再び武府に客となる、さらに社命を帯びて陛下に拜謁する、誠に人の身の行末と水の流れである、歲月は絶えず流れてゆく、春風秋雨幾事の後再びいや三度セジノ前に立つ事が出來ようか? (昭和十六年追記今殘つてゐるのはもう武石君只一人となつてゐる。)

十七、武府のミューゼ・コン

ゴ

武府のサンカンテネール公園の後のアベニューは、左右皆別荘地帯で、どの家もどの家も其建築の様式を異にする事を條件として居る。従つて此アベニューは建築家の見がせぬ名所である。

ここから約一時間足らずの電車で、テルヴェーレンと云ふ公園があり、そこにコンゴの博物館がある。コンゴは英邁なる白國の先帝レオナルド第一世があらゆる非難や攻撃を押しつけて獲得せられ、今日では白國の寶庫となつて居る亞弗利加西海岸の大殖民地である。

かつて白國に留學中はよく此地に遊んだ、ミューゼも屢見た。然かし今日では印象も薄らいでゐる。過去七年間職を臺灣に奉じた僕としては、どうしても出かけ

て見度い。又近く皇帝陛下に謁見の時も、前官の關係もあり一見して置かねばならぬと思ふた。一月二十日雪はまだ降り止まない。電車に乗れば一人も相客は無い。只獨りテルヴェーレンに降りると、午餐を取るべき店も皆閉ぢてゐる。眞冬となればかうしたものか? ミューゼの前にゆくと、金曜日は閉館と記されてある。素人なれば案内記と首引きで却てかうしたへまもやらないのだが、會遊の地丈けに獨り合點で來たが、眞可金曜日が閉館とは思はなんだ。茫然として雪中に佇立して居ると、恰かも門を開いて、一人の老人が出て來た。此ミューゼのお役人らしい。之を見送つた事務員の引かへすを呼とめて、

「今日は見られませぬ?」

「金曜日ですから閉館です」

「私は日本から來た旅の者で、又と機會は得られませぬ。どうか特別に見せて貰へませぬか?」

「そうです? それはお氣の毒です、まあお這んなさい」

參觀者は僕一人である。ゆつくりと、しかも丁寧な念入りの説明付で、ミューゼの全部を見物した。

規則と云ふ髪付けでこち固めた日本であつたら、頭から問題にならないのである。ロサンゼルスの汽車やパチモニア・サンのアウトの遠乗りに於ける巡査の話などを思ひ出して、今更ながら法治國である故國を振り返つて見た。そうして臺灣在職中時の拓植局長官白仁武君と協力して、日本國民の海外思想育成の爲め拓植博物館を計畫し、九分通りまでまとまつてそのまゝとなつた往時を追懐した。

十八、白國皇帝へ刀架献上

白國皇帝に謁見した。一千九百二十二年二月二十一日午前十一時であつた。

精しい事は社友町田梓樓君により既に朝日紙上に紹介されてある。村山朝日新聞社長よりの刀架献上も事

なく濟むだ。まことに光榮身に餘つた事であつた。安達大使の好意と其他武者小路君はじめ大使館の諸氏の原情并に町田梓樓君の盡力に對し、謹んで謝意を表する。

百歩にして王城に入り半ならず

かしこみてあり王の御室に

さゝやけき室のたゞ中山なせる

文のせし卓に凭りゐたまへる

天地のとはに安かれとしるしもて

かしこみさゞ王の御前に

伯林にて安達大使より陛下御自署の寫眞を下賜せられたとの通報を受け取つた、重ね／＼光榮の至りである。社長に報告をかねて、尊影は白國と深く且つ美しき由緒を持せる朝日新聞社に、恒久に保存せられんことを望む旨を附記した。

町田梓樓君の筆にかゝる謁見の記を茲に轉載する。

X

X

新聞記者として一國の皇帝に謁見することは已に容易に望みがたい光榮である。然も三十分に亘り形式を離れ、政治經濟一般の問題に關して、應答の機會を得る事は、愈々貴重なる經驗である。

我が讀者は記憶せらるゝだらう、歐洲大戰酣なる時、戦に使用して倫敦に在つた社友杉村楚人君が、村山社長よりアルベール一世陛下に献上の寶刀を捧げつゝ、獨逸潜航艇の縱横するドーヴァー海峡を越え、ラ・パンヌの寒村なる白國軍大本營に伺候して其の使命を果たしたのは七年の昔である。

斯くて日本刀は陛下の左右に置かれたが、其後佛國政府の使命を帯びて陛下に謁した文豪ビエール・ロチ、極東の友邦より遙に致した誠意を偲びつゝ、名刀獨り其所を得ざるを恨むと書いた記事が村山社長の目に止まり、此所に太刀掛獻上することに決したのは尙戰爭中のことであつた。已にして戦戟まり平和締結を見るに及び寶刀又鞘に收むべき日が到來した。さてこそ下村博士の渡歐を好機としてアルベール陛下に献上の運びとなつたのである。

而して謁見の願ひや日取のことは、同博士の尙倫敦に滞在して居た頃から、ブラッセルの安達大使に依頼してあつたが、戦争以來い／＼の名義で世界各國からの献上品が頻々となり、近侍の人々も稍々迷惑を感じる程であるから特別の關係のある者の外は謁見なども差控へることになつて居る。かういふ事情であつたが、朝日新聞が久しく白耳義に寄せ來つた同情や、下村博士が十八年前ブラッセルに留學して日本へ簡易保險を創始し郵便貯金にカード式を採用したといふやうな關係もあるので、安達大使が等に盡力された結果、アルベール陛下は喜んで予等二人に謁見を賜ふ旨の御沙汰があつた。

正月二十一日朝十一時、安達大使の自動車に同乗して参内する。ブラッセル郊外に日本の五重塔を以て聞えたラーケンの離宮がある。陛下は毎日其處から此皇居内の御書齋に成らせらるゝのである。昨年六月我が皇太子殿下が白耳義訪問の時、御滞在になつたのも此の皇居であつた。我等の自動車は宮殿の玄關に横付けとなる。右手の大廊下に入ると、其處に侍從武官長ビーブルーク中將が軍服に我が勳一等旭日章を胸にし、同じく侍從武官メンヌカール大佐と

並んで立つて居る。ビーブルック將軍は戦争で愛兒を悉く失つた白耳義の猛將で、我が乃木將軍を聯想させるやうな生粋の軍人である。我皇太子殿下の御案内を承りワイテルローの古戦場に臨み、大獅子の鑄像の下に立ち、滔々一時間に亘つて奈翁最後の作戦を御説明申上げたのはやはり將軍であつた。余は其時の風手を頭に畫き、握手しながら何となく親しみを感じた。控室で將軍と謁見についての打合せをしてゐる間に、メンスカール大佐來つて我等を案内する。

石造の皇居は宏大ではあるが、内部は極めて質素で、佛蘭西の古い宮殿に見るやうな華麗な裝飾とてはない。廊下に沿うて黒服の宮内官が二三人直立して居る外、番兵のやうな者は一人も居ない。之を佛國大統領邸の正面大階段の兩側に、眩きまで金色燦然とした正装に電光の如く輝く鎗を抱へた番兵が、物々しくも不動の姿勢で二列に立つて居るのに比べると、封建時代と大正時代程の差がある。進むこと僅かにして御書齋の前に來た。

ビーブルック將軍は先づ入つて安達大使を陛下に御紹介申上げて引下がる。余は下村博士と共に大使に従つて陛下

の御前に立つと、大使の御紹介により陛下は一々握手の禮を賜うた。仰ぎ見る程に御丈高きアルペール陛下は、陸軍中將の御略装の儘玉座を離れて立たれる。余は献上の太刀掛を捧げつゝ、下村博士の奉呈文朗讀の終るを待つ。

余の代表する朝日新聞の特派員が、戦耐なる頃、ラバノン×大本營に於て陛下に謁見の榮譽を荷ひたるは已に七年の昔なり。

其機會に於て社長村山氏の名義を以て陛下の御嘉納を辱うせる日本刀は、實に我が武士道の傳統的精神の表徴なり。

村山氏が陛下に日本刀を献上せる所以は、大戦勃發の當初より陛下並に白耳義國民が世界に示せる武士道的精神及び異常なる勇氣に對して、讚嘆の誠意を表せんとするの微衷に外ならず、今や平和克復せるに當り村山氏は余に託するに太刀掛捧呈の事を以てす、願はくば寶刀の永へに鞘に收まらんことを。

余は弱年にして此地に留學せる者、當年隆々たる陛下の國家を回顧し感慨極めて深し。戦亂により赫々たる榮譽を贏ち得たる白耳義が、愈々鞏固なる基礎の上に

平和の世界に於て、陛下並に國民の聲名と相並んで永く國運の隆昌を見ることを熱望して已ます。

陛下は梨地金蒔繪に葵の紋章ある太刀掛をば嘉納あり幾度か御賞翫ありたるが、見事なる品よと御言葉ありて太刀掛を御手に持たせながら、

七年前戦耐なる時、日本名刀の寄贈を受けたるは今猶記憶に新なり、今又此の美麗なる太刀掛を受け、日本國民の白耳義に對する永き同情を偲ぶは余深く之を喜ぶ。

東洋に於て最有力なる朝日新聞が、將來益々日白兩國の親善なる國交の爲めに努力せんことは余が衷心の希望なり。

との御挨拶があつた。見れば傍の卓子の上には、曩に村山社長の献上に係る名刀が置いてある。陛下は御手づから之を取りて太刀掛の上に横へ給ひ、安達大使が何處に置きませうかと申上げれば、此處がよろしからんとて御書齋の大卓子に置かれる。

話の改まり過ぎないやうにとの思召にや、陛下は正面の玉座を避けて傍の椅子に御腰を下し給ひ余等に著座を勧め

ある。陛下は下村博士が此地に留學せる當時の事より御話を進め給ひ、臺灣政治特に生蕃の現状などにつき御尋ねがある。下村博士が前にテルピールなるコンゴ殖民博物館を觀覽し、臺灣のことを想ひて得る所多かつた旨を御答へすると陛下は御微笑がある。久しく佛蘭西語を用ふる機會がなかつた博士は佛語をもどかしく感じてか、はた陛下の御温容に馴れてか、英語を用ふるの御許しを願ひ英語を始めた時は、余は其の卒直なるに感服し、安達大使は其の大膽なるに驚嘆されたやうであつた。それでも陛下は物ともしたまふ御容子もなく、極めて御上手な英語で御應答がある。

余は始終大使や下村博士の御應答ぶりを傾聴して居るとお如才なき陛下は時々余に向ひ給ひ、佛語を解するかとか白耳義には始めてかなどの御言葉がある。余は昨年六月日本皇太子殿下の御來遊の際暫く滞在したことや、大戦争勃發の當時は、横濱なる陛下の領事館に奉職し、時の總領事バスタン氏を補けた事を申上げると、陛下は言下に今バルセロナに居るバスタンですと安達大使を顧み給ふ。此御挨拶に驚いたのは余一人ではない安達大使も下村博士も同

感であつた。と云ふのは、白耳義如何に小なりとも、各聯盟國に在る領事官の数は、變なものである。日本などでは總理大臣は愚か外務大臣と雖も、在外領事官などの名を一々記憶するものではない、況してバスターンは有用の人材ではあつても、外務省で、さまで有名な高官ではないのである。而も陛下は即座に其の任地を知られると云ふことは、如何にも國政に御熱心の程が恐察される。

それより白耳義に於ける戶外遊戯のことや、日本の雄辯術のことや又社會問題に關するヴァンデルベルトの仕事などについては下問や御應答があつた。御暇を申上げるに際し下村博士は、若し陛下に日本御來遊を願ふを得ば日本國民の無上の光榮であり、殊に飛行機にて御出であらば一層御感興あるべき旨を申上げたが、陛下は安請合は禁物と思召されたのか軽く御言葉をそらし給ふ。安達大使が名刀再び鞘を拂ふことなきを祈る旨言上すれば、陛下は「お互に……」と御微笑ありつゝ余等を戸口まで送り給ふ。

余は皇居を退く道すがら、曾て佛國外務省の大巨匠に納まつたブリアン氏との會見を、出し、内部の裝飾より道具立まで悉く善美を盡して居ると、陛下の御書齋の極めて

御質素なると其著しい對照を比較し共和國たる佛蘭西の萬事に形式張り、依然として帝政時代の臭ひを有するのに反して、王國たる白耳義の確に平民的なるを想はざるを得なかつた。

十九、羊の腸

大戰も最後に近くなつた時には、飛行船はウント重い爆弾を、然かも二つ携帯して倫敦へ襲來した。鈞合を保つ爲め二つ左右にブラ下げる、重過ぎてさう高處を飛べぬ、漸く郊外近かくまで來て投げ落した爆弾は、實に百五十餘軒の家屋を滅茶くにした、之れは全く秘密にして居つたが事實であるといふ。

此獨逸の飛行船に就ては面白い話がある、何れは日本もマツチ箱のやうな木造家屋だから至極火事早く出來上つてゐる。早晚東京大阪などの風上から一發爆弾を頂戴する時節もあらう、其時は至つて神經過敏な、

一時的亢奮性感激性に富んだ日本人は、俄かに日本飛行界の状態に對し、攻撃非難切齒扼腕するであらう、そうして科學の力は一朝一夕の悲憤慷慨では、尻にもならぬと云ふ事を自覺するであらう、其参考として一つ羊の腸といふ話を紹介をして見やう。

さゝやけ箱ならべたる町内に

さゝやけき人らさめきてをるも

濠洲は有名な羊の産地である。其濠洲で屠殺された羊の腸は、常に獨逸に輸出されてゐた。その用途は肥料にするといふ事であつた。

これがツエツペリン飛行船の氣球をつくる唯一の原料とは最近まで知られ無かつた。羊の盲腸を引き延ばして氣球に三重に張りつける、一船に付き羊腸の數實に約十萬を要するとの事である。

ツエツペリンは大戰の末頃である。サロニカから亞弗利加領の獨逸殖民地へ醫藥を積載して出かけた事がある。しかしもはや時期が遅れて引返へした、ところ

がサロニカも亦敵の手に移つた、結局獨逸陣地へ歸る事になる、此間飛行の往復は二週間に及んだといふ。

その耐久時間は驚くべきである。

ツエツペリンには羊の盲腸計りでは無い、瓦斯の漏洩を防ぐため、之に張り付ける特殊の糊を必要とする。ツエツペリン氣球に使用する糊の細胞は誠に細かなもので、之を顯微鏡で試験すると英佛なぞのそれよりはかなり細密である、未だに此丈けの細かい糊は他國では出來ぬとのことである、獨逸は科學界では矢張り一頭地を抜いて居る。(念のためくりかへしていふこれは大正十年末の旅行である。)

二十、ドイツの爲替事變

獨逸では爲替の相場が一馬克は昔の五十錢から一錢に下つて、我等には一回二百三百馬克の食費も一向に苦にならぬ、故國日本にくらべては、どれ丈け安くて

皆いか分らない。

然かし土地の人の身になつて見ると、大學の小使の月給は千五百馬克になつてゐるが、教授連の月給は二千五百乃至三千馬克である、換算すると二十五圓である三十圓である先生達に比して、正に十倍十五倍の収入ある事になる。

大學の先生の晝飯は、八馬克九馬克のヂヤガ芋辨當でしのいでゐる、家族には未だ暖かい肉食を與へる事は出来ないといひ居る。

妻や子に週に一度は肉添へし

食與へたしと老教授いふも

ホテルもオベラも踊り場も料理場も皆満員といふ、我々お上りさんはその流れの中を泳いでゐる。紙幣は益溢發される、物價の指數は時々刻々に上るばかりである。

これではストライキも起らざるを得ない、しかしストライキを爲し得る労働者階級は尙忍ぶべし、中産階

級サラリーマンに至つては到底立ちゆく瀬がないのである、恩給で衣食して居る人々に至りては全く言語同斷想像の外である。

金は持つて居つても値が下る一方である。貯金するよりもチョコレートを食べがよい、テーブル掛も窓掛も引はづして小供の下著にする、椅子の皮で靴を拵へる、家財家具を賣喰ひにして、サラリーマンは、たゞ餓死を俟つてゐる計りであるとは、全く人言計りで無い嘘の様だが實際である。(この一錢に下つたマークが一厘一毛一糸一忽と阪落し日に下がり、零の数が十三ついた一兆マークが、昔しの一麻克我五十錢になつたのである。)

二十一、波蘭國境の一夜

一月二十九日の午後五時、小さい手提たゞ一つで單身伯林を出發する。僕は出来るだけ同行者をさけてゐる。

巴里ワルシヤウ直通列車であるが、千馬克で求めた寢臺券に該當する寢臺車は無い、曰く此汽車はオランダ、ワルシヤウ間の寢臺車計りで、バリ、ワルシヤウ間の分はリエージで分離した、御氣の毒だが無いといふ、何んとも仕方が無い。零度以下二十度の寒さに、毛布もなく、著の身著の儘で一等室の一隅に引下がる、こゝに又一人の老媪が寒さうに腰かけて居る。聞けば正しく僕と同じ貧乏籤を引いたとの事である。無効にされた千馬克の寢臺券は、せめてワルシヤウで拂戻してくれといふと、求めた伯林でと云ふ、伯林で交渉すると、巴里へ問合せると云ふ、酢の蕪蕪こんやくのと拂戻してくれない、つまりは穩健にして物數云はない、いや外國語で物數云はれない日本人は泣寝入りとなるのである。何れにせよ寒い、窓硝子は外からも内からも氷りついて居る、寒い／＼全く寒い。

汽車の窓は内ゆ氷つきこの一日

なにも見えざるにたゞ黙し居り

併し寒いといふても此位のことでは濟まぬ。夜の十二時近くになつて、獨逸と波蘭との國境に著く、雪の降る中を老若男女荷物ともどもバラツク建の税關検査所に導かれる。それから列を成し最大徐行をつゞけて旅行券の取調、警察官の検査、それから兩替、それから國境よりワルシヤウまでの汽車の切符の購入と、色々の藝當をせねばならぬ、此間僕は同じ車室の婆さんの六つの手荷物の中から二つを、どうぞと泣き付かれる、氣の毒でもありさて断ることも出来ず兩手にぶら下げる。こんな事がいやさにわざ／＼身輕にして來たのにと思ふと、他人の荷物丈けに馬鹿に重い、行列の進みは遅々として進むとも見えぬ、雙方の腕が抜けさうだ。雪の眞夜中である、廣つばである。

お婆さんは波蘭の田舎の物持で、娘が、此間迄東京に又近く巴里へ轉勤した波蘭の外交官へ嫁してゐるとの事、佛獨波露の四箇國の語は自由である、大戦中の慘狀を事や細かに話し出す、聞けば涙の種ばかりである、頭が痛くなつてくる。

雪の夜をカバン手に手に旅人の

長き一列がつく息の白さ

二十二、ワルシヤウの一日

波蘭の鐵道は、獨逸占領中皆同じスタンダード・ゲージに切換られた。ワルシヤウの街には最早一として露西亞を聯想すべき何物も無くなつて居る。

印刷物も、劇場其他の場所の用語も、町名其他まで何れも薩張りとして露西亞語を消して居る。

露西亞語を知つて居つても皆わざと話さない。露西亞人の記念像は皆倒されて仕舞つた。只有名なる希教のドームは毀しにはかゝつたが、鐘搗堂だけで、本堂は毀すには餘り金がかゝるので其儘になり、中をカソリックの會堂に使つてゐる。此お寺だけが只一つの記念物として残つてゐる。

ヴキスチュラ河に架した鐵橋は、戦争で破壊された

あるとの事である。速記者が四人とも婦人である。

二十三、チエツクへのオウト行

ベルリン町では、汽車、電車、電話、水道、電燈のストライキまはだ止まない。

先きのつまつた旅程にはもう汽車開通が待つて居られぬ、又開通を待つといふ事は、新参ながら新聞人となつた我としては感心しない。飛行機と思へど國際間の飛行は許されない、まして荷物の積載量に限りがある、さて自動車をとつても此雪道ではといふ。

ドレスデンの便りに曰 國境の

山雪ふかみ超えがたしといふ

一日く暗く冷たき伯林を

立ち退く術に首あつめかたる

儘で手がつかぬ、一度豫算には出たさうだが、あまりに金の相場が變りすぎるので、實行どころでは無いとの事である、聞けば現時波蘭で發行の紙幣の總額は、既に二千億馬克にも近う。

あてにした Dmowski 氏は丁度不在で、議會の議長 Trompinski 氏に面會した。何分黨派が十三に分れて事々物々の利害から賛否が纏まらぬので困るとの事であつた。至極尤もな事である、其昔貴族の王選舉制と Liberum Veto 制で腐敗し切つた波蘭である、先づ一國の剛健な集中された氣分を造る事が、何より第一義であらう。

議場は高等女學校の講堂を以て充てられてある、丁度今盛んに論議が戦はされて、副議長 D. Im. Nowakowski 氏の説明によると、八時間労働につき討議してゐるが、午後一時から三時迄の間の休暇廢止につき互に論難してゐるのださうだ。八時間制などと此國家危急の際に生温い事がとも思はれるが、社會問題に早く先手を打つ事が露國の赤化運動防止には必須の對症藥で

旅人われ又なき機會に遇ひ得つと

いひはいへどもまこと堪へがたし

ミュンヘンへ汽車通すといふ又曰く

通じたりしも罷みたりといふ

鐵道の罷工はやみぬしかはあれど

レールに積める雪とけずといふ

三月中に歸朝の約束にて外遊の途に上り、二月末は馬耳塞より乗船と決めてあるからは、名殘惜しくも伯林に止まりかねる、さりとて汽車の復舊はいつの事か分らない。

二月九日朝まだき、防寒と食糧の準備に怠りなく、中島久萬吉、岩倉具光、棚橋半藏の三君と共に、タイヤに鎖を巻きつけた七十馬力のオウトにて、伯林をあつとに雪を衝いてザクセンに向ふ。

わがオウト白金の如真かゞやく

雪の大野をたゞにはしるも

ザクセンの片田舎 Lieben werda の Hotel zum weizen Ross に午餐を認む。食堂には維廉一世、比公、モルトケ將軍、さてはカイザー一家、ヒンデンブルグ將軍等の肖像額が掲げられてある。一同は兎の煮込に枯腸を醫する。

オウトゆけば薪まきひく櫓こしの馬をどる

南獨逸のくぬぎの林

エルベ河に沿へるドレスデンの舊都のさまはまことに晝中の景である。心急ぐ旅とて、オウトは一路チエツクの國境に向ひて上る。

我車チエツコに入れりとけえざる

大いなる謎のドイツをあとに

木枯の落ちしチエツクの山越に

雪道しだくオウトのきしり

チエツクの國境 Boden bach の停車場に著いたのが

夜の七時であつた。寒いながらほつとする。

二十四、紀元節の維也納

維也納では客冬暴動が起つて、所在のホテル、飲食店などは皆掠奪の厄に遇うた。

目星しい家の窓硝子は皆叩き毀されてゐる。何れも一時しのぎに布地を張りつめたまゝになつてゐる。

僕の宿泊したホテル・アムベリアルも、其一つである。此ホテルには奥國の孤兒救濟の爲に出張せる英國の駐在員も宿泊して居つた。彼等はその使命を語つても、暴徒の掠奪から免るゝことが出来なかつた。我公使館の假事務所であつた本多熊太郎公使の部屋だけが最後に残り辛うじて災厄を免れたとの事である。獨逸のストライキより聯想すれば、一クロローネが一馬克の約三十分の一に暴落せる維也納で暴動の起るに少しも不思議がない。

各國の財政は何れも苛重なる租税の重壓となる。資本税は大概五割、所得税は非常な累進率で、所得の大部は取り上げられる。關稅もつんと上げる、遺産は政府と相続人の間に分配する、勿論其賦課徴收の間に幾多の弊害腐敗もあるといふ事である。そこで食糧品はじめ輸入を仰がねばならぬ奥太利では、一層財政の困難を感じ、各國に類例なきあらゆる租税項目を新設して見たが、猶多額の不足である。結局紙幣の濫發といふ事になる。今や人口六百五十萬の新奥國に發行紙幣は一十億クロローネを超過して居る、爲めに物價は暴騰する。一寸買物をしてもその値段が百千位までは未だ忍ぶべし、萬と云ふ呼聲を連發せられては計算が大變である。僕の時は一クロローネが三毛見當であつたが、此換算が誠に面倒である。一萬何千クロローネといふネクタイも求めたが、なによりも此かさ張つた數十萬クロローネの紙幣を携帯する事がかなりの仕事である。しかし或る役人に云はすと、それよりも紙幣其ものゝ相場が紙代印刷代より低くなつたから困るといふ、成程そ

うなつては全く鎗が切れない。現時の奥國の總理大臣の俸給は、我留學生の月收換算額の約三分の一だといふのだから。

多額の河畔に日東の民、この由緒深き中歐の首都紀元節を迎へて感慨無量である。

遠つ國に旅して仰く今更に

我日の本の今日のよき日を

二十五、澳都の饑えたる孤子群

十二日の夜行でブダベストから維也納にかへる。

此日ホテルで入浴する。ポーランドのワルシャワ以來丁度二週間目である。

森領事の案内により Schöne Brunner に女皇マリアレシヤの昔を偲び、孤兒院ワイゼンハウスに憐れなる孤兒の群を見舞ふ。小麦、乳、砂糖など數々の食糧を輸送し來れ

る亞爾然丁特派の救濟委員本部を尋ねる。白皚々たる郊外にオウトを驅りて、戦時動員されし時に建てつらねられたバラックの假屋に、其戦ひの果實として收容されて居る數百千の憐れなる兒童の群を訪ふ。

物珍らしいからでもあらうが、眼色毛色の變つた我等を見て、人なつかしき幼き兒等は八重九重と取り巻き、グリユツス・ゴツドと口々に叫んで、只黙然として詞も出ない。胸が痛くなむ、眼頭が熱くなる。

ホテルも満員、オペラも満員、金のありあまる人達、分外な金を懐にせる旅人の群の眼には、涙が氷り付いて居るのでない、こうした憐れなる場面は知られずにある。

しかし全く知られず居るとは云はさない。數百萬の歐洲の兒童を救濟しつゝあるハーバート・フウヅアの名は、到る處に口にされてゐる。米國の救濟運動は獨り食料委員會のみでは無い。基督教青年會も、同女子青年會も、赤十字社も、近東救濟會も、クエーカー宗其他各派の慈善團體も、皆それ／＼に活動をつゞけて

居る。

其活動は飢饉に類して居る兒童計りではない、赤露數千萬の飢餓の民のみでない、中部及び東部の學生に對する救濟運動も含まれて居る。吾々は伯林で日本留學生の一部の企てになる救濟運動によりて、露國の飢饉救濟に、又獨逸學生の救濟に、些少なから義捐する機會を得た。同時に到る處米國を始め各國の大仕掛に救濟運動に手をつけて居るを見て、何等手の出てゐない故國をかへりみて残念に思つた。此感じは埃國維也納に於ける貧兒救濟事業を見て其感を深くした。米合衆國と云はず、南米の各邦と云はず、瑞西、和蘭、丁抹、瑞典、那威の諸國は、何れも食料品を仕送くばかりでない、數百數千の孤兒を自國まで引き取つて育てゝゐるのである。

二十六、巴里條約

今日の歐洲は平和克復と共に、其創痕が薄紙を剥がす様に快癒しつゝありやと云へば、戦後の財政經濟組織は根柢より破壊せられ、混亂紛擾又收拾することが出来ない奈落の底に陥ちて居る。

大戦により渾身皆創痕となれる大病人に對し、手術の方法が全然不自然であるのみならず、重傷に伴ひあらゆる餘病が併發した。然か之が手術には血管筋肉神經線の接合に、故意の不自然なる手加減があり、錯誤がある、茲に至るところ絶えざる疼痛が起る。さら其内科的の病症に對し、又其對症療法に甚しき不自然があり錯誤がある。腦も心臓も肺臓も胃も腸も、其他あらゆる機能は、それ／＼連絡され協調さるべきものが、凡てが復讐とか報復とがいふ反抗的氣分に煽られ、憎悪と憤怒の利己的感情に刺激せられ、不公平な盲目的な目前の各自の立場に執著し相對抗しつゝある。

復讐、報復、憎悪、憤怒、利己、盲目、偏頗、我執、嫉妬、不信の結晶物が、巴里條約として現はれた。巴

里の條約製造者中、英佛二國は過分な必要以上な大なる分け前を懐した、それ丈けに一方に膨れる處があれば、一方に縮まる處が無ければならぬ、縮まれ、獨逸から割き取つて新しい國が軒をならべて店を開いた。圖面、上へペンをはしらせると、思ひの儘の國境、出來よう、新店もできよう、賠償金額の算出も容易であらう。然かしそれでは長い／＼間に聯絡のとれて居つた今までの歐洲列國の一つの有機體としての安定は持續して行けようがない。

今や歐洲には此等の新店小さい店が軒をならべてゐるが、果して成り立つてゆけると思ふのか。一面に凹んでゐるのは一面に突出してゐるのである。他に無理な出來もしない事を強めて、將來國際間の平和を長へに維持しようといふ。何んといふ虫のよい巴里條約にそれがある。

樺太病床篇

六月朝鮮に入り、次で歸來、北陸近畿東海へと巡講をつづける。いくばくもなく七月三日、東京發四日小樽出港北千島を巡遊して十四日根室に上陸、阿寒を觀光四日を経て札幌に入る。五日間講演十回、引つゞき樺太に渡り連日各地に巡講をつづける。二十九日東海岸敷香をあとに三十里の山道を越え西海岸惠須取に着後、王子俱樂部にて狭心症發作、静臥半ヶ月、幸に經過極めて順調に十三日出港小樽に向ひ、十七日無事歸京直ちに帝大病院に移る。

前篇「千島遊記」の前半は八月四日頃病床中の口づてにかゝり、後半は醫戒をくゞりすき同く／＼にペンをはしらせしものにかゝる。

後篇生死の歌はその後醫戒のまゝ歌悅に浸り作歌四百餘首に及ぶ、その多くは三四の短歌雜誌に分載されるが、こゝには文藝春秋十月號の「生死百首」十節中の三節を採録し、さらに未發表にしてあるかゞの國策の歌の中から見本として「漢字整理」をぬき出して見た。今春の議會の壇上でも述べた、積年の持論であるからである。

「海南歌草」はすべて舊作である、かつてよみいでし中で、新萬葉集にのせられしもの、此選集中に記念として添へしまでである。(昭和十六年九月帝大病院坂口内科にて)

千島遊記

日時 昭和十六年七月四日小樽出港北千島へ、

十三日南千島擇捉へ、

四日根室に歸港

同行 貴衆兩院千島視察團

貴族院 前田利爲侯、船橋清賢子、丸山 鶴吉、

諸橋久太郎、柴田兵一郎

衆議院 山本 厚三、上田 孝吉、西村金三郎、

山田 順策、鹽川 正三、小野 謙一、

板谷 順助、吉植 庄亮、諸氏

千島より歸途阿寒札幌を経て二十五日樺太に入り、二十九日西海岸惠須取にて急病發作、病狀必しも輕からざりしも十分以上の手當をうけ、今回復の一途に向ひつゝある。千島巡遊中の資料は手許になく又あるとしても、公にし難きものが少なくない。茲に次第に薄れゆく記憶を辿り病床中口述による事とした。

第一、小樽より小樽へ

七月四日の夜岩代丸は視察團一行を乗せ小樽を出帆した。翌る朝も天朗らかに夏の海は静かである。舷頭に出れば船は大きな港に向つて行く。舳先に見ゆる山も家も見ゆる限りが見覺へがある。どうも見た様な港だといへば、見覺えのあるはずで昨日半日港内を視察し廻つた小樽の港である。聞けば視察團案内役の一人であつた水産試験場長が昨夜半から盲腸に痛みを覺へ船は留萌の沖から小樽へと引返したのである。幸に上陸する、すぐ外科の手術を受け盲腸部を切取る、經過良好なりとあとで無線で聞いたが、之れが尙一、二日を經たオホソクの海上であつても、又北千島に着いて發病したとしても其の結果はかなり寒心すべきものがあつたのである。それにつけても連想されるは今から三十餘年前歐洲留學中の古い思ひ出である。獨逸に旅をして居るときアメリカや南洋の獨逸植民地へ出掛ける時は、痛まなくとも盲腸は取つて行く。出先で發病す

ると大變だから何等異常がなくとも出發に先だち盲腸は切取つて行くと言ふことを耳にした。そこに獨逸人らしい國民性のひらめきが見へる。

偶々千島への旅にかうした生ける驗しに出遭つて古い記憶がよみ返つた。しかしこゝにこんな事を記すのは盲腸の時の参考といふのではない。遠い旅にはいろいろの場合にぶつかると。旅行前に果して遺言を記してゆくかどうかといふのが關心すべき事である。

歐米では原則として必ず遺言をつくつてゆく、それから旅行の特別保険にもは入つてゆく。何よりも平時遺言はつくつてゐるので、事新しくつくるまでも無いのである。此度の船の船員や船客についてのみいふでない、日本人も長旅であらかじめ遺言をつくる、さらに前以て平時より遺言をつくつておく、果してそれだけの用意のある人は幾人をかぞへうるであらうか。

私は三十餘年來新年元旦に遺言をつくつてゐる。千島遊記を前篇とすれば樺太遊記は後篇である。樺太で私は發病した従つて遺言についてもかねての持論を記

すつもりであるが、こゝに一言したのは、それが盲腸であり船を引きかへしてまあよかつたとかどうとかさうした問題だけでない。大きな日本の國民性陶冶の問題であるからである。

第二、地圖の錯覺

利尻島に夏の日暮れて海沿ひの

鯨小屋に灯はともりそめたり

五日の夕方宗谷海峡に入る、六日の朝は左舷に樺太の中知床岬から東海岸の一帶を眺めたが、それもいつしか見へずなりてオホーツクの海のため中を北千島を指して進んで行く。夏の北の海は波なく雲なく、行交ふ船もなく、一時間十ノット餘の速力で船は唯北へ北へと進んで行く。七月七日聖職の記念日に當り船客船員列を正し宮城を遙拜し將士に默禱を捧げ聖壽の萬歳を三唱す。

オホーツクの海原を行く船の上に

萬歳を唱ふ七月七日

日の本の光りあまねしオホーツクの

海原を豊に我が船は行くも

鳥飛ばず魚躍らず船見へず

空に雲なく波なく海に浪なし

中千島の北の端なるオネコタン島と奥千島の南の端なる幌筵島とをへだてるオネコタン水道にはいつたのは八日の朝であつた。

夏の千島にはつき物である海霧が濃くせまりて島の影も何も見へない。ブリツヂに立つた船長は霧の色とその流れ水の色とその動き、さては折々に鳴らす汽笛の反響に耳と目の全能力を働らかして居る。近頃は夏場には此の水道を通る船丈でも夥しい數である。出来るならラジオビーコンを、せめて燈臺を、霧笛報の設備をと繰返して訴へる。

われ等の船は珍らしくもガスに襲はれたのは此の水道だけで、太平洋側にぬけて見ればガスは晴れて忽然と目の前に幌筵の連山を仰いだのである。

ところでこれ迄の航程に絶へず地圖の錯覺が伴うて居た、それは宗谷を離れてから北千島の入口までに丸々二日を要したと言ふことである。我々の地圖で見ると千島はそれ程遠くはなかつたはずである。千島ばかりでない北海道を旅するものも何時も地圖の錯覺で、北海道の思つたより大きいのでくさくさの誤解を生む。

多くの場合に北海道樺太などの尺度は本土よりも小さくなつて居る。北海道の面積が九州に四國を二ツ合せたよりも尙大きとは考へられて居ない。地圖には經度や緯度の目もりがあり、尺度表がついて居るからよいではないかと言ふかも知れぬが、あの尺度表は、コンパスを片手に持つて居る専門家でなくば役に立たない。七十萬分の一とか百萬分の一とか書いてあつてもそれにより目分量で比較を立てることはかなりむづかしい。せめては北海道の圖に本土の二分の一大とか、

又千島の圖に本土の十分の一大とかさう謂ふ説明をつけて置くことが一策と思ふ。

千島は國後、擇捉、色丹の三島より成る南千島、得撫島よりオネコタン島に至る中部千島と、幌筵、占守、アライト島より成る北千島と、大小二十四の火山系の嶋嶼より成り延長一千八百八十軒に亘つて居る、だから此の度日本の新領土となつた新南群島は暫く置いて、臺灣から千島の間は臺灣から九州、九州から津輕海峽津輕海峽から北千島と大凡三分されて居ると見るがよい。我等は此度小樽より其の三分の一近い海上を北へ北へと旅したのであつた。

第三、幌筵島

二日二夜オホーツクの海を北へ北へと進み、三日目に濃霧の中を太平洋側にぬけ出で、忽然と夏の日に輝りかゞよふ幌筵の連山を目の前に見た時の感じは何にたとへん言葉もない、唯々壯觀に打たるばかりであつた。

我等の一行は御互にかうした偉大な壯觀に接したことはないとはばかりに、互にある限りの讚嘆の言葉を連發したが、然かし知らない人には何と形容して其の感じを寫し得られ様か、それは先づ出来ない相談である。内地の島々を連想して見るが、淡路島、天草の島、奄美の大島、佐渡ヶ島其の何れでもない、先づ最も似て居るのが對島である。對島が全島皆山であり壹岐の島が殆んど平地であるといふことが、幌筵の山が全島皆山であり占守島が平原であるのと相似通つて居る、いづれも壹岐對馬よりはすつと大きい。幌筵の面積は擇捉に次ぎ第二位であるが對島のように入江も港もない、海洋の唯中に雪をかつげる連峰である。同人吉植庄亮君が數多くの歌を詠み出でたと思ふが、我の詠み出でし次の數首の如き、到底此の壯觀を寫し得てゐない。

海五日はじめて島を見出でたり

雪のアルプスを海のただ中に

霧晴れて海のあなたに並よるふ

山むら立てる見ゆ雪に光りつつ

地理の本などには氷山などを見るが、これは長くつながつて居る連峰である、流石に眞夏のことゝて其の三分の一位は山骨脊せて地色が紫色に雪と映あふて居る。山の頂天から稜線は海の中まで走つて居るが、海際にまで残雪はまだらに點々して居る。空の色と海の色と山骨の色とそれに四ヶ處ばかり硫黄山であるとのことであるが、吹き上ぐる煙が中空になびいて居るだけである。凄絶とでもいふ外に言葉がない。

僕はふと飛驒の高山から日本アルプスの連峰を眺めた記憶を思ひ起した。それが冬の様に眞白ではない、先づ初冬の日本アルプスの連峰を中程から横さまに腰車に切り離して之れを海洋のたゞ中に据ゑて見た形ちである。さうした景色から夏の幌筵島がどうやら少しは想像出来る様に思ふ。

槍穂高日本アルプスの山々が

海の中より聳へしと思へ

と言ふことになる。どうもこれ以上幌筵島を表現することは僕には出来ない。

第四、北千島の漁業

今迄千島と言へば南千島ばかりで中千島は封鎖され北千島は郡司大尉の報効義會遺跡として僅かに記憶に残されて居た。其の北千島の漁業が急速に發展し我國の貿易の上に、又我國の食糧の上に大きな役割を演ずることゝなつたのは、實に最近の出来事である。

されば我等此の度の視察團も幌筵島では三ヶ處に宿泊し、船を替ゆること四度、四日に亘つて視察を續けたのも、まさしく北千島近時一大飛躍の結果に外ならぬ。従つて北千島に於ける漁業經營の現状について詳しく述べることに此の度の視察團の本旨である。然し時節柄さうした事柄について詳しく述べることに憚かられ、又到底紙數に於て許す處でない。

然し何にもふれずにはおれないから、斯くの如くなつた経緯を、一行の案内役鎌田武夫君の話しなどを中

心にしてあら筋丈け紹介することにする。

北千島方面の水産即北洋の漁業には、蟹、鱈、鯨、鮭、鱒、それに鯨、オットセイ等がある。此處に代表的に鮭鱒を例に取つて見る。北洋の鮭鱒は主にカムサッカ西海岸の數多い川に遡りて産卵する。日露戦役後ポーツマスの條約に附帶して日露漁業條約が締結され此の方面の漁業權が確保されてゐたが、露西亞側から新に盛んに手を延ばしはじめ、目ぼしい漁場は次から次へと露西亞側へ横奪されて來たことは著名の事實である。日本側は算盤に合ふぎり／＼に迄しか入札出來ないが、先方は出す方も受ける方も一つ穴の通し花を引くのだから、何ぼでも高くせり落してしまふ。

此の如くにして我等既得の漁場は相次で失はれる。茲に於て西海岸へ寄りつく魚を三哩の領海以外で獲りにかゝるが、それが領海にはいつたとかはいらぬとか言ふので絶へず問題を惹起して居たことも之れ又著名な事實である。そこでも一つ沖獲りの漁獲法をと考へたのが平出喜三郎君であつた。アメリカ側からも纏ま

つた資本が出たが、事志とかなはず失敗に終つた。然し之れは尊い犠牲であつて、其の後北海道の水産試験場北洋の漁業關係者等の研究努力に依り、之等漁族の廻游する道筋を調査し、一面には北千島の近海の漁獵にさらに又大洋にいでて母船式に依る沖取漁業に一段の進歩を來たし、見る見る北洋漁業今日の發展を見ることゝなつたのである。

此の程中天候が良くなかつたが恰度我等の船の入港と前後して何萬と言ふ鮭鱒が水揚げされた。海から工場へ水揚げされて行く魚族、それが次々に料理されて荒巻になるもあり罐詰になるもあり、とても盛んな景氣である。我等の同人吉植君をして、

漁場れうば漁場れうばでいふ聲聞けば

景氣直しの殿が來た

と歌はしめた。我等の團長前田侯爵は加賀百萬石の殿様だからさうした心持を歌つたのである。

たて網の袋をはさみよる舷に

沖取り音頭の高まる聞ゆ

うろくすは仲間にくはれ鳥にくはれ

獸けものにくはれ人間には一と網に

第五、北千島

北千島の第一線は摺鉢灣、第二日は壘山に寄港、夜は柏原に、第三日は片岡灣アライトを経て加熊別に、第四日は南千島へ南下したのであつた。

摺鉢のスリは摺だいや摺だと議論がある。その名のよりておこりしスリバチ山はむしろ兜に似てゐるいやバケツに似てゐるといふ。同じ似てるなら兜でよい、スリバチ、バケツなどいふのは感心しない。壘山又然りルイザンといふと女郎の名のやうにも聞える、累殘、流殘、流産など、どうも語呂がわるい、壘といふ字もむづかしい。何か分かりやすい耳あたりのよい紛らはしくない名に代へたいものである。あのそばに格好のよい山がある。誰もその名を知らしてくれなかつたがその山の名をかりても、又灣頭なる鷗岩から鷗港とも

いくらでも簡明なよい名があると思ふ。

幌筵島の柏原と占守島の片岡灣は水道をはさみて相面してゐる。片岡灣は北千島唯一の史蹟地とである。

明治八年千島樺太の交換條約締結せらるゝや開拓使理事官時任爲基は日進艦にて占守島を巡視して此灣をたづね、次で明治十七年、根室縣令湯地定基占守島を訪ひ、此地の土人九十七人を南千島の色丹島にうつしてゐる。明治大帝の旨を拜し片岡侍従の擇捉島に越年したのは明治二十四年の冬で、あくる二十五年占守島をたづねてゐる。片岡灣の名の生れたわけで、あくる二十六年郡司成忠大尉報効義會を組織し此地に渡りて越年した。

かへり見れば上野不忍池畔における福島中佐のシベリア單騎横斷の歡迎式、向島言問から郡司大尉の千島への壯行式、いづれも古い淡い思ひ出となつてゐるが郡司大尉の一行はかなり難航を重ねて千島に入り、その後衣食住凡ての手當が充分でなく、そのころはまだ野菜の栽培も思ふに任せず壞血症に斃れた人も少く

なかつた。片岡灣には報効義會當時の建物、齋藤實大將の筆になる永鎮北陣之碑、操志堅く在島四十年最後まで踏み止まつた別所佐吉翁の碑、所三藏外二十九名の犠牲者慰靈の志士の碑などがある。志士の碑は小高い丘上にあるが、丘陵はハヒ松のやうになつた榛の木に蔽はれてゐる、七カマド、榛の木など、ところ／＼に目につくが風あたりの弱いところでも丈餘には延び得ない、澎湖島の榕樹黄槿とおなじやうに、風が強いので枝はみなくねり曲つて地にはつてゐる。

風をいたみ尺にのび得ぬ榛の木の

はひ伏す丘に志士の靈はねむる

雪は波打ち際にまでとけずにある。朔風に樹々は屈んでゐる。さりとては千島は寒さのきびしいところと連想されやうが、ありやうは千島の冬は零點十五度を下らないのである。北海道、樺太、でもまだすつと温度は下る、帯廣釧路などは零點以下四十度にもなる。北千島の方がよほど温度は高いのである。

私が七年間在職中の體驗によつても、眞夏の臺北の温度は長崎、熊本、廣島、大阪などより低い事は少なかつた。臺灣には冬がない、一年中あたゝかいといふまでである。南洋方面とても赤道直下である、さぞ焼きつくやうに暑いと思はれるが、どうして臺灣より凌ぎやすいところが少なくない。

千島も温度は存外低くない、只一年中涼しい、そこに夏がないといふまでである。しかも今までは出かけていつても仕事が無かつたのである。そこへ北洋漁業の發展となつた。こゝに北千島の躍進時代が擡頭したのである。しかし漁業だけでは夏の漁期に限られる。

しかし資源は海だけでない。今まで歴代の北海道長官もこの邊土にまでは足を印しなかつたが、此夏には戸塚長官の巡視があつた。我等の如き視察團もこれがはじめてである。必ずや次で来るものは先づ産業の開發に伴ふ築港であり、航路の標識であらねばならぬ。

千島には狐もぐら熊などもあれば、藪蚊もある、アトもある。蠅は砂中に卵をひりつけて一年中生きてる

といふ、況んや人間においておやである。僕の新萬葉集に録されてゐる舊作は、滿洲の移民部落にて何十回となく筆にし、その後小説や劇やトーキーにも紹介されてある。それは、

滿洲の寒さ日本人に堪え得ぬか

そのはるか北のシベリヤに町あり

といふ理窟ぼい歌である。

今この滿洲の代りに北千島とおきかへたら、

そのはるか北のカムサッカに町あり

となり、さらに、

北の北のアラスカに町あり

といつてもよいのである。

占守島の北端國端崎からカムサッカは指呼の間にあつた。しかし日本の北のはては占守島でなくアライト島である。

アライト島を禮讚したいのは最北端でしかも高峯といふ事である。人間にも一國一城のあるじからのしてあつた織田信長、徳川家康といふやうなものあれば、腕一本から叩きあげた北條長氏、豊臣秀吉といふやうなものもある。山にもネパール高原の上に立てるヒマラヤ連峯、信濃高原の山にむら立てる日本アルプスの山々もあるが、アライト島の如く海洋から聳えてゐるものもある。アライト富士は此點から買つてやらねばならない。

海中からぬき出でたる山にはアライト富士の外に宗谷海峡の利尻富士がある。南下して伊豆の大島、濟州島の漢拏山などいづれもかなり廣い裾野を擁してゐるが先づ仲間に入れてやつてよい、さらに南下して九州に屋久富士がある。九州では雲仙彦山久住から霧島の韓國岳など相當高い山が散らばつてゐるが、いづれも屋久の下にある。屋久が九州の最高峯であるといふ事は

第六、アライト島

愉快な存在である。

アライトに至りてはその屋久を遙かに抜いてゐる。千島には幌筵の千蔵岳、擇捉の散布岳、國後の茶々嶽などは、いづれも樺太の最高峯敷香嶽よりはすつと高い、しかしアライトには及ばない。なによりもカムサツカの最高峯カムバリナヤも眼下に見てゐる。甚だ愉快である。北海道に入ると石狩十勝の高原に十勝岳、旭岳、石狩岳等々の連峯群立してゐるが、いづれもアライトに及ばない、況んや蝦夷富士といはるゝシリベシ山などは問題にならない。

津軽海峡をわたる、岩木山岩手山之れ又及ばない。鳥海山吾妻山大日岳等に至りては相當なものであるがアライトよりは低い、日光の白根にぶつかつてはじめてアライトはバトンを渡す事になる。

之を南の方からいへば沖繩から九州四國中國近畿いづれにもアライト富士の向ふを張れる山は無いのである。アライトは日本の最北端であり、しかも海洋中からぬき出た島山であり、それがとても高い、こゝにア

ライト富士に絶讃の辭を呈しても誰も異議は無いとおもふ。

幌筵の連峯すらも見られた事が稀なりといふ、それ程夏の千島はいつもガスに閉ざれてゐる。ましてアライトの絶頂は先づ仰げないとあきらめる外が無い。柏原に入る時念の爲め、一と目なりともアライトが見られたならばと水道をオホーツク海の方へぬけたが、まさしくアライト富士が見られた、いくばくもなく雲にかくれたがとにかく一時なりとも見られた。あくる日は片岡をすませて國端崎近くすゝめたが、ガスがひどいので晝食豫定地であるアライトへ航路を轉じる。今日はアライトは見られまいとあきらめてゐると、その内にガスが薄らいでいつの間にか白雪を山頂から海の裙までかつげるアライト富士の壯嚴なる全貌が我等が前に現はれたのである。我等凡人の眼には高低や大小はよく分らない、大觀畫伯の富士の繪の様なのがあるのまゝに現はれた、その偉大さ清淨無垢な姿に打たれたのである。大觀畫伯に一と目見せたい、甲州吉田

に富士を急かくべく通つてる和田英作畫伯にも見せたい、さうした氣持ちがおさへ切れ無かつた。

それへさらに大きな附録がついた。船の左舷に二つの雪をかつげる富士山が雲表の上に現はれた。幌筵の最高峯千蔵岳と後矢尻岳である。さらにかへり見すれば鼠色に太いガスの帯を横へてゐる、その上にカムサツカのカムバリナヤの雪嶺も日にかゞよふてゐる。もはや筆紙のつくしべくもない。同人吉植君の歌があつたが今手元がない。僕のはロクなものが無い、とても現はせない。

日の本の北のはたてに雪かつぐ

アライトを仰ぎ居り命なりけり

アライトの東京港に上陸晝食する、卓にのぼる鯨のさしみをむさぼり喰ふ。

第七、與助港の鯨

北千島の第三夜は加熊別におくる。加熊別は加藤熊

谷別所の三人によりて見いでされたる港であるから、之の三人の姓の頭文字をとつたとかいふ。少々長々しい名稱である。幌筵の第一峯千蔵岳が程遠くない、千蔵といふ名などに代つてよい。

加熊別「東京の呉服橋で鯨のポスターでおなじみになつてゐる日米水産の根據地である。社長五十嵐與助翁は私財五十萬圓を投じてこゝ地に與助港を築きつゝある。立志傳中の一人で日蓮信者である。此夜の歡迎宴の席上ではたま／＼來會してゐた植松練磨少將より翁が越後柏崎から東京に出て青果業で成功したが、友人たちに株を持たした千島漁業がモノにならないので本職をすてゝ千島へ飛び出したいきさつを紹介した。僕はさらに青果業者としての翁が、臺灣から持ちこんで來た眞青なバナ、を黄色に色づけた元祖であるといふいはれを直々に聞いたが、これは又別に披露する折もあると思ふ。それよりもこゝに筆にしたかつたのはその席上における與助翁のあいさつの一節であつた。與助翁の左に三人の男がならんだ。一人が重役であ

る息子さん、一人は報效義會の殘黨で鹽野君といつたと思ふ。一人は重役の英半七君である。その半七君を紹介する時に與助翁は次のやうなあいさつをしたのである。

この男は英半七と申しますが、眼に一丁字を知りませぬ。しかしはじめから私の片腕となつて働いてくれました。鱈を帆船に積みこんではるく、シャツ、ル方面へも度々出かけました。肩書は重役でも朝から晩まで眞つ黒になつて働いてくれます。どうやらこゝまで仕あげたのも此男のおかげです。どうか皆様名前を覚えてやつて下さい、そしてお盃をうけさせてやつて下さい。

まあさういふやうなあゝさつだつたが、朴訥なる與助翁の眞情から流露する詞のふし／＼に僕は頭が下つて來た、眼頭があつくなつて來たのである。

第四日の午前は加熊別の沖の鱈釣りに愉快な半日をおくつた。釣れた／＼鱈、鰈が引つ切りなく釣れた。

船のともに鯨釣れたりへ先には

もろに釣れたり鱈と鰈と

大きな鯨を腹一杯に食食して尾が口の外にハミ出してゐる、それでまだ餌にくひついた鱈、あの矢タラにタラフク喰ふ鱈を釣つた話は、既に北海タイムスや短歌研究に披露済であるからこゝに略する。

第八、擇捉島

七月十一日鮮海丸は一行をのせて中千島を左に見て南へ南へと下る。

中千島で得撫島は幕末の史蹟のあとであり、今農林省直營の養狐場になつてゐる。由來中千島は中央直轄の禁漁地域である。オットセイの保護といふ名目で日米英露四ヶ國間に條約が結ばれた、このあたりで日本側の自由漁獲にまかせたら、たまらないからである。この條約は十五年の有効期間を過ぎてさらに長々との

び／＼となつてゐたが、いよ／＼この十月下旬から解約となる。この點から見ても今年の中千島解放といふまさに劃期的の年である、養狐とあはせて別に必らずや筆にする事があると思ふ。

十三日の朝である。擇捉を左舷に見つゝ、抹香鯨を棧付けに黒烟をあげてゆく捕鯨船に追ひついた。擇捉の紗那の南となれる有筋の林兼の鯨工場へ運ばれつつあるのである。有筋は文化四年幕吏戸田又太夫が露船の侵掠に憤死したところであるが、我等一行ははからず此地で抹香鯨料理の光景を實感した。この歌も短歌研究にのせられてゐる。

千島も擇捉までくると舊幕時代からの面影が残つてゐる。氣候も大分北海道の本土じみて、たんぼ、百合クローバー、女郎花、おだ巻、濱なすの花などが一時に咲き匂つてゐる。

春も夏も一時に、たる紗那の濱に

はまたすクローバーたんぼの花

栖原家に半世紀以上奉公してゐる坂内老人は函館からわざわざ見えて接待してくれたが、紗那川原に罾を網で引きあげ石焼きのもてなしは有りがたかつた。扁平な大きな石に味噌をかためて土手をつくり、その中で罾と玉ねぎの味噌焼きである。

栖原角兵衛も明治八年の千島樺太交換に樺太東西海岸五十八ヶ處の漁場はたゞの一萬八千圓の涙金で追つ拂はれてしまつた。今擇捉で仕事をたゞけてるが、栖原家の一代記は千島樺太の漁業史である、船中の講座に僕の最上徳内、近藤重藏、間宮林藏、松浦武四郎諸先生の史實談につき、山本厚三翁は栖原家につて詳しく話された。別に翁の筆を煩はしたいものである。

擇捉から得撫へは先人の遺蹟が少くない。かの寛政の十二年近藤重藏が露人の立てた十字架をぬきとり、大日本惠登呂府の標柱を立てたのも、紗那から二十里北なる蕨取岬の斷崖であつた。千島の史蹟のあとといつても誰もたづねてくるでなし、根室にしても函館にわたる一萬人中一人は來ないであらう。よろしく札幌

神社の境内にさうした先人を表彰した記念の施設がで
き鬼神もさくべき壯烈なる先人のあと、それも只勇氣
一點張りといふでない、天文算數に明るく數々の地圖
や記録や文献を残した偉人だちの正氣を、吾等のあと
をつぐ青年たちに吹き込んでほしいと念願する。

第九、再び地圖の錯覺

終りに地圖の錯覺につき再び筆にする。

スケールのちがふ地圖による錯覺は北海道樺太を狭
いものに、千島を割合に短かいものにしてしまふ。さ
うした錯覺につき記したから、かなり北海道方面は大
きい、千島は北へ北へ遠い遠いといふ感じを深くした
とおもふ。しかし又之とちがつて近頃、世界地圖が地
球を丸いものとし、四角な扁平なものにしてしま
つてゐるためにおこる錯覺がある。

吾等の中學時代には机の上に地球儀をそなへ、筆立
てに筆や鉛筆や孔雀の羽毛をさしたものである。孔雀

の羽毛や筆立てはどうでもよいが、地球儀のなくなつ
た事はどうでもよくはないのである。かも平面地圖
には南北兩極に近づくと従ひ、次第にせばまつてゆく
べきか、いつまでも赤道方面と同じ幅で延びてゆく、
カナダもグリーンランドもシベリアも北極に近づくと
どだ、廣くキャベツの葉のやうに開いてゐる。こゝに
大きな錯覺が起るのである。

横濱から桑港行とシヤートル行とでは日程が著しく
ちがふ、しかもシヤートル行きは金華山沖か北海道
東海岸へむけ上つてゆく、平面の地圖で見ると却て大
廻りになるべきである。しかし近いはずである。地
球が圓い、北へのぼるほど東西の幅はつまつてゆく、
東京桑港間三千七百マイルに對し東京シヤートル間は
實に千五百マイルを短縮するのである。

近頃ノックス米海軍長官の言をかりると、新聞では
アラスカ方面の陸海軍が要塞航空要港などの基地とし
て七千二百萬弗の軍費を割當て、ミッドウェイ及びダ
ッチハーバーの基地は今回完成した、八月一日から就

役するといふ事を宣言せりと傳へてゐる。

巨大な白象であつたアラスカが七百二十萬弗でロシ
ヤから買収されたのは南北戦争がすんで間の無い事だ
であつた。こゝにはアラスカの歴史をこゝで述べるスベ
ースも無いが、アラスカのシワアド港から浦港^{ウラジウ}へは三
千四百マイル東京へは三千三百マイルであり、アリユ
ーシャン群島東部の要港ダッチハーバーからはシヤ
ートルへ二千マイル東京へは三千マイル未滿である、ア
リユーシャン群島の西部からは北千島までは一飛び七
百マイル位であらう。

さらに北極方面の地圖の錯覺はシベリヤ方面に於て
一層甚しい、我等は先づニューヨークからアイスラン
ドへは三千マイルであり、アイスランドかベルゲン
又はロンドンへは九百マイルにすぎないといふ事をフ
忘れてはならない。そのベルゲンからいくばくもなく
インランドと境してゐるソ聯の北氷洋に面せる最西の
港ムルマンスクがある。此港はメキシコ灣から、暖流
の餘波をうけて不凍港である。恐らく此文が印刷さ

れる頃はドイツと芬蘭により占領されてゐるかと思ふ
がこのムルマンスクが實に極東への海路空路の基點で
ある、ムルマンスクからベェリング海峽まではわづか
に二千マイルにすぎない。

あの平面な地圖では飛んでも無い錯覺を起す、よ
ろしく地球儀について北海道樺太を見よ、さらに千島
を見よ。さらに、世界列國を見よ、さうして我邦内
外の狀勢を再思三考せよ。

日本は東に西に南に北、すべて 深い關心が拂は
れねばならぬ。(時は十六年八月六日、樺太西海岸國
境に遠からぬ惠須取の病床にて。)

生死吟

上、狭心症發作

樺太の國境に近き町に來て。言上げもせで我病みにけり

今更に覺悟をするもせぬもなし。なるがままにとあきらめる心

助からぬものときまれば壇上に。言上げしつゝ息絶えんものを

遺言は書きつゝけ來て年久し。今さら何んの殘さ言葉ぞ

此期に及ひのこす言はたゞ一つ。惠須取の地に分骨せよと

冥加なや南臺灣にさらにまた北樺太に骨分たれん

とは

壇上に言上げしつゝ息絶えしと。心足らひつゝ夢さめにけり

中、生死觀

限りあれどいつとはわかぬ玉の緒の。わかぬをたのみ夢とくらしつ

死は前に迫りてゐるも老いの身の。たゞ安らけき死をこそと願ふ

老のびて朽木の如くたをるゝを。安らけき死とのみ我は思はね

爆彈 微塵となりてけし飛ぶも。安らけき死一つのみ

ぢり／＼とむしばむ痛になやむ人。そをみとる家族の苦しみを思へ

思ふままに手足動かす口きけず。中氣にやめる姿はいかに

汽車着けりカーテンとればありしまゝに。靜にねむるとはにねれるも(東京驛の西村丹次郎翁)

グリーンへ打ちたる球のあとおひて。その場に逝けり笑ひながらに(門司ゴルフリンクスの安川清三郎君)

たゞ一言話せばわかるといひ殘し。木堂は逝けり首相官邸に

春畝公は遠く大君の使して。露と消えたりハルビン驛頭に

觀じ來れば死生天にあり死に處する。吾心をたゞ安らけくこそ

下、遺言觀

遺言はしかく簡單なものならず。お國のためにと

かあとを頼むとか

氣安く心正しくぬりにねり。遺言は筆にのぼすべきなり。

家族へのかたみ分ののみが遺言かは。我に業あり友だちのあり

のこすべき代なしといふ借りあらば。猶書きのこせ濟すべき道を

額一つ軸物一つも我友へと。かきのこしたし感謝のしるしに

我村の學校の庭へとしるすもよし。一本の苗一部の本も

人みなは感謝の代りに世話かけて。友だちをあとにあわたゞしく逝くも

凡夫われ悟り得ざれど古くより。書き遺しあれば心つねに安し

若き頃は遺言の中へ國策の。かすくまでも書きつゞりしか

「これからの日本」を筆にしほどもなく。二、二六ありよくぞ書きのこせし

此春は「來るべき日本」を筆にせり。まづしけれどもよくぞかき置きし

あわて者か「シ」の字嫌ひか臆病か。遺言の二字におびえる人あり

みづからを省みる事の恐ろしさに。眼まなこふさぎてその日その日を

日本人は死を恐れずとふしかはあれど。死を忌む人のなど、多かる

遺言を認めおけば病める時も。心しづかに熱さがるべきに

死は安し死に處するかたし死に處すべく。遺言と

いふ安心の道あり

三二〇

遺言は無病息災の秘訣なり。心安ければ病に遠し遺言は長壽延命の秘訣なり。遺言は生きて命つづけるも

漢字整理吟

一つ文字をいく通りとなく讀みちがへ。怪しまぬ國あり日本にっぽんといふ（又またにほんといふ）

カナの如く一字一音なるべきに。一つ漢字を數知らずよむも

生といふ字の讀み方は君よ乞ふ。驚くなかれ百六十五

「ワ」と覺えし和歌山の和は國を隣る。大和は「ト」

とよみ和泉は「イ」とよむ

北京ペキンとよび東京トウキョウとよぶ横濱ヨコハマと。つなぐ電車は東横トウヨコに京濱ケイヒン

外語ゆゑタバコを避けてけむりぐさと。讀むはよけれど燐寸はいかに

麥酒マクヰとかきバクシユ又はムギザケと。讀むはよけれど莫大小マリヤスはいかに

我友は米田とかけどあるはヨネダ。あるはコメタとあるはマイダと

角谷カクヤとしるせる姓はスミヤとも。カクヤ、スミタニ、カクタニなども

海月カイゲツといふ海沿ひの宿に入り。月の光りに海月くらげを見たり

現代の發音は知らでその昔の。漢音、唐音、吳音などとりませ

日支の同種同文は言ひ古るせど。同文の禍却ていぢるき

蔣介石四百餘州をとなへるや。逆貨を一にし假名をつくれり

民國は常用漢字の數をかぎり、假名をつくりて民の眼をひらきつ

ケマルバシヤ新興トルコを打ち建てたり。アラビヤ文字はローマ字にかへつ

今のやうな字のよみ方で大東亞の。民族の指導をいかにせんとや

海南歌草

(新萬葉集に收められしもの)

石狩原野

見はるかす蝦夷の賦野はひろびろし

やまと島根に山を見ざる國あり

葛温泉

山の秋の水はさやけし椽の實の

みな底ふかく沈めるが見ゆ

佐渡が島へ船上

船先切りて右にとびたる飛魚の

左にそれてまだ落ちぬかも

越後へ飛行機上

たたなはる白雲わけて信濃なる

浅間の嶽とすれすれに飛ぶ

下總手賀沼

ただ一つうなぎ釣る舟見えぬしが

いつしかそれも見えなくなりけり

比叡山

四明嶽にのぼりて見れば風をつよみ

あわただしもよ白き雲黒き雲

阪神電車

松並樹にそひて一寸ち眞白くぞ

水なき川のくれ残りたる

六甲山麓音楽園海南莊吟

天地の廣きが中に踏む足の

はじめて輕し我が土を得て

眼さむれば松の小草を刈る鎌の

音さやに聞ゆ日和なるらし

吾子はしり仔犬また走り路のべの

山萩の花はゆれて散りけり

隠岐西郷港

汽笛の音島一ぱいにこだまして

隠岐通ひの船錨おろしたり

隠岐の闘牛

頭を下げつき上げつき上げまじぐらに

つきすすむ牛の次ぎ脚の早さ

一步さがりまた二歩さがりするすると

さがるやがても遁げ行く負け牛

土佐室戸崎

わだつみはとどろき暮れて室戸崎

燈臺の火のただ一つのこる

琉球

田も畦も丘もなぞへも岩の上も

野も山も谷も蘇鐵、蘇鐵、蘇鐵

臺灣臺中濁水溪

張氏に嫁ぐ李氏の女のおかき轆

徒歩わたり行くも濁水の溪を

臺灣最南端鷲鸞鼻

日の本のみんなみのはしにわが立ちて

ふりさけ見れば黒潮をどる

華府郊外ヴァーノン丘(華盛頓終焉の地)

戈とりて立ちにしところ戈ををさめ

ねむれるところ秋の水長し

ミラノをあとにローマに入る

朝もやの晴れゆくひまにドーム見えて

鐘の音きこゆローマはちかし

石見國の汽車の中に

汽車の中に一人し居れば打絶えて

久しき我に我は會ひにけり

程ヶ谷ゴルフリンクス

たまたまに打ちたる球の高く飛べは

空仰ぎたるに雲雀なくきこゆ

潭身の力をこめて打ちし球

一二三間ころび止まりけるかも

大正十年臺灣總督府民政長官を
辭し野の人となる

此あした天地の中に我ひとり

立ちし姿をわれと吾見たり

言 志

あまりにもかはりいちじるき今の世に

たまたまめぐりあひて六十年をへたり

我と我が頭に腕に手に足に

この年月の御禮を申す

生きむとする心やうやく衰へ來て

なりゆくままになれよとも思ふ

天地の中に立ちたる我すがた

數ならねども日は光らしけり

時事偶感

いにし人を思ふは我の老いたためか

今の世に人のまづしきがためか

滿洲の寒さ日本人に堪へ得ぬか

そのはるか北のシベリアに町あり

日本の地位篇

(東亞及び世界に於ける日本の地位)

一、日本の地理的沿革

日本の東亞及び世界に於ける政治經濟其他各方面より見たる地位を知るには、先づ客觀的に日本の不動的の要素より考察せねばならぬ。日本の絶對的特異性は主としてその地理的地位にある。即ち、

極東に於ける島嶼より成り、しかも細く長く北は千島の北端アライト島北緯五十度五十五分より、南は臺灣の南端北緯二十一度四十五分にわたる細長き帯の如き島嶼の集りが、大日本帝國を組成する中核を爲してゐる。

今の沖繩縣即ち昔の琉球諸島は明治維新まで日本と清朝とに兩屬する形であつたが、明治七年臺灣征伐の後、天津條約の結果日本の領土たる事が確定せられ、次いで明治廿七八年の戦役により臺灣島は日本の領土に編入され、更に明治卅七八年の戦役により、北緯五

十度より南の樺太は我領土となり、ロシアが清朝より租借せる關東州は又我租借地となり、次いで明治四十二年日韓併合の結果朝鮮が日本の領土となることとなつた。次いで大正九年ヴェルサイユ條約により、内南洋の諸群島は我委任統治區域となり、ボナペ支廳内のグリーニッチ島は北緯一度の地點にあり、更に昭和十四年三月南洋ボルネオ島に近き新南群島は臺灣高雄市の管轄するところとなつた。

日本の本土大八洲が東は太平洋に境せられ、西は日本海、支那海によりてアジア大陸と隔絶されてゐた事は、交通の不便な時代を通じて、日本の建國以來一度も他國の侵略をうけない、金匱無缺の誇りを持つこととなつた大きな原因の一つである。

しかも交通の不便であつた古代に於いて、日本は外侮を受けなかつたが、日本からは屢々大陸に進出した事は、日本民族の優秀性を示してゐるので、徳川鎖國の時代を通じて、日本民族は北は千島、樺太よりシベリヤ、南はフィリッピン、印度支那、タイ、蘭印方

二、世界建國百態

面に輝かしい歴史を残して居る事は、こゝに敘説をまづまでもない。もし徳川の鎖國政策が無かつたならば日本民族は既にアジア大陸に、大洋洲にいかにもその羽翼をのびし得たかは想像にかたくない。明治の維新となり、世界のあらゆる未開地が歐米先進國の手により凡て占領しつくされた後に、やうやく國際場裡に一步を踏み出し、しかも今日までの國運の隆興を來たせるを見て、我民族の優秀性が裏書されるのである。

日本の輝かしい歴史は日本民族の優秀なるが爲めであるが、その理由は唯地理的關係のみでは説明出來ない。我等は日本民族そのものについて、さらに深く掘り下げて考へねばならぬ。世界の歴史を通觀するに幾多の民族が集まつて一つの國家を組成せる例は少くない。しかもそれらの民族が融和して渾然たる堅實性を表はせるものは、日本の他にその例を見る事ができないのである。

世界の獨立國家を通觀するに、その國土の面積が廣く而も單一民族より成る場合が最も有利であり有力である事は言をまたない。又中には稀れに小國にして、異民族よりなり、健全なる歴史をつくつてゐるものもある。スイスの如きはその面積は九州より狭く、人口もやうやく四百萬にすぎない、而もその狭き國內にフランスとドイツとイタリーの三つの民族が相集まつてそれらに言語その他に特異性を持續し、しかも三者皆同様無差別の關係に於いて、その國の存在と平和を續けてゐる。

かくの如きは誠に稀れなる存在であつて、異民族によりてなれる多くの國は、征服せる民族と征服されたる民族即ち治者と被治者の差別待遇により政治問題まで引き起すのが例である。昔の埃匈帝國には征服者た

るドイツ民族に對し、數知れぬ被征服民族があつた。その間の少數民族の自覺、征服者に對する反抗意識が第一次歐洲大戰の一つの原因となり、又その結果、奧匈帝國は人口僅に六百萬のドイツ人をもつてなれるオーストリアを残して、ユーゴスラビヤ、チエッコスロヴァキヤ、ポーランド、ハンガリー等の國々の建設又は分立となつた。

更にその新に建設された國々が、又それ／＼に多數の異民族を包擁せる爲め、その新に建設せる國內に又新に民族問題が惹起せられ、チエッコスロヴァキヤから約三百五十萬のズデーテン方面のドイツ人はドイツに併合され、又新に生れたポーランドに於ける百萬のドイツ民族に對する差別待遇問題などが、今次の歐洲大戰勃發の導火となり、或ひはルーマニアの再分割となり、或はユーゴのセルビア、クロアチア等の分割となつたのである。

一方に植民地の民族關係を見るに、植民地の人口あまりに稀薄なるため、英の母國に對する濠洲又はニエ

ーゼーランドの如く、或ひは又日本の樺太に於けるが如く、母國民の延長せる地域と認められるものもあるが、多くは異民族の混住地帯となるものである。植民地の大部は現地に於ける多數の土民の外に、少數の白人種が混入せる場合が多いのである。

更に又英國とカナダの關係の如く、約千萬人の人口の中に、その三分の一がフランス人系統の如き例もある。又英國の暴力で南阿聯邦の一つに加へられたるトランスバールの如きは、和蘭人系統のポアールの民族によつて統治せられてゐたのである。その他アフリカの各植民地、印度、ビルマ、佛領印度支那、蘭領印度フィリッピン等の何れもは、その大部分が土民であつて、極めて少數の白色民族により統治されて居るのである。

北米合衆國は英國より移民したものが中心となり、その母國に背きて獨立し、爾來世界各國よりの移民が集まつて來た。土人のアメリカ・インディアンはその數に於いてもその質に於いても問題の外であるが、現在

白人種の外に人口千萬人を超ゆる黒人があり、更に支那、日本、フィリッピン等から移住せるものも少くない。アメリカは世界の民族の鎔鑪であるといつてゐるが、その地理的にヨーロッパ及びアジアより離れてゐること、又その面積も廣く、資源に恵まれてゐる事は、あらゆる民族の鎔鑪としてまさしく稀れなる事例になつてゐる。

三、民族混血問題と日本

以上述べたる各種の場合に比較して日本民族の歴史を遡るに、そこには原住民族があり、降臨せられたる天孫を中心として、シベリヤ、滿洲、朝鮮、支那等大陸より渡來せる民族がおびたしく、又琉球、臺灣からかけて南方一體の民族にして渡來せるものも、相當の數にのぼつて居たといふ事は、黒潮が運んで來た熱帯植物が九州四國東海の岬や鼻に、或ひは日向のビロ

ー島、青島等の島々に繁茂しつゝあることによつても證據立てられる。即ち日本民族は、過去に於いて單民族でなく數多い民族よりなり、しかも極東に隔てられたる島嶼であつた爲めに、そこに長い歲月の間に渾然たる民族が作り上げられたのである。

民族學者として知られたるコルラード・デニー教授は次の如く云つてゐる。

新しき人種民族の發生は、明かに交種の現象として考へらる。新しき文明民族が異民族人口の混合、併存、重加によつて作り出される。現代の米、佛、獨、伊、古代のギリシヤ、ローマの如き、何れも異なる人種の種々なる重なり合ひによりて出来上つたものである。多くの混血は、屢々原民族の何れよりも劣等であると考へられてゐたが、交種は量的及び質的見地よりして必ずしも種を墮落せしめるものではない。

偉大なる民族は混合の産物として表はれる。ヨーロッパ人種はその實例であり、黄色人種のうち最も進歩したる日本民族は相異なる人種的要素の融合によりて出來たもの

であつて、滿洲人、南支那人及びマレー人、オセアニア人その他古代アジア人的要素としてのアイヌ人よりなつてゐる。

一方に近親の結婚がよくないといふ事が通則であり同じ状態で續く事は結局老衰を來すといふ事は疑ひなき事實である。もとよりその混血する種族が互にその長所を持ち、それが相合することによつて更により良好なる結果を見るべきであつて、植物の上にもよき種を交へるといふ事があり、よき接木をするといふ事があつた。絶えず清新なる刺戟がなければいかなる生物も頽廢せざるを得ない。

デニー教授はマレー人種中のジャバ人、又南アフリカのバンツール族を、異人種の融合による民族の實例にあげ、更に白人と黒人との交種、即ち南阿に於ける和蘭の移民とホッテントットの間に生れ來た子孫の優秀性を説いてをるが、少くとも文化の相似たる人種それ等の間に混血され、それが長い歳月を通じてユニックになつた時は、そこにより強く、よりすぐれたる民族

易性が一層その民族を懦弱にする。狭い島國で氣候の變化が著しく、而も山嶽地帯が多く、耕地は全面積の二割にすぎない。古代にありても食糧その他の資源に於いて水産を除き天恵が浅く、現代文化の下にありても石油、鐵、羊毛、棉花その他の必需資源に乏しく、加ふるに他國に餘り例のない地震及び颱風などいふ天災地變に襲はれる事が多い。さうした自然の状況はこの民族に絶えざる刺戟を與へ安逸を食らしめざる事となつてゐる。

日本民族は外國との交通が不便であつた爲め、源平以後徳川の初期にいたるまで、全国各地に於いて内亂を續けてゐた。これが見方によりては又絶えざる民族内相互の刺戟となり、我國體特有の尊皇の精神に加ふるに、武士道といふ思想が鍛へ上げられた。

徳川三百年の平和は國內にありては三百諸侯によりて國土を縦に仕切り、士農工商の世襲的階級制度により、凡ての民族を横に釘付にした。徳川幕府は鎖國により海外との刺戟をさけ、内には縦に横に民族を仕切

を作り出すといふ事は、少なくとも日本民族に於いてその事例が立證されたのである。

日本の地勢が海によりて境せられ、地理的環境が民族を單一化すべく利便である事は論をまたないが、この民族は安逸に馴れない、絶えず進取向上の一途にため、凡ゆる國々の文化の長所を攝取し、消化するといふ事には、前述せしが如き人種的の歴史の外に別に大きな原因がある。

四、南北に延びたる島國日本

更にこの隔絶したる島國日本が東西でなく、南北にのびてゐるといふ事は、絶えざる風土氣候の變化の試煉をうけるといふ結果となつてゐる。

餘りに寒き地帯であれば、日光に恵まれぬ爲めに民族の發展がにぶくなる。又熱帯地であれば日光に恵まれすぎる爲め努力奮闘の活力がなくなり、生活の安

つて、狭い枷の中にはめこみ、現状維持といふ消極的政策により、三百年にわたつて平和状態を續ける事となつた。かゝる状態の下には國運の發展なく、延いて人口の増加も無かつた。醫藥衛生の幼稚なる事は死亡率を高くした。交通が不便であり天災の多い事は屢々饑饉によりて餓死者を生じた。しかし何よりも、かうした現状維持の下にありては多くの子供を養育することが出来ない。必然的に墮胎したり、嬰兒を殺したり所謂間引によりて人口の増加を抑へてきた。即ち享保六年徳川吉宗の時、はじめて國勢調査をはじめたが、その時の人口二千六百六萬五千人を算し、爾來いつも二千五六百萬人の間を上下し、明治維新にいたつたのである。

徳川三百年の現状維持の政策は日本民族をして海外發展の大事なく、機會を失はしめ、延いて全アジア民族の退嬰となり、白色人種の緯の下に抑留せしむるに至りたる大きな原因となつたのであるが、又、一面から見ればこの間に源平時代から吉野朝以後足利十三代

にわたり、内亂の連続による日本民族の絶え間なかりし疲労に休養を與へ、恢復期を作つたとも解せられぬ事はない。デニー教授は民族の更正には他民族の刺戟による場合と、人口の蟄伏状態より脱出して豫想外の勢力を發揚する場合とあり、日本は前世紀の半頃までは靜體的停止人口であつたがその後有史に稀れに見る人口の膨脹發展をとげたと云つてゐる。正しくその蟄伏状態は、その民族に多量の潜熱を作つた事は間違はない。それが黒船の渡來により長夜の睡りから眼を覺まし、こゝに發散をはじめたのである。

黒船の刺戟により封建制度が破れ、廢藩置縣となり士農工商世襲の制は撤廢されて國民皆兵となる。所謂王政復古のもとに、縦横の仕切りがとれて、三百年間貯へられたる潜熱が爆發した。明治天皇の下に、明治維新覇業のスタートが切られたのである。もし明治維新の革新なく江戸幕府時代のまゝで日本が國際場裡に顔を出して居たならば、今日までの如き日本の大躍進は思ひもよらなかつたと思ふ。

五、第一次歐洲大戰と小國の亂立

明治維新以後國運が如何に進展したか、これに伴うて如何に人口が増加したか、人口の増加は國運の隆興となり、國運の隆興はその激増する人口を消化する。その消化が多少共困難となり、就職難の聲が立ち失業その他の社會問題の起るころは、國運さらに飛躍し、日本の國土は膨脹を續けたのである。

しかし限りある地球に限りなく國土の膨脹は期しられない。一面に人口の密度極めて稠密なる國あれば又極めて稀薄なる國もある。もし第一次歐洲大戰の後に國の数が少なくなり、物と人の動きが自由になり、天然の資源が開發され、移住の自由がみとめられ、貿易に制限がゆるめられたならば、少くとも世界の平和は今日よりつゞき得たのである。

いふまでもなく交通の發達は、國際間の關係を密接にし地球は著しく狭められ、昔の内亂の時代が國と國との戰爭時代となり、更に數ヶ國と數ヶ國との戰爭の時代となつた。一國のうち在りても交通の發達は銀行會社工場凡てを通じて、次第に合同の氣運を作つてゐる。市町村の行政區劃も凡て合同の一途を續けてゐる。従つて第一次の歐洲大戰後には今まで數多く亂立してゐる國々を相當整理合同すべきであつた。然るに戰に勝てる聯合國殊に英、佛は歐羅巴以外にある獨逸植民地は全部分けどりし、多きが上に多く腹がハチ切れてきた。しかも歐洲ではスラブ民族と、ドイツ民族の力を殺ぐ爲めに、少數民族自決の名の下に、フィンランド、エストニヤ、ラトヴィヤ、リトワニヤ、ポーランド、チエッコスロヴァキヤ、ハンガリー等の國々及びダンチヒ市を新に作り上げた。而も戰後の貿易は關稅の障壁を高め、或はバーター制、爲替統制等により物資の動きは抑制された。アメリカ合衆國は日本の人口の密度に比し十分の一なるに拘はらず白人に移

民の制限をはじめ、日本民族は黄色人種なりといふので全然閉め出して移住を禁止した。廣大にしてしかも人口の極めてうすきカナダ、濠洲などまでも一キロ平方に一人二人といふ稀薄なる人口なるにもかゝはらずいたるところ有色人種の移住を絶對に禁止した。こゝにおいて、歐洲自體に現状打開の聲が起らざるを得ない。ましてや有色民族に於てをやである。

六、歐洲に於ける聯合運動

第一次の歐洲大戰により軍需品の自給自足が絶對の要件であるといふ事が痛感された。それまでは各國各々その長所とする産業の開發による事とし、相互に有無相通すればよいとした。所謂國際分業を原則としたのであるが、戰爭は唯第一線のみでなく國を擧げての總力戰である以上は、國際分業に俟つ事が出来なくなつた。さきにドイツは聯合軍を敵として四ヶ年半の長

きにわたり戦を交へ、しかも東はソ聯に、西はフランスにドイツの軍隊は相手國に侵入し、敵軍をして一步もドイツの領土間に入れなかつた。即ち戦に於いてはドイツは優勢を續けしに拘はらず、聯合軍の經濟封鎖の爲め通信は杜絶せられ、物資輸送の道はたたれ、軍需品も、食料品も、共に不足をつけることとなつた。かくの如くにして四年半にわたり、戦線に於いて二百萬人の壯丁を失ひ、更に食料品封鎖の爲め國民は榮養不良に陥り、遂に八十萬人の餓死者を出すに及び、ドイツは降伏を餘儀なくするに至つたのである。

従つてこれから一國としての看板をあげてゆく事は中々むつかしくなつてきた、一面には自給自足の必要を痛感すると共に、在來より存立した小國、又新に生れ出でたる多くの小國は將來孤立して生存を續ける事の至難なることをしみじみと感得してきたのである。バルチックの沿岸に新に生れ出たラトヴィヤ、リトワニヤ、エストニアの如きはいづれも面積は九州に毛の生えた如きものであり、三者合してその人口は東京市の

人口に相似たる程度であるから、ソ聯の壓迫を逃れる爲めにバルチックの同盟といふ様なものが屢々問題に上つた。又バルカン一體の國々も相互の確執紛擾は唯強國の餌食となり、互に災害を招くばかりである故に比較的習慣を同じくし、互に言語を解し利害關係を同じくする以上、バルカンユニオンを作つて相互の安定を圖ることなし、一九三〇年、トルコ、アルバニヤ、ブルガリヤ、ギリキ、ルーマニヤ、ユーゴースラビヤの六ヶ國の代表はイスタンブルに會した。その時、トルコのケマルバシヤ大統領は次の如く述べてゐる。

「われ等は過去の恨みを投げすてて友誼を結び偉大なる文明を實現する義務がある。われ等は中央アジアに同じ祖先を有し、遠き昔に黒海の南方及び北方よりバルカンの土地に來たのである。同じ血を享けたる我々は數世紀にわたる過去の反目より、今や昔に存在したりし血族の友誼をもつて互に協力すべきである。」

かくの如く歐洲の相隣り相近きものは、互に協同す

べき必要を體驗してゐたが、バルチックの三ヶ國の如きは、かりに一つの國となつても、なほかつ貧弱であり、現に今次の歐洲大戰に、ルーマニアの如きは、否應の文句をいふ間もなく、ソ聯の下に其一部は併合された。又バルカンの六ヶ國の面積は一五六萬平方斤にすぎず、イランやメキシコよりも狭く、その人口は六三〇〇餘萬人にして我内地の人口よりも少ない。而も第一次の歐洲大戰によりドイツ側に味方したブルガリヤとトルコは多くの土地を失ひ、ルーマニアとユーゴーは馬鹿に大きくなり、ブルガリヤとハンガリーは共に失地恢復の聲を擧げてゐる。バルカン諸國の間には失地回復と現状維持の利害相反せるものがあり、かりに聯盟又は合同をつくるとしても、これが中心たるべき強き力を必要とする、しかもこれ等の國々はいづれもドングリの脊くらべて、強き結束を見ることのできな。既に今次の戦に入りてよりアルバニヤは伊太利に一気に吸収せられた。ルーマニアよりソ聯は先に失ひたる土地を實力を以て文句なしに恢復した。ドイツ、

イタリーのルーマニアへの壓力は又ルーマニアをしてハンガリーとブルガリヤに對し、それら失地を返上すべく餘儀なくされた。ユーゴーも崩壊して又同じあとを踏んで來た。

七 カレルギー伯の汎歐運動

問題はもはやバルチックの沿岸であるとか、バルカンの列國であるとか、それ等の場合を超越して、結局ヨーロッパ全體が手を握らねばならぬといふ事になつた。彼のクーデンホーヘ・カレルギー伯の汎歐運動は一九二三年頃より歐洲の思想界に大きなセンセーションを起した。又フランスのブリヤンは歐洲聯合の覺書を一九二九年國際聯盟總會に提案をしてゐる。

歐羅巴からアジアにわたり桁ちがひな大きな人口と面積を持つソ聯、及び世界に日没の地なしと云はれる英國とをのぞき、歐洲の大陸には二十有餘の國が軒を

並べて居る。ソ聯をのぞいたヨーロッパはその面積五四〇萬平方杆、人口十億を算するが、北米合衆國が七八三萬平方杆の面積、一億二千二百萬の人口を包容せるに比べてあまりにも國の數が多すぎ、人口の密度が高すぎる。もとより歐洲は世界文化の中心地として世界鐵道の三分の一を有し、百萬トン以上の商船を持つ九ヶ國を抱へてゐるから、さう簡単に衰頹するものではないが、これを北米合衆國と比較する時は、又ソ聯將來の發展、東亞に於ける日本、滿洲の提携等にかへり見るときは、歐洲各國は聯合して協同一致の行動に出でねばならない。工業化にすゝむアジア、關稅の障壁にかくれ輸出國と化しつゝある米國、大きなXであるソ聯に對し、歐洲の各國は權力平均の傳統の下に互に抑制しあつてゐては、共に崩潰の一路をたどる外はない。

カレルギー伯の汎歐運動には次の如き意見を述べてゐる。

英國の世界統制の國際的機關は國際聯盟であり、勞農口

れたが、次第にその範圍を擴げて、南部アジアからアラビヤ、トルコ、アフガニスタン、チベット、シヤムにまで及んで來た。

日本のモンロー主義の實行範圍は最初の間は滿洲に限られ、合衆國の中米、英國の埃及に對するのと同じ程度であつた。唯日本の支那に對する態度は、合衆國の南米、英國の南亞細亞に對するよりも臆病であつたが、世界大戰の好機會を捉へてその態度は露骨になつて來た。世界の諸國も英、米、日のモンロー主義に對してはすでに默示的に承認されてゐる。

ソ聯のモンロー主義は地球の一部を目的とするものに非ず、全世界を目的とする點に特色がある。全人類の革命化ソビエツト化に存し、全部をソ聯に合併せしめんとするにある。

かくの如き主張の下にカレルギー伯は汎歐運動を絶對の條件とし、それには、獨、佛相互に憎惡の感情深刻にして兩國民の間に親愛の感情の生れるには少くとも數十年を要するであらう。しかし今日はさういふ時まで待つて居れない。一日も早く歐洲大陸が聯合しこ

シアの世界統制の國際的機關は第三インターナショナルである。國際聯盟は白人種の優勢を維持する聯盟、世界革命を防止する爲めの聯盟、植民地主義を維持する爲めの聯盟である。勞農ロシアは第三インターナショナルによりて國際聯盟に對抗し、更にソ聯を盟主とするアジア聯盟の締結を企てて居る。

従つて英國はアジアの統制には日本の援助をうけ、アフリカの統制には佛の援助をうけ、ロシアを屈服して經濟的植民地とする。人類は皮膚色によつて四種に分け、アングロサクソンによりて率ゐられる白人種には世界の支配權を與へ、褐色人種は永久に白人種の監視の下に置き、黒色人種は白人種の支配下に置き、黄色人種の一部には世界支配權の一部を分有せしむ。但し黄色人種は將來の植民地帯より遠ざからしめる。

以上はカレルギー伯の英國及びロシアのプログラムであるが、更に世界列強のモンロー主義につき次の如く論じてゐる。

英國のモンロー主義は初めはスエズ運河地帯にまで行は

れに英米が加はつて三角同盟をつくる。この三角同盟が新世界を組織する基礎となり、これに第四國として日本、第五國としてソ聯、第六國として最後に支那を加へる、此の如くにしてこの六ヶ國同盟によりてはじめて永久的世界の平和は、地上に實現すべしと説いて居る。

いふまでもなく是等の意見はまだ國際聯盟が多少の情力を持ち、日本もその聯盟の一員たりし時代の話であるから、今では一場の夢である。世界政局の動きの夢の如く複雑にして常なきを忘れてはならぬ。

八、大英帝國領土の將來

今や日本は支那と戦ひ、獨は英と戦ひつゝある。こゝに大きな問題は、英國の將來である。南北米を通ずるブロックも、歐洲を聯合するブロックも、東亞の各國を聯合するブロックも、又ソ聯邦についても、何れ

もその地域が相つながら相隣り相近よつて居ることと大體において相似たる人種によりて組成されて居る事が見られる。ひとり英國に至りては同じ英國人を主とせる植民地とてもカナダは大西洋をへだてて居る。濠洲及びニュージールランドは餘りにもその母國からかけはなれてゐる。その他南阿、印度、ビルマ等は、土地が隔つてゐるのみならず、人種宗教等においても著しき相違がある。

現に獨と英は戦つて居る。何れが勝つか何れが負けるか、又その形勢が如何なる程度において平和の克復を來すか、すべては疑問である。しかし地理的に又人種の上に現在の英國の立場が不自然であるといふことは事實である。従つて今日の英のプロックは何れの時かそれは分らないが、變形し解體すべきで、現状のままで繼續さるべきものではない。

英國が早く又ひどく負けたならばその分解も早くなる。然らざればおくれるであらう。カナダを例にとつても、カナダは英吉利と海を隔てて居るが、同じ英民

族を主とする合衆國とは地つづきである。何れの時か分らないが、地圖の上から見てカナダは合衆國に合併さるべき運命を持つてゐる。いはんや土地がはなれ人種の異なる他の英の植民地などは、現地における人口の増加とその民族の質の同とにより、何日かは英國から相次いで獨立すべき運命から免れがたない。

九、モンロー宣言と其前後

筆者が見たる世界の將來と日本の地位を述ぶるに先立ち、いはゆるモンロー主義につき検討せねばならぬ。モンロー主義は一八二三年の末、時の北米合衆國大統領ゼームス・モンローがその覺書によりて宣言したる政策である。

由來北米合衆國はヨーロッパに干與せず孤立すべしといふ事はワシントンが退職せる時に聲明したることばである。一七八七年アメリカの獨立に次いで、フラ

對し、共同の反對聲明を發せん事を提案した。

その内容は英米何れも植民地を自ら西半球に於いて新に取得するの意思もなく、同時に植民地が他の何れの列強に移讓さるゝ事についても無關心であり得ないといふのであつた。この共同提案には大統領はじめ賛成であつたが、獨りジョン・クインシー・アダムスは之に反對した。それは英國の眞の目的は歐洲神聖同盟諸國の西半球への干渉に反對すると同時に、我合衆國の自由を抑制し將來我領土の獲得から束縛するに在るが故であつた。故に一面に共同の宣言をやめ同時に合衆國のヨーロッパに干與する意思のない事を明かにする事を特色とし、その意見が十二月の議會にモンロー主義の宣言となつたのである。この覺書は、

一、アメリカ大陸は最早ヨーロッパ諸國による新植民地獲得の對象として認めらるべきに非ざること。

二、ヨーロッパ列強のみに關聯して起るヨーロッパの戰爭には、米國は何等の關心を持たず、將來もヨーロッパ問題に米國の參與することはその政策と一致する所に非ざ

ンスの大革命となり、次いで南米の諸國は相次いでスペインから獨立し、革命の空氣は歐米の天地を動かしした。その後ナポレオンに對抗し遂に之を克服したる神聖同盟の協同戦線は、革命運動の重壓にむかつて展開せられ、アメリカ大陸に對しても、新に獨立せる南米の諸國を再びスペインの屬領に引き戻し、フランスは中米に進出する、又ベーリング海峡を渡つてアラスカに進出したるロシアは、北緯五十一度までは我勢力圈内なりとし、カナダより加洲へ南下の勢を示してゐる。當時まだ微力であつた合衆國が歐洲大陸と利害を異にしたる爲め、こゝに敢然として歐洲列國にモンロー宣言を聲明する事となつたのである。之を詳説すれば歐洲動亂の最中に英國は新に獨立したる南米の各國を相手に貿易關係において多大の収益を擧げたるが故に、再び南米の諸國が歐洲列強の支配下となる事を不利としたのである。従つて一八二三年八月中旬英國のカンニング外相はアメリカへ交渉してヨーロッパの神聖同盟の列強が西半球の新しく獨立したる國々への干渉に

ること。

三、神聖同盟の如きヨーロッパの制度の西半球に延長せしめるが如き政策は、同半球における平和と安寧を害するものなりと思惟すること。

四、ヨーロッパの列強が新に獨立を宣言せるアメリカ大陸の諸國を壓迫し、或は何れの方法によるを問はず、彼等の運命發展を支配せんとする目的を以てする干渉に對しては、米國への非友好的意向の表明なりと認むること。

即ちモンロー・ドクトリンは當時の合衆國としては西半球に干渉せしめないといふ消極一點張りのものであつた。

一〇、一方的積極干渉に轉向したモンロー主義

しかし時代の動きは著しく合衆國の勢力を高め、モンロー主義はいつの間にか幾多の史的展開を見る事と

も、事實破らるゝ事の出来ない地位にある。

次で一九〇四年、大統領セオドール・ルーズヴェルトにより大きな杖（ビッグステック）解釋として、國際警察權行使の必要を叫ばれる事となつた。即ち第三國による干渉によらなければなされない程度にまで秩序の亂れたるラテンアメリカの國を見出したる時は、モンロー主義によつてヨーロッパの干渉にはまかされない、さりとてそのまゝほつてはおけない、その時は全アメリカに指導的地位を持つアメリカが、すゝんで國際的警察權の行使を餘儀なくせしめるであらうといふ事である。

その後一九二七年、大統領クーリッジは米國市民の身體と財産は外國にありといへども合衆國の一般領域の一部分であるときまで宣言されたのである。一九三一年、フーヴァー大統領の時から多少遠慮氣味になり、現大統領のルーズヴェルトもラテンアメリカに對する武力干渉に反對し善隣外交の宣言もあつたが、事實今日ではヨーロッパよりラテンアメリカに加へられる干

なつた。即ち合衆國は西へ發展を續けて太平洋沿岸にまで及び、一大世界的強國となるに及んでは、一八六七年地續きではないが北米のアラスカを買収し、フランスよりルイジアナを、スペインよりフロリダを求めテキサスをメキシコより奪ひ、更に加洲及びニューメキシコを併呑し、一八九五年より一九〇五年の十ヶ年間は米西戦争によりてスペインを西半球及び太平洋より驅逐し、ポルトリコを合併し、キューバをスペインより解放して其保護とし、フィリッピンを分捕しハワイを合併し、パナマをコロンビヤより獨立せしめ、パナマ運河を開きて東西兩洋をつなぐ事となつた。かくの如く擴大せられたる合衆國は大統領クリブランドに至り、英國對ヴェネヅエラ問題が起りし時オルニ一國務長官をして、一八九五年七月いはゆるオルニ一優越的利益の原則の發表となつた。それは、

合衆國は西半球における事實上の主權者の地位にあり、その命令はそのむけられたる對象にとつては法である。米國は覇者として他の如何なる列國或は國々の聯合に對して

涉の危險時代はすぎ去り、ラテンアメリカの安定状態が確保される事となつたから、モンロー主義の宣言當時の如く、他國がアメリカに干渉する事が殆んど考へられない、今日は合衆國が他の全米洲諸國へ自からの干渉にあきたらず、進んでアメリカは東洋にもヨーロッパにもその干渉の度をすゝめて來たのである。

千八百四十八年、ハンガリーがオースタリーに對し獨立運動を企てたる時は、合衆國のテラー大統領はハンガリーの革命軍に同情的態度を示したのである。其後パリーの宣言に加盟しヘーグの萬國平和條約に加盟し、殊に第一次の歐洲大戰には參戰して六萬人の米國青年を犠牲とし、五百億弗の戦費を費したのであつた。千九百廿一年には合衆國主催の下にワシントン會議を開き、海軍制限條約、四ヶ國條約等の成立を促し、千九百廿四年にはローズ案の採用、戦後歐洲の經濟復興等には積極的の活動を續けた。爾來東洋には門戶開放の名の下に絶えず干渉の手を弛めず、歐洲にありても東洋にありても英國及び中華民國に極めて露骨なる援

助を續けてゐるが如き、合衆國そのものが世界列強の間に重大性を帯び、他國より干渉誘發せるが如き事實もあるが、何れにして、合衆國のモンロー主義は他國よりの全米洲への干渉は認めないが、自らは東洋に歐洲に否全世界に絶えず干渉を續けてゐる。アメリカ自體としては誠に都合がよいかも知れぬが、相互的に他國がそれ／＼にモンロー主義並によらんとする時には衝突せざるを得ない、その時は之を否定し、之に反抗の態度をとりつゝある、全く自家培養得手勝手の甚だしきものといはねばならぬ。

一、歐米の將來とアフリカ

世界の將來を案するに、相近きもの、相似たるものが小異を捨て、大同につき、次第に大なるユニツクを作る。軍需品及び生活必需品の自給自足を保障し、しかも多數の人々と廣大なる地積を持つブロックの對立

し、より有利なる立場におかるべきはずである。しかしすでにあまりに満喫せる英國として、その全世界における地理的分布と、人種の異同などを思へば、たとへ戦に勝つもなほ將來其勢力を持續するだけに非常なる苦心と努力を要すべきである。若しそれ戦敗に終らんか、その程度にもよるであらうが、さきにドイツから取り上げた植民地はもとより、その他にも相當新規に割きとられるばかりでなく、其一部は獨立の形をとる事にならぬとも限らない。それには土人の獨立もあらう、又現地の英人による獨立國の開拓も考へられぬ事はない。

何れにしても豊富なる資源を開發せず、廣大なる領土に他國人を入れず、しかも一面持たざる國の人口の密度益々大なるに於いては、如何にしても現状の維持は不合理であり不自然である。

ソ聯はヨーロッパとアジアに、十九ヶ國に境して二千百七十七萬平方呎の土地と一億七千の民衆を包擁してゐる。守るに易く攻めるに難き地理的特異性と

する時代となる事は疑ひを入るゝ餘地はない。

先づ南北アメリカ即ち汎米ブロックは地理的にはうなづかれる。ただ將來アメリカ以外の歐洲の國々のアメリカにおける領土が舊によりて存在するか否かに問題の餘地がある。現にフランス、和蘭其他の米國に於ける屬領が今回の戦争の結末に於いて如何に解決さるべきか、殊にカナダは現状のままか、然らざれば獨立國となるか、それにしても英母國が移つてくるか。更に合衆國に併合されるか、何れかの運命をもつてゐる。更に長き歲月を経るに従ひ南米の諸國特にブラジル、アルゼンチンの如きはどこまで發展してくるか、是等地方における支配階級として勢力ある伊太利殊に獨逸の民族が、北米に對し南米の地位を何處まで高めて行くか、とにかく南米は將來次第に發展の歩を進めてゆく、そこで亞米利加大陸よりなるブロックが北米合衆國の指導的地位により、いつ／＼までも繼續されるかどうかといふ問題が残されてゆく。

英國が今次大戰の結果勝利を占める時は、現状に比

スラウ民族の人口増加率の大なると、未開發の資源に富める事は、世界列國の間にありてまさしく大なるXである。東に延びんとし、更に南下して印度洋に出でんとするソ聯は、汎歐ブロックと大東亞ブロックとの間に介在し、將來の歴史の上に少からぬ頁を占めるものであらう。問題は兩立を許さないドイツと境を接してゐる。こゝに一面又ソ聯の分解といふ事も考へられぬ事はない。

ヨーロッパは、ドイツ、イタリーにより新秩序の建設が唱へられてゐる。ドイツ、イタリーが戦に勝つとき、戦後のヨーロッパは全然在來と面目を一變するであらう。もし前回の歐洲大戰の後の如く、唯各國の國境が長くなつたといふだけでは、再び第三次の歐洲戦争を見る外はない。此度は歐洲新秩序の建設となり、ドイツとイタリーが其指導的地位に立ち、歐洲列國の聯合のやうな形が出来上るであらう。

ヨーロッパ全體の人口の密度は既に著しく高い。先にアメリカのフーヴァーが食糧委員長としてフランス

にわたつた時、歐羅巴の過剰人口一億萬人と評價した。フランスの蔵相カイヨも歐洲の人口過剰につき次の如く論じてゐる。

「千八百年世界の人口は六億八千萬人であつた。それが千九百十三年に十七億五千萬人となつた。僅か一世紀の間に世界の人口は倍加したのである。更にヨーロッパの人口は千八百年一億八千萬人であつたが、千九百十三年に四億五千萬人に激増してゐる。かつてローマ帝國統治後百三十年間に僅か五千萬人しか増加しなかつた事を思へば、今次のヨーロッパの人口増加は餘りにも著しく。正に食糧問題にまで直面してゐる。一面暗黒大陸といはれるアフリカは三千万方秆、その人口九千萬人、一平方秆の人口五人にすぎざるを以て、アフリカを歐洲の過剰人口のハケ場とし、その苦境より救ふべきである。」

カイヨの意見に對しアフリカの面積は大なりと雖もサハラ其他の沙漠地帯が多いから、歐洲人の移住に適しないといふ聲もある。しかしエチオピア其他の地

帯の如く土地の標高が高い爲めに、存外凌ぎ易い地點も少くはない、又アフリカの沙漠は將來地中海の水を引き入れる事により、その地味、氣候、風土を著しく緩和し改良する事が出来る。

ヨーロッパにはソ聯を除いてもバルカン方面から北へかけ相當のスラブ民族があり、それに獨逸民族・ラテン民族がある。永く島國に上れるアングロサクソン民族もある。國としてもドイツ、イタリー、フランス及び海を隔て、イギリスあり、それ／＼輝かしき歴史を持つてゐた。従つて長き將來にわたりて中心たるべき指導的地位が、何れの國によりて保持せらるゝかそれは大きな問題である。現状の限りには獨逸民族はその數と質に於いて一等地を抜いてゐる。イタリーも人口増加につとめてゐるがドイツに及ばない。百年後にはイギリスの人口は半減され、フランスの人口は三分の一となるであらうといはれてゐる。もし英佛二國が今次の歐洲大戰によりドイツからうけた手厳しい打撃により、こゝに覺醒し、發憤し、在來の如き人口没落

の一途をたどる道筋から一大轉回をすれば、そこに前途に光明を見出すであらう、さもなければ、イギリス、フランスの將來には期待を持ちがたい。

二、大東亞新秩序の建設

東亞にありては、その天地は餘りに廣いが、獨立國は日本と滿洲と支那、タイ國の四ヶ國にすぎない。いはゆる大東亞の範圍がいづれまで含むかは、見る人によりて異なるであらうが、筆者は次の如く解釋してゐる。

國名	面積	人口
帝 國	(千平方秆) 六七五	(千人) 一〇〇九四二
滿 洲 國	一三〇三	三六九三三
中 華 民 國	一〇三六一	四四六六〇五
タ イ 國	五一一	一四四六四
英領マレー	一三二	五二五三

英領ボルネオ	二一一	七七八
佛領印度支那	七四〇	二三〇三〇
蘭 領 印 度	一九〇四	六〇七二七
フィリッピン	二九六	一三六八五
濠 洲	七七〇四	六九三〇
ニュージーランド	二六七	一六〇四
委任地ニューギニア	二四〇	五四八
其他なほ多くの植民地や島々があるが、大體以上主		
だつたものだけを加算すると、		
總 計	二四三四六	七一四九九

となる。

大東亞共榮圈のブロックについてはこゝに記述すべきことがあまりに多いが、際限がないから、日華ブロックの特殊性と、南洋一帯の重大性を要約して述べる事にする。

阿片戦争の頃から歐米各國は支那を半植民地として取扱つた。彼等の支那に求むるものは彼等の商品のマ

マーケットといふ事であつた。彼等は租界地をつくり治外法権を握り、その輸入を便にするべく關稅率を引き下げる。支那に投資するときは、市場の擴大に便ならしむる鐵道路、其他の土木的建設に力を注いだ。之に反して日本の支那に求むるものはマーケットより主として支那の資源の開發にある。羊毛、砂糖、小麥、棉花、石炭、鐵等々の資源の開發である。此資源開發は歐米諸國にとりては、その母國又その植民地とその利害が正面衝突するのである。

棉花は米國及び印度に對立し
羊毛は濠洲と對立し

鐵は米國、英國、印度に對立する

従つて日支提携といふ事、支那の資源開發といふ事は歐米にとりては經濟的脅威である。それだけ新東亞の建設にその重要性を見るのである。そこにも日支協調の必然性が存するのである。

さらに南洋方面の必要性はその熱帯地たるが故に特殊産物に依存する事が多い。あの天恵に恵まれすぎて

ある米國すらも猶、我等はゴムと錫に於いて蘭印に關心を持つものなり、と聲明せしめてゐる。ベルリンの「ベルリン・ローマ・東京」誌上には、

「アフリカは歐洲の結婚に對する持參金と稱すべきで、その經濟開發と通信、交通路の建設は歐洲の最大の喫緊事であり重大問題であり、此問題の解決こそ歐洲獨立への巨大なる第一歩を爲すものである。」

と云つてゐる。こゝには詳説する暇もないが、南洋方面に歐米列國が既に關心を持ち手を染めてゐるといふ事實は、その重要性を裏書するものであつて、我等は既にアメリカブロックに中米南米を、歐洲ブロックにアフリカを結びつける事を認むると共に、南洋一帯の大東亞ブロックに包含さるべき事は絶對であらねばならぬ。それだけにソ聯としてはもし健在で發展するものとせば、そのアフガン、イランより印度への進出といふ事も又考へられる。従つて交通關係に於いてその資源の豊富なる點と、風土、氣候等の狀況より、南洋から中央アジアへかけての一帶が、世界列國の注視の

的となり 將來の歴史にエポックを作る大きな舞臺であり噴火口である事を否み能はないとおもふ。

一三、回教國のプロック性

以上述べた各地域の外に印度及び中央アジア一體の回教諸國がある。その主なる國を擧ぐれば次の如くである。

國名	面積	人口
トルコ	七六、二	一六八〇
アフガニスタン	六五、〇	七〇〇
スードアラビヤ	一一〇、七	五二五
イエーメン	一九、〇	二五〇
ブーダン	五、〇	二五
フランス委任統治領シリヤ及リバ	二〇、〇	三六〇
イラン	一六四、三	一五〇〇
ネパール	一四、〇	五六〇

イラク	三〇、二	三六七
オーストリア	二一、五	五〇
英國委任統治パレスティン及びトランスヨルダン	一一、七	一七三、五

以上は中央アジア方面の回教諸國で之を合計すると

合 計	面積	人口
合 計	五三七、六	六一九〇、五

更に境を接せる回教國として、
エチオピア 一〇〇、〇 一五九〇、四
を加ふる時は通計次の如くとなる。

合 計	六三七、六	七七八〇、九
-----	-------	--------

この他回教徒はアフリカの各地に、ソ聯の南方一體に、印度よりマレー、蘭印各方面に通じて擴がつてゐるから、回教徒を標準として、こゝに中央アジアのブロックが出來得る可能性がある。しかし現状の限りでは回教徒は現代の高い文化のレベルに比べて風俗習慣を異にし、宗教の政治、經濟、社會に及ぼす力があまりに強いだけに、現状の如くんば、これが二つのブ

ロックとなり對立する事は想像出来ない。しかし歴史を週ればこの民族はかつては、サラセンの高い文化をつくり上げ、スペイン、ポルトガル方面に進出し、かつては、東ローマ帝國はバルカン一體の諸國に君臨した。第一次の歐洲戦争にもトルコは聯合軍を相手にその武名をあげ、殊にケマルパシヤはカリフもソルタンも廢止し、婦人のヴェールをとり、男子の帽子をやめ國都はイスタンブルよりアンカラに遷し、一面には訓練せる兵士を鍛へ、一面にはトルコの言葉を表はせるアラビア文字を一擧にしてローマ字に改め、他の長を取り己れの短をすて、銳意國運の向上革新に邁進したのである。此新興トルコの氣分になり、凡ての回教國を同じレベルにまで革新し得たならば、そこに新プロックの形成も必しも夢ではないであらう。

回教のブロックには前からイギリスが誘導支援してゐる、獨、伊國の近東侵略に抵抗する爲めの全アラブ民族の糾合といふのが、イラン、イラクは嚴正中立を守り、サウジアラビアは之に反對してゐる。し

かし英保護國トランスジョルダン王國のエミール・アブデュラは此運動の中心となつてエジプトと連絡を通じつゝあるといふ。いづれにしても近東は歐洲の戦雲に卷かれざるをえない。近くそこに幾多の波瀾曲折を見る事であらう。

之を要するに將來是等の回教諸國と、

英領印度	面積	人口
	(千平方)	(千人)
	四六八四	三五二八三七

と相連りて、この一體が蘭領印度まで通じ、世界のプロックの争覇戦として相角逐する國際中央の舞臺と見らるべき状態になる事は、地理的に資源より見ていえない事態であると思ふ。

一四、大東亞に於ける日本の地位

以上述べたるところにより是等のブロックは何れも

相當の土地と人口を必要とし「相近く相似たるものが相寄り、更にその中核を爲すべき強き力によりて、結成せらるべき事が理解されると思ふ。

過般成立したる日獨、伊三國同盟條約は、單純なる同盟條約の外に、今までにない特殊的内容を持つてゐる。即ちドイツとイタリーは大東亞に於ける新秩序の建設に日本の指導的地位を認め、且つ之を尊重する事を聲明し、又日本も歐洲の新秩序の建設に獨、伊の指導的地位を認め、之を尊重する事が規定されてゐる。

いふまでもなく大東亞では事實日本が指導的地位に立つてゐる。現代の支那事變については合衆國は日本は侵略である、我等のモンロー主義と大きな隔りがあると云つてゐる。如何にも日本と支那とは戦つてゐる、併し今まで蒋介石が數十年戦を續けてゐた共産軍と、西安事變によりて百八十度の轉向をなし相提携してより、絶えず打倒日本を標示し抗日毎日の運動を續け、國民黨大會、各地の學生大會、其他の集會には、常に打倒日本を宣言し、日本と戦ふべしと聲明してきたの

である。勢の趨くところ戦争なしには濟まなかつたのである。日本政府は早くより領土的野心の無い事又賠償もとらぬ事を聲明し、日華兩國國民は東亞新秩序の建設の爲めに手を携へて進むべき旨をくりかへして來てゐる。

汪兆銘氏の和平救國も同趣旨である。我等東洋民族は世界の大勢を通觀し、いはゆる大東亞共榮圈の共存共榮につとめるべきである。中華民國はじめ大東亞各國の資源を開發し、白人の枷の下にある民衆を解放することが我等共同の目標である。恰も米國のモンロー宣言をした直前のラテンアメリカの各國がスペイン、ポルトガルに對し相次で解放されるべく運動を起し、遂に獨立した様な同じ足並を東亞に於て、今頃になつてやうやく其一步を踏み出さんとしてゐるのである。我等はアメリカのモンローの如く他の干涉は拒否したい、しかし他に向つての干涉を合衆國なみに試みようとは少しも考へてゐない。

北米合衆國は現在一平方杆に十六人の人口の密度を

もつてゐるが、その昔まだ一層一層人口稀薄なりし時代から、凡ゆる手段を以て領土の擴張につとめてきた。さうして今は他國民の移住は制限する、日本人に至りては絶対に禁止する、日本人を白人並に制限されてからが一年に百人内外しか移民できない、それにも拘らず黄色人なりといふので閉め出してゐる。日本一億の民衆はアメリカのテキサス外二三州位の面積の中に息づまりつゝあるのである。單純なる物理學、生理學上から合衆國民に、人口の上から日本を見て自ら省みよと云び度い。さらに吾等はモンロー宣言時代のアメリカの眞似をやつと今頃になつて追うてゐるのである。しかしくりかへしていふ、アメリカが歐洲や東洋に干渉するが如く、我等は歐羅巴やアメリカに何等干渉しようなどとは夢にも思つてゐないのである。

大東亞の指導的地位は日本が何處までも續けて行かねばならぬ。それはいかなる時いかなる處でも最も事實優秀なる民族によりて始めてとるべく又とりうべき使命である。日本民族は大東亞の凡ゆる民族の集りて

新秩序建設に邁進するに至れるは日本國民の以て本懐とする所なるべし。

この意味において本日茲に盟邦日本國民に對し深甚なる祝意を表し得るは余の最も欣快とする所にして、余はドイツ、イタリー兩國と共にその生存權のため力闘しつゝある日本は、必ずや遺憾なくその傳統的武士道精神を發揮しその生存圈の安定を確立し、輝かしき平和を實現すべき天賦の大使命を達成すべきを信じて疑はざるものなり。

此上詞を添へる要は無い。建國茲に二千六百年萬世一系の皇室をいただいてゐる日本民族、いまだかつて外敵に汚されし事なき日出づる國の民族は、どこまでも大東亞の指導的地位に根を据ゑて居らねばならぬ。

もとよりいつの世いづれの處にても人口の數に於いて多く、質に於いて勝れたるものが、榮光ある指導的地位に立つべきである。我等は常にその尊い使命を念とし、終始倦まず怠らず努力を續け、誇らず驕らず安んぜず、絶えず我短所を捨て、他の長所をとり、不撓不屈日進月歩向上の一路に不斷の邁進をつづけなければ

あり、それが鍛へられて渾然たる日本民族となつた事は、當初に委しく述べたるが如くである。その後の日本はどうした道を経て來たか、筆者が此原稿を筆にせる昭和十五年十一月十六日の新聞は、三國條約の成立と紀元二千六百年の祝典を機とせるベルリンの日本大使館へ、ヒットラー總統が親しく臨場し、我皇室の榮を祝し奉る挨拶の後次の如きメッセーヂを手交したと傳へてゐる。

余は茲に皇統連綿二千六百年を迎へたる友邦日本國民に對し衷心よりドイツ國の祝意を述べんとす。

余は日本がこの長期間に互り日本帝國の建設につき完遂せる事績を想起し、ドイツ國民と共に讚歎措く能はざるものなり、即ち日本國民は未だ曾て外敵をしてその島國の土をも侵さしめたることなく、斯くて數千年來民族の純潔を保持し來れるは、寔に日本國の一大誇りといふべく、更に日本の東亞における勢力並びに世界における地位が不斷に向上し、今日東亞の指導的國家として世界のその地域における指導的諸國家と共に、より良き且つより正しき世界

ばならぬ。

世界は益々狭くなりつゝある。こゝにそれらのブロックが完成せられると共に、各ブロック間の接觸が益々多くなり、又密接となる。經濟の戰に、武力の戰に、ブロックとブロックが互に角逐する時も來るであらう。此の如くにして地球上凡ての國凡ての民族あげて向上の一路を邁進して行くであらう。又さうあらねばならぬ。世界の民族は皆競ふてその先頭を切るべく終始一貫躍進をつづけらるであらう、その時に他におくれぬよう先頭を切るべく日本國民は更に不斷の努力をつづけ行かねばならぬ。

昭和十六年十一月七日印刷
昭和十六年十一月二十日發行

(全四卷定價一圓八十錢)
(單冊定價一圓九十錢)

下村南海選集



昭和十六年十一月五日 卅五版迄印刷完了
昭和十六年十一月十五日 卅五版發行

刷

著者 下村南海
發行所 東京市小石川區小日向臺町一ノ四一
東京市高島政衛閣

東京市小石川區小日向臺町一ノ四一
電話大塚六二四八・六四二五
振替東京一七四四三番
東京市板橋區板橋町三ノ六四
帝都印刷株式會社
代表者 長谷川陸士
印刷所 東京市板橋區板橋町三ノ六四
帝都印刷株式會社
長谷川陸士
(會員番號 117.506番)

東京市神田區淡路二ノ九
日本出版配給株式會社

配給元

刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既
大倉 邦彦選集 (第八卷)	友松 圓諦選集 (第七卷)	帆足理一郎選集 (第六卷)	本莊 可宗選集 (第五卷)	秦 賢助選集 (第四卷)	蓮沼 門三選集 (第三卷)	石丸 梧平選集 (第二卷)	井上哲次郎選集 (第一卷)
刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既
室伏 信高選集 (第十六卷)	武者小路實篤選集 (第十五卷)	永田秀次郎選集 (第十四卷)	鶴見 祐輔選集 (第十三卷)	谷口 雅春選集 (第十二卷)	高神 覺昇選集 (第十一卷)	高島 米峰選集 (第十卷)	加藤 咄堂選集 (第九卷)
刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既	刊 既
下村 海南選集 (第廿四卷)	三宅 雪嶺選集 (第廿三卷)	江原小彌太選集 (第廿二卷)	小林 一郎選集 (第廿一卷)	山田 忍三選集 (第廿卷)	倉田 百三選集 (第十九卷)	桑本 嚴冀選集 (第十八卷)	上野 陽一選集 (第十七卷)
<p>全廿四卷 預約定價 圓一十八錢 單冊分賣 定價 圓一十九錢</p>							

④



